

神奈川県立県民ホール本館再整備 基本構想（素案）

令和 7 年〇月

神奈川県

目 次

はじめに（基本構想策定の背景・趣旨）	p. 1
1 県民ホールを再整備することとした背景及び基本構想策定の趣旨	
第1章 文化芸術及び文化施設の動向	p. 3
1 上位計画及び関連計画の整理	
2 全国の主要文化ホール・神奈川県内のホール・アリーナ・ギャラリー等の状況	
3 文化芸術及び文化施設に関する長期的な動向と県の対応方針	
第2章 県民ホールの現状と課題	p. 13
1 現在の県民ホールの概要・利用状況・利用者属性等	
2 現在の県民ホールの課題	
3 県民の意見	
第3章 県民ホール本館のあり方に関する県の検討状況	p. 28
1 新県民ホールの建替え判断に至った経緯（検討結果）	
2 基本構想の策定に向けて	
第4章 理念と方針	p. 33
1 基本理念と基本方針	
2 運営方針	
第5章 管理運営	p. 38
1 管理運営の基本的な考え方	
2 運営体制と職能	
3 文化施設の収支構造	
4 安全・リスクマネジメント	
5 管理運営手法について	
第6章 施設整備	p. 46
1 機能エリア別の概要と諸室のイメージ	
2 整備を進める上で配慮すべき事項	
3 施設整備手法	
4 関係法令の規制	

第7章 期待できる県民生活への効果 p. 55

- 1 県民の文化芸術活動への効果
- 2 地域や暮らしへの効果
- 3 共生社会への効果
- 4 経済波及効果

第8章 その他 p. 57

- 1 (仮) 収支見込 (概算)
- 2 新県民ホール再開までの県民の鑑賞機会の確保
- 3 今後の進め方・スケジュール等

別紙1 p. 59

- 1 ハイスクール議会での答弁概要
- 2 オンライン対話における意見
- 3 ヒアリングの実施
- 4 みんなでつくる県民ホールアイデア箱等
- 5 みんなでつくる県民ホールアイデアコンテスト
- 6 県民ホール主催事業におけるアンケート

別紙2 p. 85

- 1 県民ホールにおける主な出来事
- 2 これまでの公演 (ポピュラー音楽など)
- 3 これまでの公演 (オペラ | バレエ | オーケストラ | 演劇など)
- 4 これまでの展示 (展覧会など)

はじめに（基本構想策定の背景・趣旨）

1 県民ホールを再整備することとした背景及び基本構想策定の趣旨

神奈川県立県民ホール本館（以下「県民ホール」という。）は、昭和 50(1975)年 1 月に開館した、大ホール、小ホール、ギャラリー、会議室を備えた神奈川県の主要な文化施設である。国内外のオペラやバレエなどの大型公演から、神奈川県美術展等県民が文化芸術活動を行う場まで幅広く活用されてきた。このように神奈川県の文化芸術の拠点となる施設として重要な役割を担うとともに、広く県民に親しまれ、令和 5(2023)年には累計来場者数 3 千万人を記録した。

しかし、開館から 50 年近くが経過し、設備の老朽化が進み、開館当時から使用している配管や空調などの古い設備は、修繕に必要な部品の調達が困難となり、安全に施設を利用することが難しくなるリスクが高まっていた。また、コンクリートの劣化状況調査でも、近い将来建物の耐久性が徐々に低下する可能性があるという指摘を受けた。

一方、1,000 人余の方から回答をいただいた令和 4(2022)年 11 月～12 月に実施した県民アンケートでは、「県民ホールのような、県民が文化芸術を鑑賞したり発表するためのホール、ギャラリーがあることについて、どう思うか」という質問に対して、「必要」、「どちらかといえば必要」という回答が合わせて 98%という結果となり、多くの県民が県民ホールのような施設は必要という認識を持っていると考えられる。

そこでこれらのことを総合的に判断して、令和 5(2023)年に、令和 7(2025)年 3 月末をもって休館すること、県民ホールは廃止しないことなどを発表した。

また、今後のあり方を検討する中で、現在の立地が県内外からのアクセスにおいて利便性が非常に高いこと、また、立地や規模の点において、必要な条件を備えた県有代替地が他に無いことから、移転ではなく現地での大規模改修又は建替えについて検討していくこととした。

その後、大規模改修と建替えについて、耐用年数と建設費用の比較検証を行い、現在抱えている課題に対して、それぞれどこまで対応できるか検討した結果、費用対効果の観点及び課題となっていたバリアフリー化への対応などを総合的に判断し、令和 6(2024)年 11 月に建替えによる再整備を進めていくことを発表した。

開館当時と比べ現在、文化芸術を取り巻く状況は変化してきている。「文化芸術基本法」や「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が制定されたほか、通信、映像、照明・音響、舞台機構などの設備や機器の多様化など劇場関係の技術は日進月歩で進化しており、演出の多様化も進んでいる。また、平土間形式のライブ会場の相次ぐ開設や野外音楽フェスティバルの隆盛など、公演の楽しみ方も多様化している。

他方で、国内の人口が減少に転じ、本県でも令和3(2021)年に初めて前年からの人口が減少した一方、外国人観光客や外国籍県民は増加傾向にある。加えて、新型コロナウイルス感染症等の感染拡大のように文化芸術に大きな影響を与える事象が発生するなど、これまでとは状況が異なり、先行きも不透明で、予測が困難な時代となっている。

このように文化芸術を取り巻く状況が大きく変化している中で、新県民ホールは、「文化芸術が人間に生きる喜びを与え、人間相互の連帯感を生み出し、及び共に生きる社会の基盤を形成するものであることにかんがみ」、「県民の文化芸術に関する活動の充実及び文化資源を活用した地域づくりの推進を図り、もって真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな県民生活の実現及び個性豊かで活力に満ちた地域社会の発展に寄与する」という神奈川県文化芸術振興条例の目的に沿って、今後80年、100年と将来にわたり県の文化振興に貢献する文化施設である必要がある。

これらのことを踏まえ、本基本構想では、新しい時代における県民ホールに求められる理念、必要となる機能や設備等について整理し、再整備の方向性を示すものとする。

第1章 文化芸術及び文化施設の動向

1 上位計画及び関連計画の整理

(1) 関連する法規

国は、平成 13(2001)年に「文化芸術振興基本法」(現「文化芸術基本法」)を制定し、文化芸術の振興に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文化芸術の振興に関する施策の基本となる事項を定めた。

また、平成 24(2012)年に制定された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」、いわゆる劇場法では、劇場、音楽堂等を「文化芸術に関する活動を行うための施設及びその施設の運営に係る人的体制により構成されるもののうち、その有する創意と知見をもって実演芸術の公演を企画し、又は行うこと等により、これを一般公衆に鑑賞させることを目的とするもの」と定義しており、公演を行うだけではなく、企画することも含めている。また、情報提供機能や人的体制にも言及しており、施設のみでなく、組織や事業についても定められている。

平成 29(2017)年には、「文化芸術振興基本法」の一部が改正され「文化芸術基本法」に改められた。ここでは、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携にも言及されている。

(2) 県の計画及び条例

県では、平成 20(2008)年に「文化芸術振興基本法」の趣旨に則り、文化芸術の振興についての基本理念や施策の基本となる事項を明らかにした「神奈川県文化芸術振興条例」を制定し、平成 31(2019)年に一部改正した。

目的として第 1 条では、「文化芸術が人間に生きる喜びを与え、人間相互の連帯感を生み出し、及び共に生きる社会の基盤を形成するものであることにかんがみ、」「県民の文化芸術に関する活動の充実及び文化資源を活用した地域づくりの推進を図り、もって真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな県民生活の実現及び個性豊かで活力に満ちた地域社会の発展に寄与する」こととしている。

そして、条例に基づき、文化芸術の振興に関して、総合的・長期的な目標や施策の方向性を示すことを目的として、「かながわ文化芸術振興計画」を平成 21(2009)年に策定し、その後、平成 26(2013)年、平成 31(2019)年及び令和 6(2024)年に改定を行った。この計画の中で、これまでの文化芸術を取り巻く状況の変化と取組の実績と課題を踏まえ、今後次の 5 つの重点施策に取り組むこととしている。

【重点施策 1】地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

【重点施策 2】子ども・若者の文化芸術活動の充実等

【重点施策 3】共生社会の実現に向けた高齢者・障がい者等の文化芸術活動の充実等

【重点施策 4】国際・観光分野との連携

【重点施策 5】文化芸術の振興を推進するための環境整備

2 全国の主要文化ホール・神奈川県内のホール・アリーナ・ギャラリー等の状況

(1) 全国の主要文化ホール等の状況

公益社団法人全国公立文化施設協会に登録されているホールは全国で2,788施設ある。そのうち、499席以下のホールが1,189(ホール全体の42.6%)、500～999席のホールが1,009(36.2%)、1,000～1,999席のホールは505(18.1%)、2,000席以上のホールは85(3.0%)となる。

【全国公立文化施設協会登録館数】※()内は全国合計のホール施設数に対する割合

	合計	499席以下	500～999席	1,000～1,999席	2,000席以上
全国合計	2,788	1,189	1,009	505	85
北海道	151 (5.4%)	64 (5.4%)	61 (6.0%)	22 (4.4%)	4 (4.7%)
東北	253 (9.1%)	103 (8.7%)	91 (9.0%)	52 (10.3%)	7 (8.2%)
関東甲信越静	869 (31.2%)	386 (32.5%)	277 (27.5%)	181 (35.8%)	25 (29.4%)
東海北陸	359 (12.9%)	139 (11.7%)	142 (14.1%)	68 (13.5%)	10 (11.8%)
近畿	413 (14.8%)	220 (18.5%)	117 (11.6%)	61 (12.1%)	15 (17.6%)
中四国	355 (12.7%)	142 (11.9%)	144 (14.3%)	56 (11.1%)	13 (15.3%)
九州	388 (13.9%)	135 (11.4%)	177 (17.5%)	65 (12.9%)	11 (12.9%)

全国劇場・音楽堂等総合情報サイトのデータより独自に作成(令和7(2025)年11月時点)

※端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

(2) 神奈川県における施設の状況

ア 神奈川県立施設

神奈川県が設置する施設(※県民に貸出をしている施設)は9館、複数のホールを持つ館もあるため、ホール数は11である。

【神奈川県立の施設】

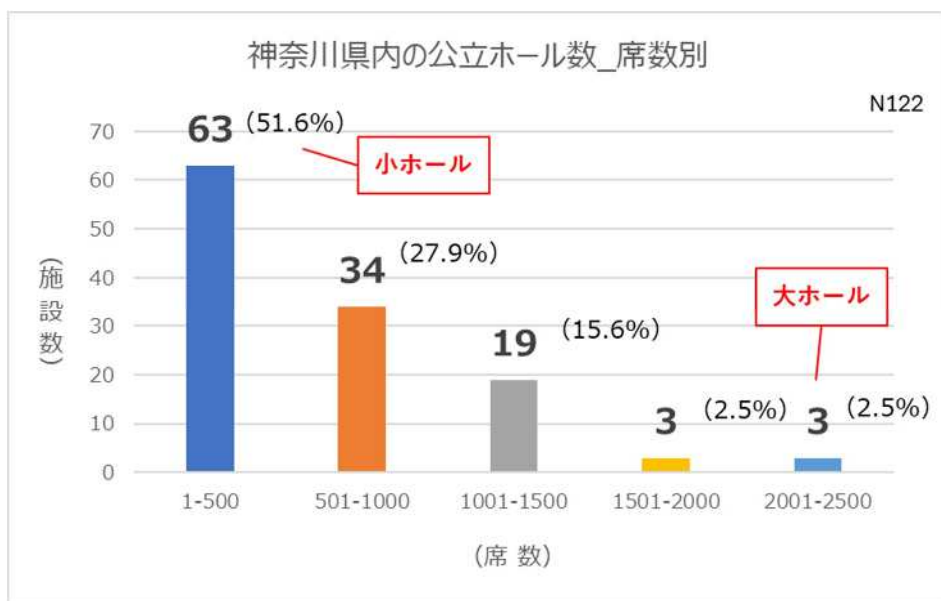
施設名	場所	ホール1	ホール2
神奈川県立県民ホール本館	横浜市中区	2,493	433
神奈川県立県民ホール神奈川芸術劇場	横浜市中区	1,262	224
神奈川県立音楽堂	横浜市西区	1,106	－
神奈川県立青少年センター	横浜市西区	812	－
神奈川県立相模湖交流センター	相模原市緑区	456	－
かながわ労働プラザ	横浜市中区	400	－
神奈川県立地球市民かながわプラザ	横浜市栄区	372	－
かながわアートホール	横浜市保土ヶ谷区	300	－
神奈川県立かながわ県民センターホール	横浜市神奈川区	260	－

イ 神奈川県内の公立ホール施設の状況

神奈川県内の公立文化施設のうち、ホールを持っているのは県立施設を含め 97 施設あり、複数ホールを備える施設があるため、ホールの合計数は 122 となっている。

そのうち、県民ホールの大ホール（2,493 席）が該当する 2,001 席～2,500 席のホール数は 3（全体の 2.5%）、小ホール（433 席）が該当する 500 席以下のホール数は 63（全体の 51.6%）となっている。

【神奈川県内の公立ホール数】



全国劇場・音楽堂等総合情報サイトのデータより独自に集計（令和 7（2025）年 11 月時点）

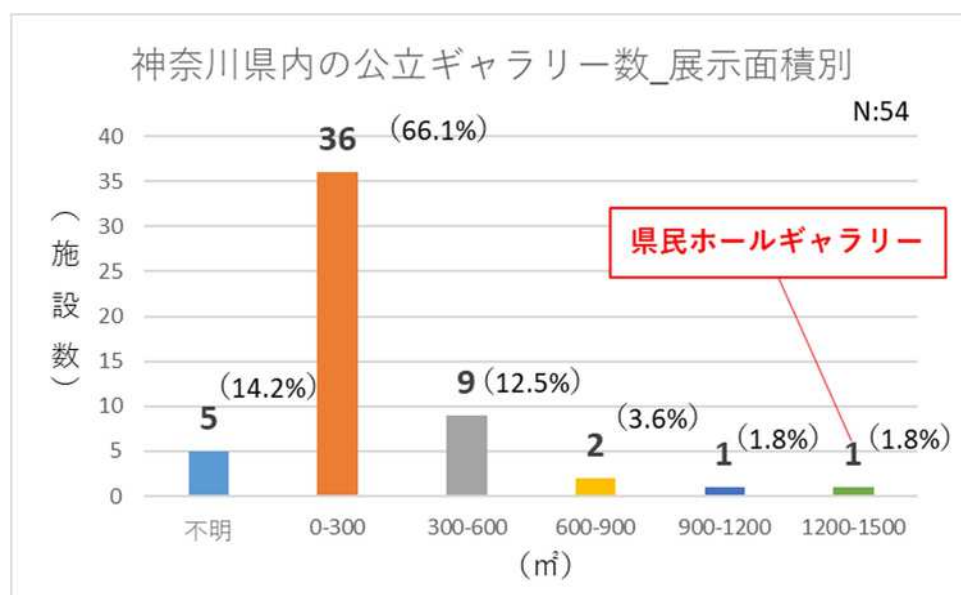
ウ 神奈川県内のアリーナ等の状況

神奈川県内のアリーナ等は、横浜アリーナ（最大 17,000 人）、K アリーナ（20,033 席）、ぴあアリーナ MM（最大 12,141 人）、KT Zepp Yokohama（2,146 人）などがあり、主に民間企業が運営し、ポップスやロック、アイドルライブなど大規模音楽公演を主に企画されている。近年、みなとみらい地区で多く開設されている。

エ 神奈川県内のギャラリーの状況

神奈川県内の公立ギャラリーを持つ施設は、横浜市民ギャラリー、横須賀市文化会館、県立相模湖交流センターなど県立施設を含め 54 施設ある。

【神奈川県内の公立ギャラリー数】



文献調査等により独自に作成（令和 7（2025）年時点）

（３）県内における県民ホールのポジション（設備別）

ア 大ホール

県民ホールの大ホールの規模（2,001 席～2,500 席）と同規模のホールは、県内の公立文化施設 126 ホールの中で、3 ホール（全体の 2.4%）のみとなっている。

また、舞台設備と広い舞台袖のスペースを備えており、ポップスから本格的なオペラやバレエの公演まで幅広い公演に対応することができる。3 ホールのうち、本格的なオペラやバレエが開催できる舞台設備を備えているのは県民ホールの大ホールのみである。

県民の文化芸術活動の発表の場としても、吹奏楽コンクール等各種文化芸術団体による大規模な発表会等で活用され、他に代替施設が無いことから、引き続き同規模の施設の存続を求める声強い。

イ 小ホール

県民ホールの小ホールの規模（500 席以下）と同規模のホールは、県内の公立文化施設 126 ホールの中で、67 ホール（全体の 53.2%）ある。

県民の文化芸術活動の発表の場として、ピアノの発表会や小規模な大会などで利用されている。大規模な催しでは、大ホールとセットで利用され、リハーサルなどに活用されている。

日本の公立ホールでは最初に設置されたパイプオルガンを備えていることが特徴となっている。

ただし、席数だけを鑑みると代替施設はあると考えられる。

ウ ギャラリー

県内の公立ギャラリー54施設の中で、50施設（全体の92.6%）は599㎡以下のギャラリーであり、ほとんどが小規模な施設となっている。600㎡以上のギャラリーは4施設（全体の7.4%）となっており、その中でも1,200㎡を超える施設は県民ホールのギャラリーのみである。

県民の文化芸術活動の発表の場としても、神奈川県美術展などの大規模な展示ができる施設であり、他に代替施設が無いことから、大ホール同様引き続き同程度の規模の施設の存続を求める声強い。

3 文化芸術及び文化施設に関する長期的な動向と県の対応方針

少子高齢化や人口減少、物価高騰、感染症対策、テクノロジーの進化、国際情勢の変化、気候変動など様々な面で社会状況が変化しており、長期的に将来を見通すことが難しい時代と言われている。

ここでは、国の文化政策（主に5年間を期間として策定される文化芸術推進基本計画）や各種データ、令和5（2023）年度に実施した「神奈川県立県民ホール本館のあり方に係る予備調査（以下「予備調査」という。）」におけるニーズ分析（今後30年間の将来分析含む）等から、文化芸術と文化施設に関する長期的な動向と、それらに対する対応方針を整理する。

（1）文化芸術に関する長期的な動向

ア 国の文化政策

（ア）文化芸術の範囲

文化芸術基本法に規定されている文化芸術は次表のとおりである。「演劇」「舞踊」「美術」等が含まれる「芸術」という大分類とは別に、「コンピューターその他の電子機器等を利用した芸術」が含まれる「メディア芸術」や「伝統芸能」などが定義されている。また、ジャンルの融合した催し等も増えてきており、ジャンルの境界が曖昧になっていく傾向が見られる。長期的動向を考える上では、文化芸術の多様化、幅の広さ、ジャンルの融合について留意していくことが必要である。

【文化芸術基本法における文化芸術（第8条～第12条）】

芸術	国は、 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術 （次に規定するメディア芸術を除く。）の振興を図るため、これらの芸術の公演、展示等への支援、これらの芸術の制作等に係る物品の保存への支援、これらの芸術に係る知識及び技能の継承への支援、芸術祭等の開催その他の必要な施策を講ずるものとする。
メディア芸術	国は、 映画、漫画、アニメーション及びコンピューターその他の電子機器等を利用した芸術 （以下「メディア芸術」という。）の振興を図るため、メディア芸術の制作、上映、展示等への支援、メディア芸術の制作等に係る物品の保存への支

	援、メディア芸術に係る知識及び技能の継承への支援、芸術祭等の開催その他の必要な施策を講ずるものとする。
伝統芸能	国は、 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能 （以下「伝統芸能」という。）の継承及び発展を図るため、伝統芸能の公演、これに用いられた物品の保存等への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。
芸能	国は、 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能 （伝統芸能を除く。）の振興を図るため、これらの芸能の公演、これに用いられた物品の保存等への支援、これらの芸能に係る知識及び技能の継承への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。
生活文化 国民娯楽 出版物等	国は、 生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう。） の振興を図るとともに、 国民娯楽（囲碁、将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及 を図るため、これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（イ）令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの重点施策

文化芸術基本法に基づき令和5（2023）年3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画（第2期）―価値創造と社会・経済の活性化―」では、新型コロナウイルス感染症による影響やデジタル化の急速な進展など我が国の文化芸術を取り巻く状況の変化等を踏まえ、令和5（2023）年度からの5年間に於いて推進する7つの重点取組として以下が示されている。

- ① ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進
- ② 文化資源の保存と活用の一層の推進
- ③ 文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成
- ④ 多様性を尊重した文化芸術の振興
- ⑤ 文化芸術のグローバル展開の加速
- ⑥ 文化芸術を通じた地方創生の推進
- ⑦ デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進

（ウ）デジタル技術の進歩と新たな文化芸術の鑑賞方法

デジタル技術を活用した文化芸術活動の一つとして、舞台芸術分野において、文化庁の助成を得て進められている、「緊急舞台芸術アーカイブ＋デジタルシアター化支援事業（EPAD）」が挙げられる。同時代の人々しか享受できない舞台作品を、保存・継承することにより、ひらかれたデジタル財産とし、デジタルアーカイブを活用して、舞台芸術を全ての人へ届けることを目的としている。

また、歌舞伎の上演映像や海外のオペラハウスでの上演映像などを映画館で視聴できる取組が行われている。

コロナ禍では、劇場・音楽堂での鑑賞が難しくなった期間、オンラインで舞台芸術や音楽芸術の配信が試みられた。

また、e スポーツの大会を地球規模で開催するためのインフラとして配信技術の高速化も注目をされるようになってきている。さらには、舞台表現の一つとして、映像技術を取り入れる機会が増えてきていることに加えて、VR(Virtual Reality)：仮想現実やAR(Augmented Reality)：拡張現実といった技術も文化芸術表現や視聴方法として注目されるようになってきている。

イ ニーズ分析

(ア) ライブ・エンタテインメント市場規模からみる需要

国内のライブ・エンタテインメント市場についてはぴあ総合研究所株式会社（以下、「ぴあ総研」という。）「2024 ライブ・エンタテインメント白書」（令和5（2023）年までの実績を掲載）に客観的な評価がまとめられており、コロナ禍の影響を受けながらも、令和5（2023）年には市場規模がコロナ前の水準を上回った。一方で、公演回数の回復は鈍く、全体としての復調にはなお時間を要している。回復は一部にとどまっており、コロナ前に見られた需要の維持や拡大の傾向を再び取り戻せるかどうかは、依然として不透明な状況にあるとしている。

【ライブ・エンタテインメントの公演回数、動員数、市場規模】

1-1.公演回数

単位:回

名称	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2ジャンル計	120,135	120,965	132,081	129,518	128,804	135,874	43,372	79,835	84,988	93,156
音楽	54,394	56,042	63,667	60,667	59,678	61,068	16,494	29,726	37,954	41,783
ステージ	65,741	64,923	68,414	68,851	69,126	74,806	26,878	50,109	47,034	51,373

1-2.動員数

単位:万人

名称	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2ジャンル計	5,787	6,831	6,636	6,869	7,645	8,283	1,480	3,804	6,801	7,970
音楽	3,570	4,486	4,305	4,620	5,043	5,497	772	1,936	4,589	5,373
ステージ	2,217	2,345	2,331	2,249	2,602	2,786	709	1,869	2,212	2,597

1-3.市場規模

単位:億円

名称	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2ジャンル計	4,260	5,119	5,015	5,151	5,862	6,295	1,106	3,072	5,652	6,857
音楽	2,721	3,405	3,372	3,466	3,875	4,237	589	1,547	3,946	4,757
ステージ	1,540	1,714	1,643	1,685	1,987	2,058	518	1,525	1,705	2,099

※四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある。

出典:ぴあ総研『ライブ・エンタテインメント白書』(2024年版)

(イ) オンラインライブについて

オンラインライブについては、ぴあ総研が令和2年(2020年)より実施している「国内オンラインライブ市場に関する調査」によると、リアルライブの再開後オンラインライブ市場の成長は頭打ちだが、令和5年(2023年)においても295億円(対前年増減率36.7%減)の市場規模を保っている。オンラインライブは制作上のコストや技術面での課題も多いが、オンラインライブだけでなく、映像アーカイブスも含めて今後もライブ・エンタテインメント鑑賞方法の可能性として見極めていくことが必要である。

出典：ぴあ総研「国内オンラインライブ市場に関する調査」



(ウ) 美術鑑賞について

文化庁「文化芸術関連データ集」における「国立美術館・博物館の常設展入館者数」によると、2020(令和3)年度以降コロナ禍の影響を受け大幅に減少したが、2023(令和5)年度は2019(令和元)年度の入館者数を超えて回復している。



出典：文化庁「文化芸術関連データ集」

（２）文化施設に関する長期的な動向

ア 国の文化政策

国の文化政策としては、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成 29 年改正）」の前文で示されているように、これまでは施設の整備が先行して進められてきたが、これからの施設には、そこで行われる実演芸術に関する活動や、劇場、音楽堂等の事業を行うために必要な人材の養成等を強化していくことが求められている。

劇場、音楽堂の設置者それぞれの固有の状況（広域自治体/基礎自治体の別や地域性など）を踏まえ、文化施策を長期的かつ継続的に実行していく施設となる必要がある。

イ ホール施設の需要動向

国内のホール機能を持つ施設は、戦後から現在に至るまで多く建設されてきたが、建設から数十年経ち、改修のため休館となる施設や、老朽化をはじめとする様々な事情により閉館となる施設が多く見られる。

それらの影響により首都圏で公演可能な施設が平成 28(2016) 年をピークに激減することが予想され、プロモーター等による業界団体が「2016 年問題」として公演会場の不足を訴えたことがあった。今後も 2,000 席規模の首都圏におけるホール施設については、引き続き不足傾向であることが指摘されている。

また、近年大規模なアリーナの建設が増加しているが、2,000 席規模の会場で実施するようなホールツアー等のコンサートは、大規模なアリーナで開催されるアリーナツアーとは会場の設え、演出、公演自体の収支計画等が異なり、また、利用するアーティストや客層も異なるため、会場を兼用することができず、今後も 2,000 席規模のホールの需要は続くと考えられる。

ウ ギャラリー施設の需要動向

絵画・書道等の活動人口は、人口減少に伴い減っていくことが想定されるが、文化芸術団体自体が大幅減少することは考えにくく、ギャラリーの貸館利用については、一定の需要があると考えられる。

また、600 ㎡以上の空間を持つギャラリーは県内でも限られているため、県民ホールのギャラリーのような大規模な空間の需要は、今後も無くならないと想定される。

ただし、各利用団体の会員数が減少し、展示への出展品数が減少していく可能性や映像やインスタレーションなど利用形態が多様化していくことが考えられる。

（３）長期的な動向への県の対応方針

長期的に将来を見通すことが難しい中で、まずは 5 年間の計画を立て、5 年ごとに環境の変化に合わせて計画を見直していくなど、時代の変化に合わせて方向性を継続的に見直していく方法が適切な進め方であり、変化に柔軟に対応できる持続可能な施設を検討していく。

ア ホール、ギャラリーの需要への対応

2,000 席規模のホール需要に対して、これまでのような本格的なオペラやバレエをはじめとする様々な公演が実施可能であることに加え、映像表現などの新たな演出技術や映像配信、デジタル技術の進歩による多様な鑑賞方法など、新しい時代の文化芸術に柔軟に対応できる施設を検討する。

ギャラリーの需要に対して、大規模展示ができる十分な展示スペースを持つことに加え、美術の形態の多様化（例：映像、インスタレーション等）やメディア芸術の振興、ジャンルが融合した表現など新しい時代の表現に対応できる、空間や設備等を検討する。

イ 舞台設備について

文化芸術をめぐる環境は変化し続けており、ある技術や設備が時代遅れになるスピードは加速している。このような動向に対応していくため、舞台設備は、必要に応じて利用者による設備の持ち込みを想定するなど、過剰な設備投資とならないよう慎重に検討する。

また、外部機器の持ち込みが容易にできるよう、電源や通信ケーブル等の十分な質と数の確保など、利用者の自由度が高く、新しい文化芸術の表現方法に柔軟に対応できる施設を検討する。

ウ 人的な対応について

施設を適切かつ長期的に運営していくためには、高い専門性を持ち、様々な変化に柔軟に対応することができる人材が不可欠となる。そのためには、新しい情報やシステム、新しい技術に習熟する機会を設けることや、適正な労働環境を整え、多様な働き方を推進するなど、職員が継続してキャリアを形成できる仕組みを検討する。

第2章 県民ホールの現状と課題

1 現在の県民ホールの概要・利用状況・利用者属性等

(1) 県民ホールの概要

【県民ホールの概要】（令和7（2025）年3月31日現在）

所在地	横浜市中区山下町3番地の1
敷地面積	10,946.33 m ²
建設期間	昭和47(1972)年10月～昭和49(1974)年9月（外構工事は昭和49(1974)年12月）
開館	昭和50(1975)年1月
建設費等	総額 6,121,896 千円
構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造（地上6階・地下1階）、最高階高 35.5m
建築面積	5,845.82 m ²
延床面積	28,476.59 m ²

ア 大ホール（2,493 席）

- ・ 海外からの大型公演など大規模なオペラやバレエの公演にも対応できる広い舞台面積と設備を備えている。
- ・ ポップス等のホールツアーが実施可能である。
- ・ ジャンルとしては、「クラシック系（オーケストラ・オペラ・バレエ・舞踊等）」（36.9%）と「ポピュラー系（ロック・歌謡曲・ジャズ・民族音楽等）」（36.1%）の利用が多く、その他「集会」（13.6%）、「演劇・ミュージカル・伝統芸能等」（11.2%）など多ジャンルで利用されている。
- ・ 県内の吹奏楽や合唱の大会をはじめとする県民の発表の場としても利用されている。

イ 小ホール（433 席）

- ・ パイプオルガンを活用した公演などが行われている。
- ・ ジャンルとしては、「クラシック系」（50.0%）の利用が最も多く、次に集会（19.7%）、発表会（19.7%）での利用が多い。
- ・ ピアノのコンクールをはじめとする県民の発表の場としても利用されている。

ウ ギャラリー（1,311.2 m²）

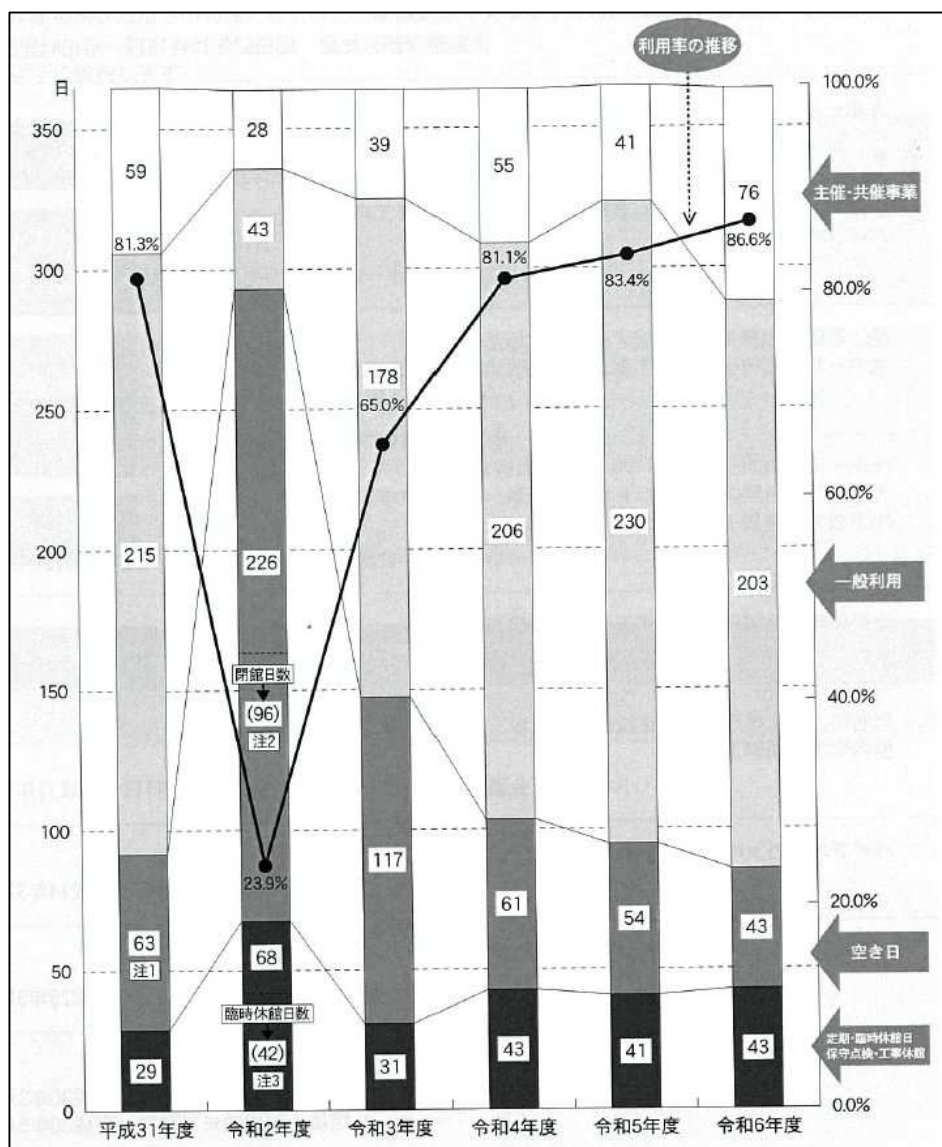
- ・ 広さ、天井の高さ、展示のしやすさが特徴で、大規模展示に対応できる。
- ・ ジャンルとしては、「絵画」（36.6%）、「書道」（24.6%）、「総合」（20.4%）での利用が多いが、その他「立体平面」（8.4%）、「写真」（5.4%）、「工芸」（3.4%）、「彫刻」（6.1%）など多ジャンルで利用されている。
- ・ 神奈川県美術展をはじめとする県民の発表の場として主に利用されている。

【各施設の概要】（令和 7（2025）年 3 月 31 日現在）

No.	施設名	収容人員・面積	主な舞台・設備等
1	大ホール	最大 2,493 人（座席 2,433 人 /補助席 10 人/立ち見 50 人） 客席面積 1,550 m ² （3 層構造）	メインステージ：間口 20m×高さ 10m×奥行 18m 前舞台、プロセニウム ピアノ 2 台（スタインウェイ×1、ヤマハ×1） 大迫り 2 基 オーケストラピット、音響反射板、バトン 54 本 音響・照明設備、映写設備
2	小ホール	収容 433 人 客席面積 321 m ²	オーブンステージ パイプオルガン（ヨハネス・クライス社製）、 ピアノ 2 台（スタインウェイ×1、ヤマハ×1） 音響反射板、バック幕、吊りバトン 2 本 音響・照明設備
3	ギャラリー	5 展示室、 床面積 1,311.2 m ² 、 壁・パネル延長 370.2m	－
4	大会議室	1 室（収容最大 240 人）、 面積 363 m ²	－
5	小会議室	1 室（収容最大 24 人）、 面積 65 m ²	－
6	駐車施設	屋内 73 台、屋外 19 台、主催 者等 15 台、計 107 台	－
7	食堂	200 席（6 階）	－
8	喫茶室	24 席（2 階）	－
9	管理事務室 等	管理事務室、倉庫、機械室 等	－
10	諸設備	－	電気設備、衛生設備、防災設備、搬送設備、空調 設備

(2) 県民ホールの利用状況

【大ホール利用状況】



	H31 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
利用可能日数	337 日	297 日	334 日	322 日	325 日	322 日
実利用日数（自主・共催含む）	274 日	71 日	217 日	261 日	271 日	279 日
実利用日数（一般のみ）	215 日	43 日	178 日	206 日	230 日	203 日

注1：平成31年度は、令和2年2月～3月にかけて新型コロナウイルスの影響による利用取消が相次いだため、利用率が減少した。

注2：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県の方針に基づき、4月7日～8月31日までの県の施設を閉鎖した日数。

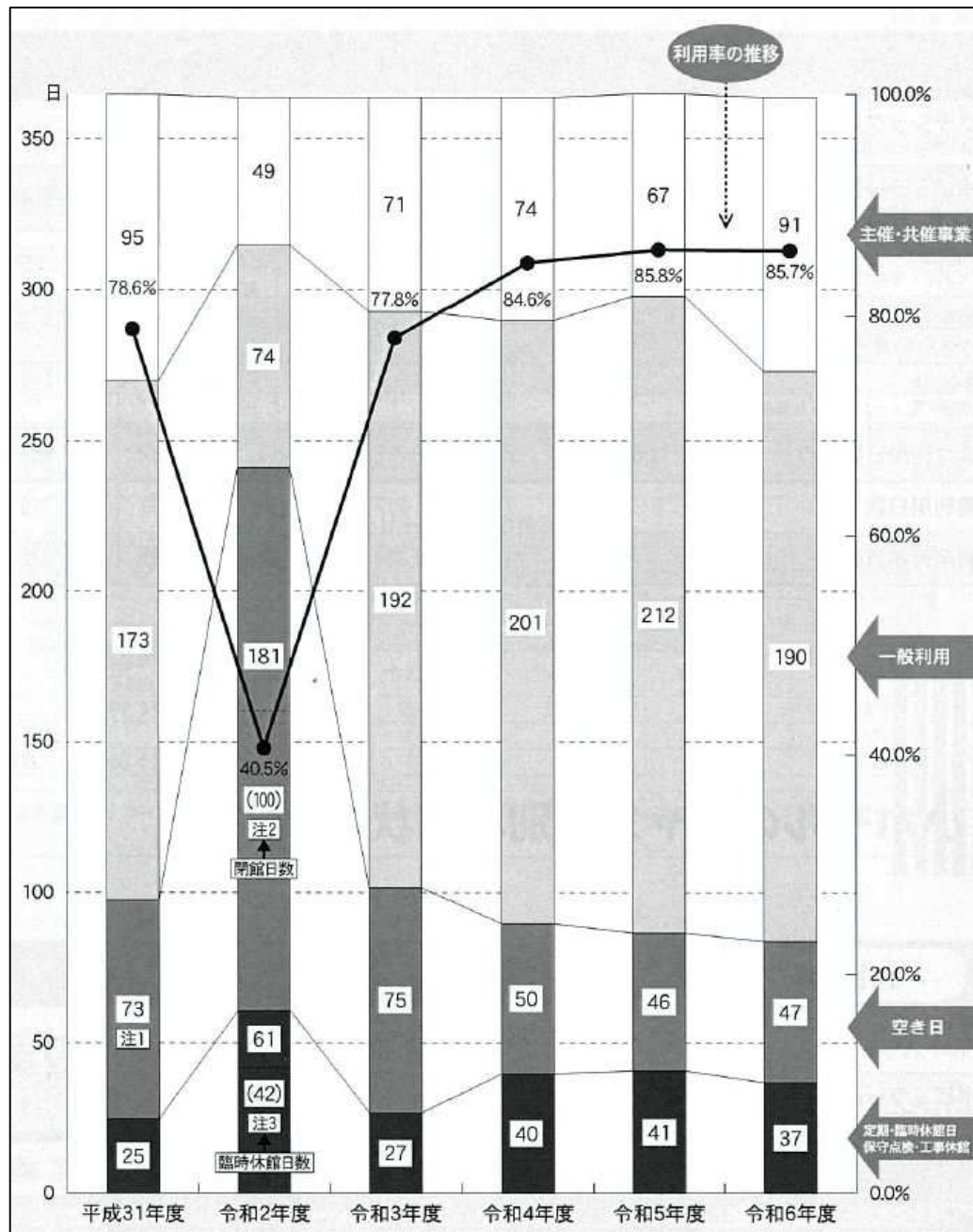
（閉鎖日数は参考値として扱うため、休館日・保守点検日等の利用対象外日数に含めない）

注3：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県の方針に基づき、条例に基づく臨時休館の申請を行い休館した日数。

（5月2日から8月31日までの土曜日・日曜日及び祝日）

出典：令和6（2024）年度 神奈川県民ホール年報より

【小ホールの利用状況】



	H31 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
利用可能日数	341 日	304 日	338 日	325 日	325 日	328 日
実利用日数（自主・共催含む）	268 日	123 日	263 日	275 日	279 日	281 日
実利用日数（一般のみ）	173 日	74 日	192 日	201 日	212 日	190 日

注1：平成31年度は、令和2年2月～3月にかけて新型コロナウイルスの影響による利用取消が相次いだため、利用率が減少した。

注2：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県の方針に基づき、4月7日～8月31日の間の施設を閉館した日数。（閉館日数は参考値として扱うため、休館日・保守点検日等の利用対象外日数に含めない）

注3：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県の方針に基づき、条例に基づく臨時休館の申請を行い休館した日数。（5月2日から8月31日の間の土曜日・日曜日及び祝日）

出典：令和6（2024）年度 神奈川県民ホール年報より

【ギャラリーの利用状況】

(単位：室)

	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
総合	8,601	69	138	281	313	213	9,615
絵画	16,285	46	270	199	186	277	17,263
立体平面	3,945	0	0	0	0	0	3,945
彫刻	281	0	0	4	2	0	287
デザイン	148	0	0	0	13	0	161
工芸	1,447	0	48	6	46	38	1,585
写真	2,298	34	45	53	52	53	2,535
書道	10,648	59	204	226	238	239	11,614
華道	57	0	35	0	35	0	127
一般利用（小計）	43,710	208	740	769	885	820	47,132
主催事業	18,556	215	454	440	440	488	20,593
共催事業	6,350	70	56	190	67	122	6,855
合計	68,616	493	1,250	1,399	1,392	1,430	74,580

	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
利用率	97.9%	34.0%	72.5%	81.3%	81.4%	83.9%
利用可能室数		1,450	1,725	1,720	1,711	1,705
実利用室数	68,616	493	1,250	1,399	1,392	1,430

注：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県の方針に基づき、4月7日～8月31日まで閉館のため、利用率が減少した。

【会議室の利用状況】

(単位：日)

S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
11,244	128	264	248	261	274	12,419

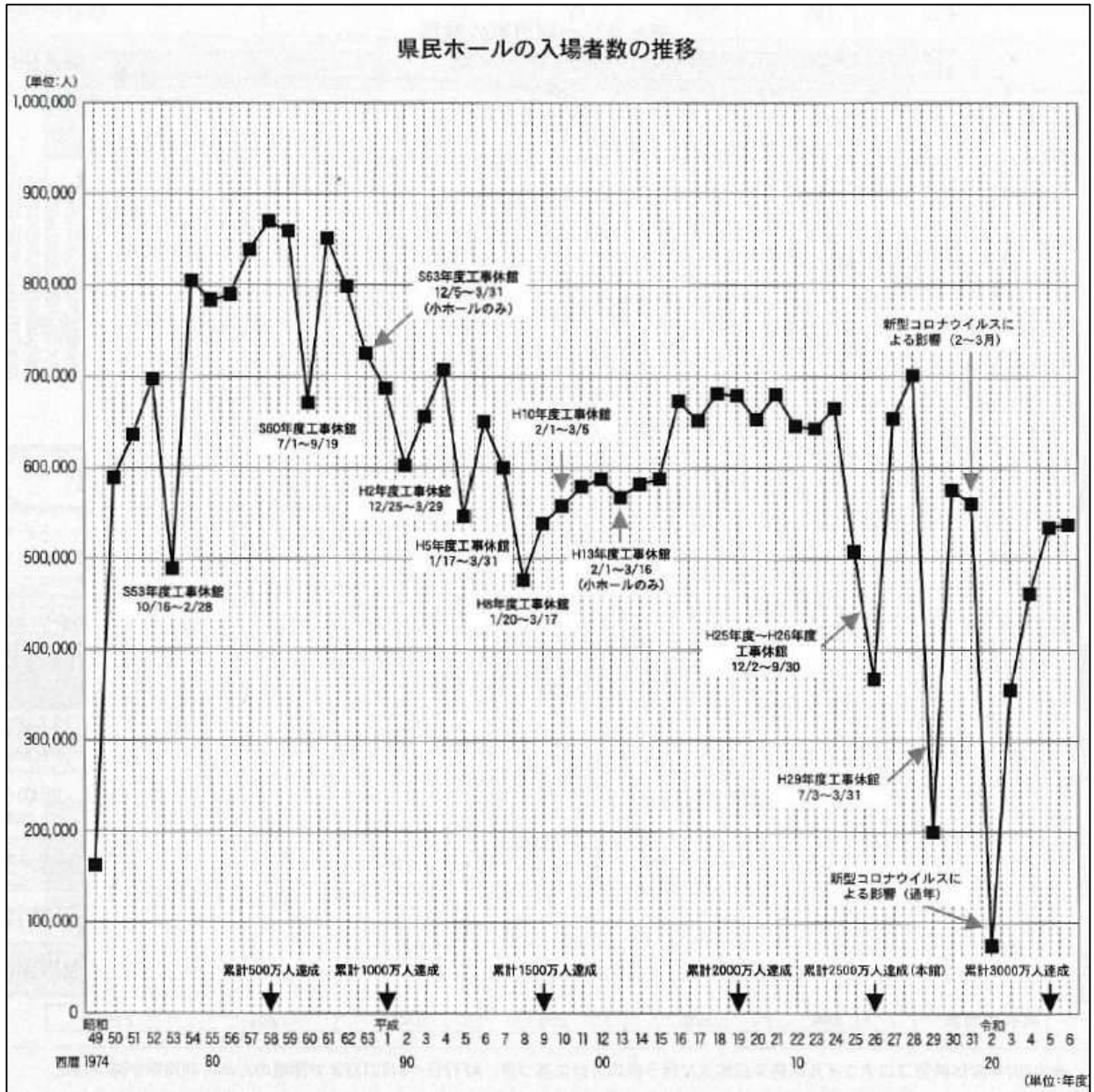
(単位：人)

	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
利用率	87.5%	40.9%	74.2%	73.4%	77.4%	80.4%
利用可能室数		313	356	338	337	341
実利用室数	11,244	128	264	248	261	274

注：令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県の方針に基づき、4月7日～8月31日まで閉館のため、利用率が減少した。

出典：令和6(2024)年度 神奈川県民ホール年報より

【入場者の推移】

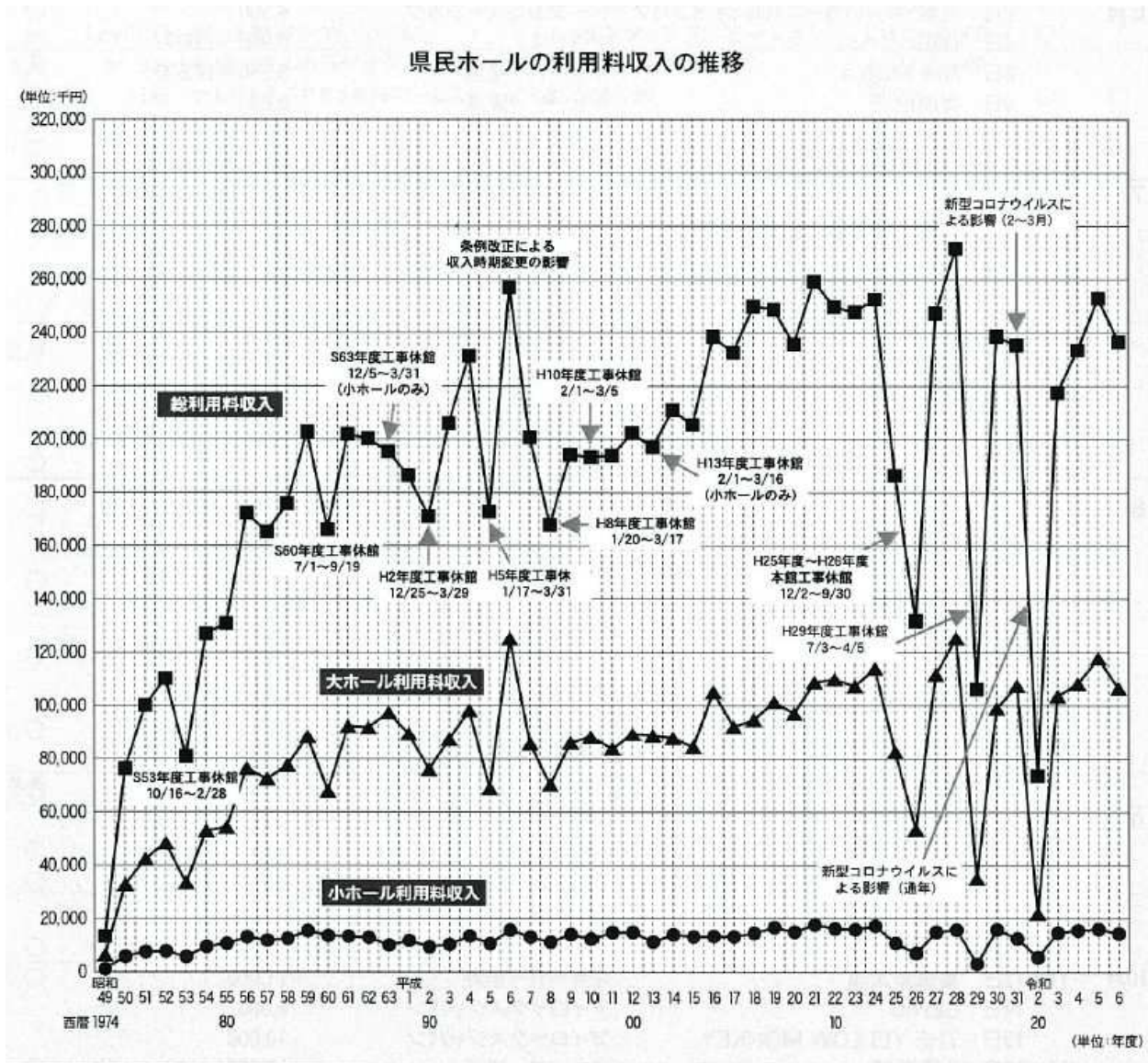


(単位:人)

種類	S 49 年～ H 31 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	合計
大ホール	21,070,582	40,651	255,752	359,391	417,640	421,640	22,565,421
小ホール	2,389,559	10,391	25,966	37,228	43,077	34,597	2,540,818
ギャラリー	3,707,402	13,148	32,323	42,893	49,773	56,918	3,902,457
大会議室	1,497,943	7,342	15,383	15,062	16,620	16,867	1,569,217
小会議室	113,490	1,128	2,112	2,520	2,904	3,360	125,514
リハーサル室	210,703	725	2,575	2,950	2,719	3,346	223,018
その他	53,532	1,052	1,722	1,809	2,056	1,371	61,542
合計	29,043,211	74,437	335,833	461,853	534,789	537,864	30,987,987

出典: 令和 6 (2024) 年度 神奈川県民ホール年報より

【利用料収入の推移】



（単位：円）

区分	H31 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
大ホール	107,188,277	21,363,745	103,326,696	107,946,775	117,482,230	106,216,945
小ホール	12,295,353	5,209,984	14,600,882	15,340,242	15,821,065	14,205,060
会議室	7,063,890	3,638,460	9,092,470	7,542,160	7,137,120	7,077,937
楽屋・付属 器具等※	37,980,242	9,227,188	37,119,471	37,720,823	40,187,031	37,678,037
ギャラリー	6,976,950	1,928,530	6,506,830	6,886,930	7,973,090	6,939,210
駐車場	63,474,960	31,460,180	46,710,360	57,792,690	64,003,690	64,265,460
合 計	234,979,672	72,828,087	217,356,709	233,229,620	252,604,226	236,382,649

※平成6年度から行政財産目的外の使用料については、財団が管理運営を委託したことに伴い計上していない。

出典：令和6（2024）年度 神奈川県民ホール年報より

【年度別自主事業実施状況】

大ホール	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	1,218	8	18	19	19	31	1,313
入場者数(人)	2,069,001	7,182	21,403	25,436	26,934	42,620	2,192,576
平均入場者数(人)	1,699	898	1,189	1,338	1,418	1,375	1,670

小ホール	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	432	14	23	20	19	18	526
入場者数(人)	326,993	2,016	4,161	4,843	4,931	5,377	348,321
平均入場者数(人)	757	144	181	242	260	299	662

会議室	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	80	0	2	0	0	0	82
入場者数(人)	8,720	0	223	0	0	0	8,943
平均入場者数(人)	109	0	112	0	0	0	109

ギャラリー	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	286	4	6	6	5	6	313
入場者数(人)	922,869	4,395	5,735	9,296	9,545	14,091	965,931
平均入場者数(人)	3,227	1,099	956	1,549	1,909	2,349	3,086

その他(屋外)	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	5	0	0	0	0	0	5
入場者数(人)	5,800	0	0	0	0	0	5,800
平均入場者数(人)	1,160	0	0	0	0	0	1,160

その他の施設	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	20	0	5	3	3	2	33
入場者数(人)	10,174	0	1,275	821	1,719	1,219	15,208
平均入場者数(人)	509	0	255	273	356	610	461

人材育成事業	S49年～ H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
実施回数(回)	71	3	8	6	7	6	101
参加者数(人)	853	2	272	117	123	165	1,532
平均入場者数(人)	12	1	34	20	18	28	15

※実施回数は中止の事業数は含まず、実施された事業の公演数を掲載

出典：令和6(2024)年度 神奈川県民ホール年報より

【他の県有施設との主な利用用途の比較】

施設名	主な用途	音楽					美術		舞踊		演劇		芸能	演芸	式典等
		オーケストラ	オペラ	室内楽	ピアノ	ポピュラー	絵画等	立体	バレエ	ダンス	ミュージカル	現代劇	歌舞伎・文楽	落語・漫才等	式典・講演会
県民ホール	多目的美術	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
K A A T 神奈川芸術劇場	演劇・ミュージカル・ダンス	—	△	—	—	△	○	△	△	○	○	○	△	△	—
音楽堂	音楽	△	△	○	○	—	—	—	△	△	—	—	—	—	○
アートホール	音楽 (練習メイン)	△	—	○	△	—	—	—	△	△	—	—	—	—	△
青少年センター	演劇 伝統芸能	△	—	△	—	—	△	—	△	△	△	○	○	○	○

備考「—」を付けていても、利用がないわけではない。

利用可能だが、頻度が少ない、またはフルオーケストラ不可や席数の関係で商業利用に向かないなどの理由がある場合△とした。

【自主事業（主催事業と共催事業）と貸館の割合】（単位：ホールは日、ギャラリーは室）

機能	事業	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	合計	割合
大ホール	自主事業	55	41	76	172	21.2%
	貸館事業	206	230	203	639	78.8%
小ホール	自主事業	74	67	91	232	27.8%
	貸館事業	201	212	190	603	72.2%
ギャラリー	自主事業	630	507	610	1,747	41.4%
	貸館事業	769	885	820	2,474	58.6%

出典：令和 6 (2024) 年度 神奈川県民ホール年報より

【令和 6（2024）年度 自主事業（主催事業と共催事業）のジャンル】

（単位：ホールは公演数、ギャラリーは展覧会数）

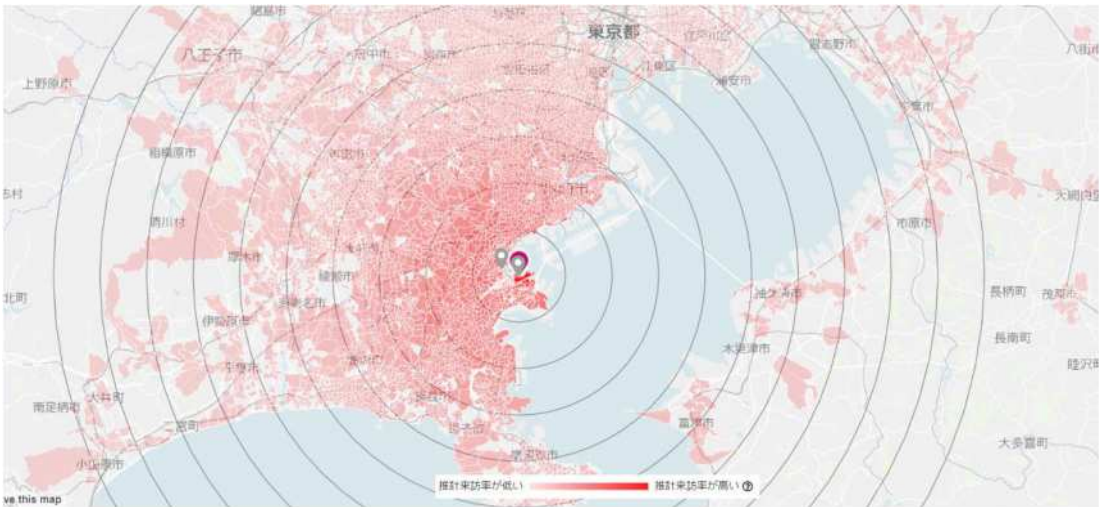
機能		主催	共催	合計	割合
大ホール	オペラ	2	2	4	12.9%
	オーケストラ	1	6	7	22.6%
	バレエ・ダンス	3	14	17	54.8%
	ポピュラー	0	2	2	6.5%
	その他	0	1	1	3.2%
	合計	6	25	31	-
	割合	19.4%	80.6%	-	-
小ホール	パイプオルガン	9	1	10	55.6%
	室内楽	3	1	4	22.2%
	声楽	0	2	2	11.1%
	講座	1	0	1	5.6%
	伝統芸能	0	1	1	5.6%
	合計	13	5	18	-
	割合	72.2%	27.8%	-	-
ギャラリー	展覧会	3	2	5	-
	割合	60.0%	40.0%	-	-

出典：令和 6（2024）年度 神奈川県民ホール年報より

（3）利用者属性

令和 4（2022）年度集客状況

- ・ 来館者の男女比は、男性が 31.3%、女性が 68.7%
- ・ 来館者の年代構成は 20 代以下が 6.9%、30 代が 8.7%、40 代が 18.1%、50 代が 27.0%、60 代が 19.3%、70 代以上が 20.0%
- ・ 来館者の距離別割合は、20km 以上が 35.8%、5～20km が 33.8%、5km 未満が 30.4%
- ・ 都道府県別では、神奈川県 61.4%、東京都 21.3%、埼玉県 4.7%、千葉県 4.0%、その他、静岡県、愛知県、大阪府、茨城県、群馬県、兵庫県などが 1%以下となっている。



予備調査より「携帯電話の位置情報サービスを活用した LAP（Location AI Platform®）分析」

2 現在の県民ホールの課題

(1) ユニバーサルデザインへの対応

現在の県民ホールは、建設当時バリアフリーやユニバーサルデザインに対する明確な基準や意識等がなかったため、階段が多く、2階や3階客席に行くためのエスカレーターやエレベーターがないなどバリアフリー対応が不十分であった。また、観客だけでなく、出演者や従業員の動線に関してもバリアフリー対応ができていないことなどがアンケートやヒアリングで指摘されていた。

新県民ホールでは、ユニバーサルデザインに十分配慮し、観客はもちろん出演者やそこで働く職員等も含め、高齢者や障がい者の方をはじめとする、あらゆる人の利用に支障がないよう配置・動線計画を検討し、必要な設備の設置や、個々のニーズに合わせたサポートをすることが求められる。

(2) 災害時の避難所機能

現在の県民ホールは、避難所の指定を受けていないが、県を代表する観光地である山下公園通りに立地する施設として、災害時には避難所機能を持つことが求められる。

新しく建てる施設は十分な耐震性を有するとともに、災害時には72時間程度のBCP対応を行うことができること、2m未満の津波が想定される沿岸部に立地することから、電気設備等を上階に設置すること、垂直避難がしやすい施設であることなどが求められる。

【神奈川県津波浸水想定図】



神奈川県津波浸水想定図（平成 27(2015)年 3 月）を拡大して作成

（３）脱炭素（ZEB Ready）への対応

県では、県有施設の省エネルギー対策を推進するため、「神奈川県公共施設等総合管理計画」に基づき、県有施設の新築及び建替えに当たっては、原則として ZEB を導入することとしている。そのため、本施設の計画においては、高効率の設備機器の採用、断熱性能を向上させるなど、施設の建設や運用における省エネルギー性能に配慮し、ZEB Ready に対応することが求められる。

（４）地域社会との連携の強化

現在の県民ホールでは、地域社会との連携や共生共創への取組を推進する部門を設けているが、その活動のための十分な場所や専用スペースがない。

また、県民ホールの休館中に、県民の文化芸術の鑑賞機会を確保するため、多彩な文化芸術事業を県内各地で継続的に展開しており、その中で県内の文化資源を繋ぐネットワークを構築し、各地域と連携を深める取組を行っている。新県民ホールでは、その構築されたネットワークを有効活用し、地域との連携機能及び共生共創への取組を更に推進する機能を持つ必要がある。

（５）設備改修の容易性

現在の県民ホールは、配管類が壁に埋め込まれており、点検及び改修が容易ではない状況である。

（６）各機能に関する主な課題

ア 大ホールについて

県内では県民ホールでないと実現が難しい公演があるため利用希望が多く競争率が高いにも関わらず、実際には抽選により 1,000 人以下の規模の催しに大ホールが利用されることがあり、大規模ホールとしての価値を十分に発揮しきれていないことが課題となる。

イ ギャラリーについて

現在のギャラリーは、様々なサイズのつながった広い空間があることが特徴で、大規模な展示会にも対応できる空間となっていたが、消火設備がガス消火設備ではなく、スプリンクラーであるため本格的な美術品の展示が難しい。また、仕切りが無いと音漏れが発生するなどの課題があった。

3 県民の意見

(1) 神奈川県立県民ホールのあり方に関するアンケート（令和4(2022)年11月1日～12月16日にかけて実施、1,015人からの回答）

老朽化が進む県民ホールのあり方を検討するため、WEB、郵送、第71回神奈川文化賞・スポーツ賞贈呈式での配布によりアンケートを実施した。

【回答者の属性】

神奈川県内に居住する中高年層、女性を中心とした回答者により構成されている。

【観客からの回答】

- ・ 利用した際に良かった点は、鑑賞体験に対する満足度と立地・アクセスの利便性が評価の中心であり、作品と環境の両面に対する満足度が高い。
- ・ 利用した際に不便な点は、「施設が良くない」「舞台設備が良くない」は老朽化や機能面で不満と見受けられる。アクセスについても評価が分かれていることが分かる。現施設の更新・改善が求められている。
- ・ 今後どのような公演・イベント等を鑑賞・参加したいかについては、クラシック公演へのニーズが非常に高い。一方で、演劇やポピュラー音楽など多ジャンルの公演を鑑賞できることへの期待も大きい。

【出演者・主催者からの回答】

- ・ 利用した際に良かった点は、アクセス、交通の利便性に加え、適切な施設規模について一定の評価がある。
- ・ 利用した際に不便な点は、観客と同様、施設の老朽化や設備面の課題が主催者側にも強く意識されている。更新への要望があると考えられる。
- ・ 県民が文化芸術を鑑賞したり、文化芸術活動に取り組んだりするためには、どのような施設が必要だと思うかについては、大規模ホール、リハーサル室や練習室、中規模ホールが求められている。

【県民ホールの必要性】

- ・ 神奈川県民ホールのような、県民が文化芸術を鑑賞、発表するためのホールやギャラリーがあることについてどう思うかには、98%が県民ホールの存在を肯定しており、公共施設としての文化芸術の鑑賞・発表の場として、意義が認められている。

【県民ホールに求められる機能等】

- ・ ホール等に、どのような施設や機能が加われば、文化施設の利用がより進むと思うかについては、施設の快適性や滞在性を高める付帯サービスの充実が望まれており、単なる鑑賞施設ではなく、「居心地の良い場」としての整備が期待されている。

(2) 予備調査における施設利用者ヒアリング（令和5(2023)年度10月～3月実施）

ア ホール利用者の意見

文化施設運営団体、ポップス系音楽公演主催者、舞台芸術系公演主催者、学生の演奏会主催団体、クラシック音楽系公演団体など7者にヒアリングを行った。

【課題】

- ・ バリアフリー対応が不十分（エレベーターがないなど）である。
- ・ リハーサル環境や日常の活動拠点スペースが不足している。
- ・ 客席 2,000 規模の代替施設が県内に乏しく、休館期間中の影響が大きい。
- ・ 大ホールは予約時の競争率が高く、利用者の希望に十分に応えられていない一方で、2,000 席規模を必要としない中規模（約 1,000 席程度）の催事でも使われてるため、大規模ホールの機能を十分に発揮できていない。
- ・ 県民ホールはアクセス性・実績から見ても県内文化振興の重要な拠点である。長期の休館は、利用団体にとって事業継続の深刻なリスクとなる。

【要望】

- ・ 機材搬入のため「11t 車 2 台が同時に作業可能な動線」の確保を希望する。
- ・ 段差や狭い通路など、楽器移動に不便な構造の改善を要望する。
- ・ ポップス系公演では持込機材の対応設備の充実が必須である。
- ・ 観客動線、出演者・スタッフ動線の両方でエレベーターの設置を希望する。
- ・ 1,000 席程度の中ホールを設けることで、中規模の催しの受け皿とし、大ホールの規模を必要とする利用者により多くの機会を提供できるようにしてほしい。

イ ギャラリー利用者の意見

高校生による美術展を主催する団体及び大学生による美術展を主催する学校法人からヒアリングを行った。

【課題】

- ・ 県民ホールのギャラリーは、広さ・天井の高さ・展示しやすさなどの点で高く評価している。
- ・ 大規模展示に対応できる代替施設がなく、過去の県民ホール休館中はギャラリーではない学校施設等を利用したり、会場を分散したりといった対応が必要だった。

【要望】

- ・ 壁面に釘打ち可能など、展示設備の自由度を確保してほしい。
- ・ 映像作品への対応（プロジェクター、大型モニター、電源、吊り点の整備）をしてほしい。
- ・ 作品搬入の際、様々な車両（バンや大型車）による出入りに対応できる搬入設備を充実してほしい。

（３）神奈川県民ホール及び県立音楽堂利用者満足度調査（令和元(2019)年度～令和 6 (2024) 年度）

県民ホール利用者に対して満足度調査を行った際に、施設等についての主な意見は次のとおりであった。

- ・ エレベーター、エスカレーターをつけてほしい。
- ・ 高齢の方や障がい者にとっては、階段の上り下り、迂回路の距離が長いことやトイレの手すりがないことが不自由である。
- ・ 3 階前方の中央付近の席で遅れてくる床の揺れがある。

- ・ 座席の間隔が狭い。
- ・ 座席の配置が悪い。
- ・ トイレが定員に対して少ない。特に女性のトイレが少ない。
- ・ 授乳待ちが複数発生しているので、授乳室の拡充をお願いしたい。
- ・ 大ホールロビーが狭いので、物販を行うと大混雑になる。
- ・ 開演前にくつろげる場所がほしい。
- ・ 雨天の入場方式がよくない。
- ・ 小ホール利用時に階段で荷物を運ばなければならないところや、階段を登れない来場者の対応に不便を感じた。
- ・ 各室で水などを飲めるようでウォーターサーバーを設置してほしい。
- ・ 利用時間を朝 8 時からにしてほしい。
- ・ 無料 Wi-Fi を設置してほしい。
- ・ 館内が迷いやすい。動線を覚えるのが大変。
- ・ 県内の高校生の美術・工芸・パフォーマンス・映像作品が一同に会し、展示できる施設は他にはないので休館されると困る。
- ・ ギャラリーのライトの強弱が調整できるようにしてほしい。
- ・ ギャラリー使用時に別途作品保管室や審査室がほしい。
- ・ ギャラリーの第 5 展示室を使うと、第 3、4 展示室に行くために展示室を横切ることになってしまうため、空間がもったいない。
- ・ 貸館について、早い時期から予約確定できないため、大きなイベントには使いづらい。
- ・ 貸館の際の書類の提出等の手続きをオンラインでできるようにしてほしい。

第3章 県民ホール本館のあり方に関する県の検討状況

1 新県民ホールの建替え判断に至った経緯（検討結果）

令和6(2024)年11月28日、神奈川県議会第三回定例会において、建替えによる再整備を進めていく方針を発表した。大規模改修と建替えに関する比較検討結果は次のとおり。

（1）財政負担の見込み

再整備を検討するに当たり、財政負担の見込みを立てた。

大規模改修を行う場合、コンクリート中性化対策工事、電気設備、空調設備、衛生設備、舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備の改修を行い、改修後30年利用することを想定した保全計画の検討及び必要概算費用の策定を行った結果、財政負担は312億円程度となる。

次に、建替えを行う場合、現状と同等規模の施設と延べ床面積を持つこととし、建替え後80年利用することを想定して試算した結果、財政負担は420億円程度となる。

なお、建替えの場合の㎡当たりの建設費単価について、当時建てられたホールの事例を参考に「120万円/㎡（税抜き）」と想定した。（※令和5(2023)年時点での試算、令和7(2025)年時点では約155万円/㎡（税込み）の事例も出てきている）

（2）費用対効果について

大規模改修の場合、財政負担312億円に対して30年の利用想定となるため、1年当たりの県費負担は10.4億円となる。一方、建替えの場合、財政負担420億円に対して80年の利用想定となるため、1年当たりの県費負担は5.3億円となる。

年割額で比較すると大規模改修の方が建替えに比べて約2倍の県費負担になる。

【財政負担額比較表】

	建替え案（延床面積約29,000㎡）	大規模改修（延床面積約28,500㎡）
再整備後の使用可能年数	80年	30年
財政負担額	420億円 (5.3億円)	312億円 (10.4億円)

※（ ）内は建設・改修後の使用可能年数80年又は30年維持を想定した場合の年割額

（3）課題への対応について

大規模改修の場合、次の課題等に対応することが難しい。

ア ユニバーサルデザインへの対応

- ・ 2階や3階客席に行くためのエスカレーターやエレベーターを新設することが構造上難しいため、階段が多いと指摘されている動線を改善することはできない。
- ・ 出演者や従業員の動線についても、ユニバーサルデザインへの対応は難しい。

イ 災害時の避難所機能

- ・現在の施設は電気設備等が地下1階にあるが、大規模改修では構造を変えることができないため、津波への対応が難しい。

ウ 脱炭素（ZEB Ready）への対応

- ・太陽光発電設備の導入や自家用発電機の更新、照明のLED化は大規模改修により可能だが、太陽光パネルの設置可能面積や建物の断熱性能の向上など大規模改修では対応内容に限界があり、ZEB Ready を達成できない可能性がある。

エ 地域との連携の強化

- ・施設の構造自体は変わらないため、地域との連携を担当する部門のための活動場所や専用スペースを確保することは難しい。

オ 設備改修の容易性

- ・施設の構造自体は変わらないため、壁に埋め込まれた配管類の改修が難しい。

カ 各機能に関する課題

- ・大ホールを効率的に活用する対応案として、例えば中規模ホールを設けるなど、建物の構造を変えるような対応は難しい。
- ・ギャラリーはオープンな構造のため、消火設備や音漏れなどの課題への対応が難しい。

キ その他

- ・施設の構造自体は変わらないため、音響面、搬入、動線に関する改善が難しい。

（４）比較検討結果

上記の比較検証の結果、県費負担の年割額では、建替えの方が2倍近く費用対効果が高い。また、ユニバーサルデザインへの対応をはじめ、避難所機能、大ホールの活用状況の改善やギャラリーに求められる諸機能に関する課題への対応等、大規模改修では対応が難しく、建替えでないと柔軟に課題に対応することができない。建替えの方が再整備後の利用者満足度が高くなると考えられ、これらのことを総合的に判断し、建替えの方針で再整備を進めていくこととした。

2 基本構想の策定に向けて

（１）県民ホール本館再整備基本構想策定委員会の設置

建替えにあたり、新県民ホールが目指すべき方向性や求められる機能等を整理した基本構想を策定するため、専門家や公募委員による「神奈川県立県民ホール本館再整備基本構想策定委員会」を設置して、検討を行った。

(2) 県民参加の取組（みんなでつくる県民ホール）

基本構想に県民の意見を十分反映し、県民が新県民ホールに対し、親しみを抱くような意識を育むため、次の県民参加の取組を実施した。（取組はいずれも令和 7 (2025) 年）

ア かながわハイスクール議会 2025 （8 月 18 日実施）

神奈川県内の高校生が県庁の議場などで議論し、県政について政策提言などを行う標記議会の文化スポーツ観光常任委員会において、テーマを「みんなで新しい神奈川県民ホールをつくりましょう」として議論を行い、知事への質疑が行われ、政策提言がされた。

イ 知事と当事者とのオンライン対話（9 月 3 日実施）

県の課題をより当事者の目線から把握するために、黒岩知事が、当事者や特定課題に精通した関係団体などと少人数で意見交換を行うオンライン対話において、「新県民ホールに期待すること」をテーマに、若手アーティストや高校生などと意見交換を行った。

ウ みんなでつくる県民ホールアイデアコンテスト（7 月 13 日～10 月 10 日実施）

「県民ホールでやりたいこと」、「こんな機能があると利用しやすい」など新県民ホールに対してのアイデアを描いたイラストを公募し、45 件の応募があった。

エ みんなでつくる県民ホールアイデア箱（7 月 13 日～10 月 31 日実施）

県ホームページに新県民ホールへのアイデアを自由に投稿できるフォームを設け、12 件の投稿があった。

オ 県民ホール主催事業でのアンケート（3 月 3 日～8 月 24 日）

県民ホールが実施した主催事業の中で実施するアンケートに、「新しい県民ホールについてのご意見（自由記述）」の項目を設け、回答を AI（Chat GPT）により要約した。

カ 関係団体へのヒアリング（7 月 17 日～9 月 10 日）

県民ホールを利用したことのある団体や近隣の地域団体、映像技術や舞台芸術の専門家、障がい者団体等関係団体へのヒアリングを行った。

【ヒアリング先一覧】

NO	ヒアリング先	ヒアリング日
1	神奈川県吹奏楽連盟	7月17日
2	神奈川県高等学校文化連盟	7月18日
3	一般社団法人神奈川県知的障害施設団体連合会	8月1日
4	神奈川県合唱連盟	8月6日
5	バレエ団	8月10日
6	舞台監督	8月14日
7	公益財団法人横浜市観光協会	8月15日
8	公益財団法人東京二期会	8月15日
9	公益財団法人神奈川芸術文化財団	8月15日
10	国立新美術館	8月25日
11	新国立劇場技術部	8月26日
12	横浜商工会議所	8月27日
13	NPO 法人神奈川県視覚障害者福祉協会	9月10日

(3) 県民参加の取組から把握した新県民ホールに対しての意見

ア 県民ホールが果たしてきたこれまでの役割の継承

【意見例】

- ・ 商業的に成功することも大事だが、オペラ、バレエなど商業的な成功という点では困難を抱える分野もあるので、公共劇場じゃないとできない文化芸術の事業を、責任をもってやっていくことが重要と思っている。
- ・ 様々な種類の音楽と美術を楽しめる唯一無二の施設で、地元から愛されている場所だと思っている。これほど多様な客層が来る県の管理している施設はない。
- ・ オーケストラと公募による県民合唱団の公演活動（周年記念事業等）は、素晴らしい取組だったし、定期的に県民合唱団を組織し公演を続けてきたことは、神奈川の合唱文化の向上に、深く寄与されたと思う。ミュージカル・演劇に特化して KAAT があるように、「オペラ」「オーケストラ付き合唱」「バレエ公演」といった総合舞台芸術のためのホールを建設してほしい。

イ 機能の向上、バリアフリー対応等による鑑賞環境の充実

【意見例】

- ・ エレベーターがあり、入口から客席まで車椅子で移動できるのが理想。ヒアリンググループなどの設備は、劇場側で備えてあるとよい。
- ・ 多機能対応などトイレの数を増やしてほしい。

- ・乳幼児、幼児連れでも気にせず親子、家族で観覧できる場所がほしい。（小さなお子さん連れの親御さん、未就学児、または長時間の鑑賞の練習などができる、ホール内のライブビューイング席。観客席の一番うしろにガラス越しに鑑賞できる所など。）
- ・しゃべっても良いといったエリアがあるとよい。視覚障がい者に一緒に付いてきてくれる人（ガイドや家族など）が説明してくれる時のこそこそ声がうるさいと言われるため。

ウ 地域の賑わい創出の役割の必要性

【意見例】

- ・休憩スペースやカフェも併設されていたらとても利用しやすいと思う。
- ・屋上庭園などがあり、そこで何かできればよい。外に喫茶店のテラス席を用意すると外国人も来やすいと思う。夜もやってくれるとよい。
- ・キッチンカーを呼んだり、イベントスペースとして利用できるような広場的空間はあった方がよい。
- ・子供から大人まで楽しめる、日常的に文化に触れられる仕掛け、また、屋上テラスやオープンスペースを活用し、学習や交流に使える空間を整備してほしい。

第4章 理念と方針

1 基本理念と基本方針

(1) 基本理念

「県民の文化芸術のホームと感じられる拠点 ～人・文化・街がつながる～」

新しく生まれ変わる県民ホールは、県民一人ひとりが文化芸術活動を通じてつながる場であり、時代を超えて行きたくなる場所、帰りたくなる場所、居たくなる場所であり続け、県民にとってのホームと感じてもらえる拠点となることを目指す。

あらゆる人々が集い、過ごし、交流し、学び、表現を楽しみ、感動し、夢を育むことができる新たな公立文化施設として、これまでの県民ホールの歴史と役割を引き継ぎつつ、未来を見据えた創造的な取組を推進する。

(2) 基本方針

基本理念を実現するため次の5つの基本方針を定める。

- I あらゆる人々が文化芸術に出会う広場
- II プロフェッショナルな文化芸術の創造と鑑賞の場
- III 県民が集う文化芸術活動の場
- IV 国内外の団体等との連携拠点
- V 持続可能な施設

(3) 基本方針の内容

I あらゆる人々が文化芸術に出会う広場

年齢、障がいの有無、国籍、文化的な背景等に関わらず、誰もが気軽に訪れることができる、「文化芸術に出会う広場」を目指す。

見る人、発表する人、働く人、文化芸術にまだ興味を持っていない人も含め、あらゆる人々が集まりやすく、使いやすい、開かれた場所を実現する。県民ホールで行われる様々な活動を通して、文化芸術に触れ、出会い、交流し、新たな発見ができる広場を目指す。

II プロフェッショナルな文化芸術の創造と鑑賞の場

国内外の優れた舞台芸術を招聘し、質の高いオペラ、バレエ、クラシック音楽、演劇、ダンス、伝統芸能からアーティストによるコンサートまで、多様なジャンルの文化芸術を国内外の多くの人が鑑賞できる機会を提供する。また、ギャラリーを活用し、美術品の巡回展や現代アートの展示、若手芸術家の作品展示を企画していく。

自主事業では、県民ホール単独での企画のほか、国内外の文化施設との共同制作など、多様で質の高い作品の創造と鑑賞の場となることを目指す。

さらに、プロ又はプロを目指すアーティストやクリエイターの活動を後押しし、また、県民、地域とアーティストが協働して新しい価値を探索するなど、県民ホールから新たな文化芸術が生まれるための基盤を構築する。

Ⅲ 県民が集う文化芸術活動の場

文化芸術活動に取り組む県民に対し、練習や発表の場を提供する。県民が文化芸術活動に係る専門的な知識や技術を得るための環境を整え、県民の文化芸術活動が充実するよう支える。

また、未来を担う世代を対象とした教育事業、普段芸術に触れていない人々への普及事業を展開し、文化芸術の裾野を広げ、次世代の才能を育む。

Ⅳ 国内外の団体等との連携拠点

国内外の文化施設と連携し、文化芸術全体の振興に寄与する。

県民ホール単独での事業にとどまらず、国内外の他文化施設との連携事業や、招聘事業、共催事業、協力事業などを幅広く展開することで、より多様で質の高い作品の鑑賞の機会の創出と文化芸術の創造拠点としての役割を果たす。

さらに、県内市町村、各種文化団体、民間事業者、教育機関、NPOなど多様な団体と積極的に連携し、「地域を繋ぐハブ」として機能し、文化芸術による活力ある地域社会の実現を目指す。

Ⅴ 持続可能な施設

県民ホールでの取組を通じて、誰もが鑑賞し、出演・出展し、交流し、働ける環境を構築し、自分らしく生きるための基盤を築くことで、共生社会の実現に貢献する。

過去から現代へと受け継がれてきた文化を未来へと継承していく役割を担うと共に、事業価値を客観的に検証し、持続可能な運営体制を確立することで、未来に向けた活動の質の向上を図っていく。

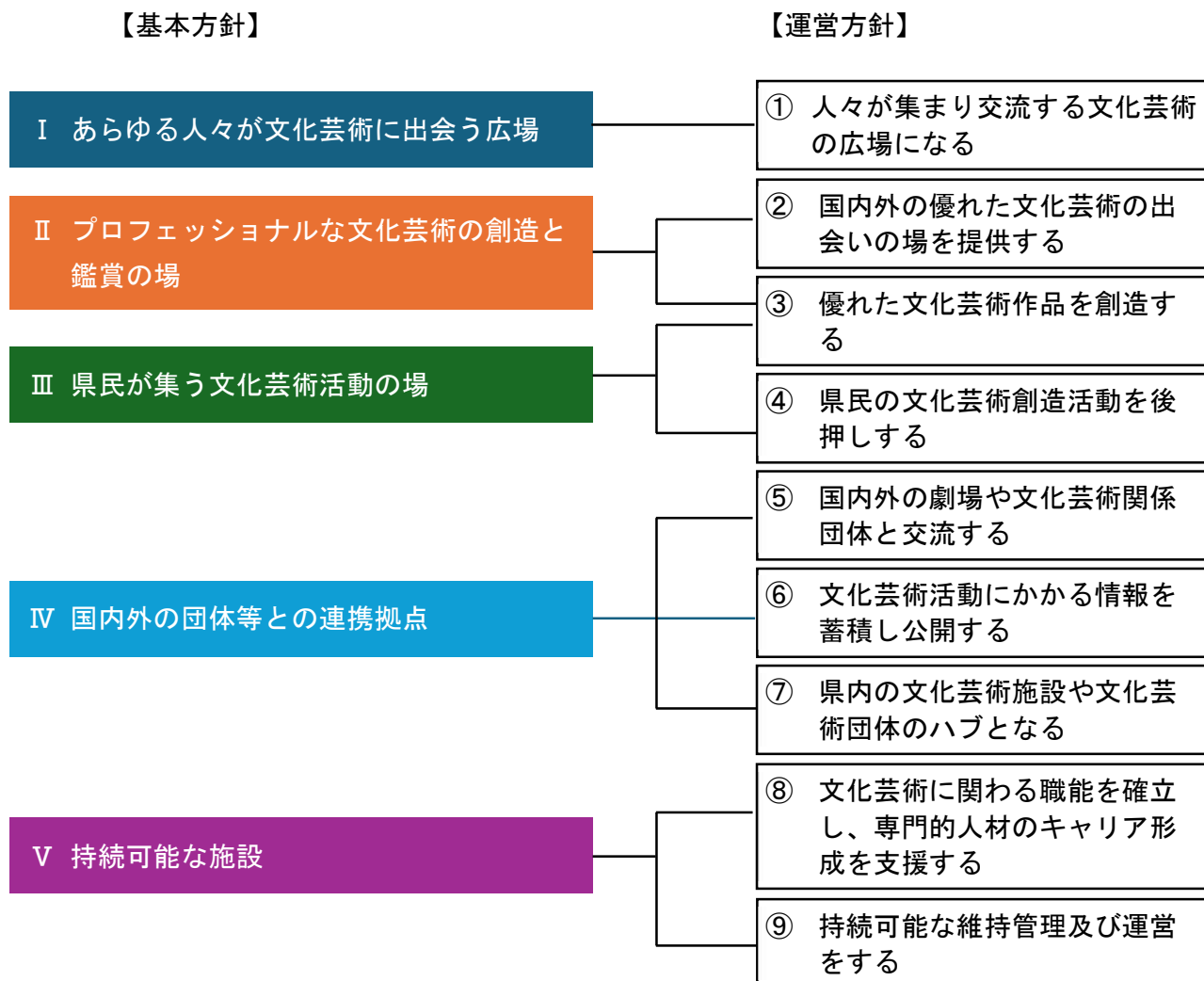
人材こそが重要であるという考えのもと、施設で働くスタッフが安心して働ける環境や、文化芸術に関する知識や技能を学べる環境を整え、次世代を担う人材のキャリア形成を支援する。

脱炭素や省エネルギーなどの環境への配慮及び長期的な財政負担の削減に配慮した施設的设计、建設、管理運営、事業を実施する。

2 運営方針

(1) 基本方針と運営方針

5つの基本方針を実現するため、次の9つの運営方針を定める。



(2) 運営方針の内容

9つの運営方針を実現するための文化政策・事業の方向性は次のとおり。

新県民ホールでは、基本理念の実現のため、前述した基本方針、運営方針に基づいた施設整備、管理運営を中長期的な視点で計画する。

今後80年、100年と将来にわたり県の文化芸術の拠点となる施設を整備するに当たっては、現時点での実現可能性のみで検討するのではなく、中長期的な視点でこれらの基本理念や基本方針、運営方針の実現を目指す。

運営方針①人々が集まり交流する文化芸術の広場になる

文化芸術の広場として、見る人、発表する人、働く人、文化芸術にまだ興味を持っていない人など、あらゆる人が集まり、年齢、障がいの有無、国籍、文化的な背景等を含めた、多様な人が居心地良く過ごすことができる施設を目指す。

そして、来訪をきっかけに、気軽に文化芸術に触れ、学びを得る、または今後の文化芸術活動のモチベーションに繋がるような機会を得ることができる場を目指す。

また、県民ホールの活気が外側にも自然と伝わるような開放的な空間など、誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気醸成し、カフェやレストランなどの休憩・飲食機能を設け、山下公園やみなとみらいの景色を楽しめるような空間づくりを行うなど、文化芸術に馴染みのない人でも気軽に中に入りやすい環境をつくる。

運営方針② 国内外の優れた文化芸術の出会いの場を提供する

国内外の優れたクラシック、オペラ、バレエ等の文化芸術団体やアーティスト等の公演を実施する。あわせて、著名作家や新進気鋭の作家などの展示やアート作品等を鑑賞する機会を提供する。これらの取組を通して、県民に国内外の優れた公演、展示等を鑑賞する出会いの場を提供する。

また、県民が文化芸術鑑賞をするに当たり、行きたくなる施設を目指し、そのための適切な情報提供を行う。

運営方針③ 優れた文化芸術作品を創造する

県民ホールで優れた文化芸術作品を創造できる環境を整備し、創造した作品の公演や展示、他の劇場やギャラリー等と連携した巡回公演や企画展などを実施する。そのために、優れた文化芸術作品を創作できる人材のキャリア形成を支援し、運営者が創造活動のために機動的かつ柔軟に使用できるようなスペースを持ち、創作した作品を発表できる環境を整備する。

また、ホールとギャラリーの両方を持つという施設の特徴を活かした、舞台芸術と美術やメディア芸術が融合した文化芸術作品の創造や、国内外の団体との共同制作作品を創造するなど、神奈川県から新しい価値が生まれるような意欲的な創造活動を行う。

運営方針④ 県民の文化芸術創造活動を後押しする

吹奏楽、美術、合唱、軽音楽、ダンスなど、県民が様々なジャンルの大会、発表、練習、稽古、創作などの文化芸術活動をすることができる施設とする。

また、専門性の高い職員により、文化芸術に関する情報提供やアドバイスを行うなど、芸術家やアーティスト等を目指す県民、または、プロとして活動する県民を後押しする。

さらに、定期的に講座や講習会などを実施し、創造活動を行う県民に対して、専門的な技能を学べる機会を提供する。

運営方針⑤ 国内外の劇場や文化芸術関係団体と交流する

国内外の劇場や美術館、文化芸術関係団体等と積極的に交流する。研修会やワークショップ、人材交流、作品の相互発表等を行い、新しい技術やノウハウ、発想を継続的に吸収し蓄積する。これらの交流を通じ、県民ホールの新たな事業や取組へと繋げていく。

運営方針⑥ 文化芸術活動にかかる情報を蓄積し公開する

県民ホールの主催事業、活動内容、その他文化芸術に関する多様な情報の蓄積機能を持ち、それを公開することで、県民の文化芸術活動の支援に繋げる。

また、公開方法は、情報コーナーの設置やウェブサイト、SNS 及び機関誌など、来場者や利用者はもちろん、遠方に住む方や、障がい等で来場が難しい方にも情報を適切に提供できる機能を持つ。

さらに、映像による記録と配信機能を持つなど、リアルタイム又はアーカイブによる文化芸術作品の発信や最新テクノロジーを活用した文化芸術作品の展開を検討する。

運営方針⑦ 県内の文化芸術施設や文化芸術団体のハブとなる

県内市町村の文化芸術施設や文化芸術団体、教育施設、福祉施設などのハブとなり、人材交流や施設運営ノウハウ等の共有、共同作品の制作、作品の相互発表などを行う。また、その活動のために運営者が機動的かつ柔軟に使えるスペースを持つ。

また、文化芸術活動を通じて地域の賑わいを創出や、教育や福祉へ貢献する。

運営方針⑧ 文化芸術に関わる職能を確立し、専門的人材のキャリア形成を支援する

文化芸術作品の創造や施設の運営に必要な専門的な職能を一定程度組織内に持ち、ノウハウを継続的に蓄積する。優れた文化芸術作品を創りあげるノウハウを持った人材や、県民ホールが持つ「ハブ」としての機能を活かすコーディネート能力を持つ人材など、ホールの活動を支える専門的人材のキャリア形成支援を行う。

運営方針⑨ 持続可能な維持管理及び運営をする

省エネルギーなど環境に配慮した施設の設計、建設を前提とし、長期的に安定した施設運営を可能とするため、財政負担の削減に配慮した効率的で適切な事業の実施と施設の維持管理、設備の更新等を行い、持続可能な文化芸術の拠点づくりを目指す。

また、文化芸術に携わる人材が、長期的に安定して働ける環境を整備する。

第5章 管理運営

1 管理運営の基本的な考え方

(1) 運営組織について

新県民ホールは、文化や芸術という人々の価値観そのものを扱う。また、文化芸術の創造や発表など、今まさに生きて創造の担い手となっている人々と関わりながら運営する必要がある。さらに、地域の賑わいや経済活動、教育や福祉とも密接に関わる複合的な性格を合わせもつ。

そのため、運営組織は、危機管理やコンプライアンスを遵守するとともに、高い倫理観と公共的使命感に基づいた経営文化を確立することが不可欠である。そのような「信頼を基盤とした運営組織」であることが、この施設の社会的価値を長期的に支えるものになると考える。

(2) 自主事業と貸館事業

新県民ホールで展開する事業は、大きく「自主事業」と「貸館事業」の2つがあり、この2つの事業は、ホールの理念を実現するために共に重要な取組となる。

自主事業は、県民ホールの基本理念を実現するために、基本方針及び運営方針に基づいて行われる事業であり、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する事業やホールが自ら企画・制作する事業などがある。また、共生社会の実現に貢献する事業や人材のキャリア形成支援など、すぐには効果が出ないかもしれないが、長期的な視点に立った有意義な取組もここに含まれる。

県民ホールの休館中は、県内市町村でのアウトリーチ事業を複数年に渡り展開し、文化施設や文化芸術団体等とのネットワークを構築していく。新県民ホールでは、自主事業の中で、構築したネットワークを活用した取組を継続して行っていく。

一方、貸館事業は、ホール、ギャラリー、諸室などを広く県民やアーティスト、文化芸術団体、プロモーター等に貸し出す事業である。貸館事業を通じて、県民に幅広いジャンルの公演や展示の鑑賞機会や、県民の文化芸術活動の発表の場を提供することができる。

(3) 管理運営における考慮事項

施設の管理運営は、職員の専門性を高め、利用者の利便性及び公平性を確保するとともに、基本理念、基本方針、運営方針の実現のために必要と考えられる柔軟な対応を行うこととし、次の事項について考慮する。

【考慮事項】

- ・ 施設利用における利便性の向上
- ・ 施設の利用機会の公平性の確保
- ・ 県民の文化芸術活動の充実
- ・ 「自主事業」と「貸館事業」の最適なバランスの検討
- ・ 世界水準の大規模なイベントや公演、全国規模の催し等に対応するための特例予約
- ・ 新県民ホールの基本理念や各方針の実現に寄与する公演等の利用調整
- ・ デジタル技術を活用した手続きや事務作業の効率化 など

2 運営体制と職能

(1) 運営体制の考え方

神奈川県文化芸術の拠点として、多様な事業を継続して展開し、県民に親しんでもらうためには、高い専門性ときめ細やかなホスピタリティが求められる。

これを実現するため、運営、経営、企画制作、舞台技術といった各分野において、高い専門性を持つ人材を確保し、その能力を最大限に発揮できる体制と環境を整えていく。

また、単に専門的な人材を配置するだけではなく、職員の労務環境を適切に整えることで、職員が意欲的かつ継続的に勤務できる環境と運営体制を構築する。

さらに、最新のテクノロジーによる業務の効率化を進めるほか、障がい者の雇用や、ボランティア組織の構築など、誰もが働きやすく多様な人々が運営に携わる施設を検討する。

(2) 必要な職能（組織の目的を達成するために必要な専門的機能）

新県民ホールでは、従来の舞台技術・事業企画・総務管理に加え、基本理念、基本方針及び運営方針の実現のため、多様な社会のニーズに対応した新たな職能について検討する。

例えば、映像制作担当、デジタルメディア担当など、表現方法や鑑賞方法の多様化に対応した職能や、アクセシビリティ・コーディネート担当など、共生社会の実現を推進する職能、ファンドレイジング担当やデータ分析担当など、ホールの持続可能性と経営の安定化を高めるための職能等、これからの文化施設が担うべき機能を人的制度で裏付け牽引することを積極的に考えていく。

【各職能の業務内容】

	業務内容
統括責任者	施設の総責任者
総務	責任者、経理担当、庶務担当、施設管理担当、アクセシビリティ・コーディネート担当、ファンドレイジング担当など
事業	責任者、施設利用担当、制作担当、学芸担当、営業担当、マーケティング担当、調査・研究担当、データ分析担当、デジタルメディア担当など
舞台技術	責任者、舞台機構担当、照明担当、音響担当、映像制作担当、ギャラリー担当、製作工房担当（作品創造時の製作物マネジメント含） など

(3) 職員の労務環境への配慮

ア 適正な労働環境の整備

劇場・ホール運営は開館時間が長く、且つ公演時間や設営作業などで不規則な勤務になることが想定される。職員の心身の健康を保ち、長期的なキャリア形成を可能にするために柔軟で持続可能な労働環境を整えることに留意する。

(例：勤務時間の適正化、個人に対する評価制度の導入、福利厚生の充実など)

イ 専門性の向上とキャリア支援

職員のキャリア形成を支援し、個々の専門性を高め、モチベーションを維持するための積極的な取組を行う。

(例：研修制度の構築、資格取得への支援、他館を含めた職員交流の機会提供など)

ウ 多様性と協調性の尊重

様々な背景を持つ職員が、互いに尊重し、協力し合う風土を醸成する。

(例：多様な働き方の推進、ハラスメント対策の徹底など)

(4) 県立文化施設との連携と役割分担

神奈川県には、ホールを有する県立文化施設として、県民ホールに加え、K A A T 神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂、神奈川県立青少年センター、かながわアートホールがある。

これらの施設のそれぞれの特性と歴史を活かし、県民ホール単独ではなく、それぞれの施設が得意な事業分野を重点的に担うことで、県全体の効率的かつ多角的な文化振興を図っていく。

特に、新県民ホールとK A A T 神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂は、地域、規模、機能など重なる点があり、日常的な連携、役割分担、調整を密接に行うことで、より効果的に事業が実施できると考えられるため、運営の効率化について今後検討していく。

【新ホールの役割分担例】

施設名	主な役割	事業の棲み分け
新県民ホール (横浜市中区)	<u>県の総合的な文化芸術の拠点施設</u> 県民への質の高い芸術鑑賞機会の提供と県民の文化芸術活動の充実。	(ホール1：2,000～2,400 席程度) ・ グランドオペラ、バレエ、フルオーケストラ、ポップス公演等による大規模な舞台芸術公演 (ホール2：600～800 席程度) ・ 文化芸術団体による発表など県民の多様な文化芸術活動 (ギャラリー：1,200 m ² 程度) ・ 美術品の巡回展等による展示 ・ 文化芸術団体による発表など県民の多様な文化芸術活動
K A A T 神奈川芸術劇場 (横浜市中区)	<u>舞台芸術の創造と発信における専門施設</u>	(ホール：約 1,200 席) ・ プロによる演劇、ダンス、ミュージカルなどの創造と発信 ・ 大規模な団体との提携による、数カ月単位のロングラン公演

		(大スタジオ：約 220 席) ・ 主催事業における演劇等の創造と発信
神奈川県立音楽堂 (横浜市西区)	<u>音楽ホールとしての専門施設</u>	(ホール：1,054 席) ・ クラシック音楽を中心とした、高い音響特性を活かした公演 ・ 古楽・邦楽など多様な音楽ジャンルへの取組 ・ 音楽堂の建物自体が持つ歴史的・文化的価値の維持と活用
神奈川県立青少年センター (横浜市西区)	<u>青少年の活動における拠点施設</u>	(ホール：812 席) ・ 教育機関の発表や大会、研修など、教育や学びに直結した活動 ・ 伝統芸能等の公演 (スタジオ) ・ 青少年による劇団等の自主的な創作・発表の場
アートホール (横浜市保土ヶ谷区)	<u>神奈川フィルハーモニー管弦楽団の活動拠点施設</u>	(ホール：300 席) ・ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団のリハーサル (練習室) ・ 県民の練習等

3 文化施設の収支構造

公立文化施設は、県民の心の豊かさに繋がる社会的意義のある多様な事業を展開しており、その取組は、利益の追求を目的とする営利企業とは異なり、必ずしも収益が出るものばかりではない。そのため、公立文化施設が収益事業のみで経済的に自立することは難しく、その公共性に基づき一定の公費が負担されることが一般的である。

そして、運営が果たすべき経営責任は、与えられた資源をより広く社会的価値へと転換し、施設の基本理念や基本方針等を実現していくことであると捉えた上で、施設整備及び管理運営の両面から積極的に経費節減を図るとともに、助成金や寄付金などの外部資金の獲得を積極的に進める。

新県民ホールでは、自主財源の多様化と効率的運営を推進し、公費と自主財源のバランスが最適化された持続可能な運営体制の構築を目指す。

【一般的なホール施設の収支項目】

収入	事業収入	事業における入場料収入や参加費など
	使用料収入	施設提供における施設使用料や付帯設備の使用料など
	設置自治体の負担	指定管理料など施設運営全般に対する設置自治体からの収入
	補助金・寄付金等	事業や活動に対して、公的機関や企業からの補助金や寄付金など
	その他	チケット販売委託による収入や自動販売機による収入など
支出	事業費	県民ホールが主催する事業に係る経費
	人件費	県民ホールを管理・運営していくための職員に対する経費
	維持管理費	設備メンテナンス、清掃、警備、舞台及びギャラリーの設備保守点検等に係る経費 水道光熱費
	事務費	各種機器のリース代や消耗品費、保険等運營業務に必要となる経費
	その他	共益費等

【収支項目のイメージ】

収入	事業収入	補助金	設置自治体の負担（※指定管理料など）
	使用料収入	寄付金	
	その他	など	
	↑ (ファンドレイジングなど)		
支出	事業費、人件費、維持管理費、事務費、その他		

【令和3(2021)年から令和6(2024)年度神奈川県民ホール収支】

項目		R3	R4	R5	R6	平均
収入	貸館業務等	2.45 億円	2.53 億円	2.99 億円	2.78 億円	2.69 億円
	自主事業（チケット収入等）	0.6 億円	0.62 億円	0.67 億円	0.84 億円	0.67 億円
	指定管理料収入	6.23 億円	6.24 億円	6.27 億円	6.28 億円	6.26 億円
	補助金・寄付金等	0.27 億円	0.38 億円	0.32 億円	0.21 億円	0.3 億円
	その他	0.13 億円	0.29 億円	0.02 億円	0.78 億円	0.31 億円
収入合計		9.68 億円	10.06 億円	10.27 億円	10.89 億円	10.23 億円
支出	施設維持管理業務	7.95 億円	8.35 億円	8.59 億円	8.4 億円	8.32 億円
	自主事業	1.25 億円	2.14 億円	1.69 億円	2.14 億円	1.81 億円
	その他	0.14 億円	0.05 億円	0.05 億円	0 億円	0.06 億円
	繰越金等	0.34 億円	-0.48 億円	-0.06 億円	0.35 億円	0.04 億円
支出合計		9.68 億円	10.06 億円	10.27 億円	10.89 億円	10.23 億円

県民ホール年報より

【財政的持続可能性への取組例】

施設整備における経費削減	建物の長寿命化、更新のしやすい構造、設備、機器等の導入による修繕及び更新のコストの軽減 持込機材による公演や展示等を考慮した適度な設備計画
効率的な管理運営	積極的な誘致及び営業活動による収益率の向上 効率的な運営による経費削減 カフェ、レストラン、売店（物販）等における収入（目的外使用との整合性を図ることが必要）
助成金や外部資金等における資金獲得	公的機関や民間企業からの助成金、協賛金、寄付金等の獲得
その他の収入	企業等とのネーミングライツ（命名権）の実施 スポンサー制度、有料会員制度などの設定

4 安全・リスクマネジメント

（１）危機管理の考え方

新県民ホールでは、総合的なリスクマネジメント体制の構築を行う。

防災や事故防止などの物理的な安全管理、情報管理、そして事業継続性の観点から包括的な管理体制を確立するとともに、ガバナンスの強化及びコンプライアンスの遵守を徹底し、信頼を基盤とした運営組織を実現する。

（２）防災

災害発生時には、地域住民や来館者が一時的に身を守り、安全に過ごせる防災機能を担うことを検討する。施設の安全を強化するため、最新の耐震・免振技術の導入や耐火性の確保など、大規模災害時にも施設の機能を維持する方法を検討する。

また、利用者、職員の避難を速やかに行うための避難計画を策定し、定期的な訓練を実施することで防災意識を高める。

加えて、災害時に活動ができるよう、非常用電源や防災備蓄品、通信手段を確保する。

（３）事故防止

「平時の予防措置」と「緊急時の対応体制」の面から整理する。

平時の予防措置においては、観客が集中する混雑時の動線計画の整理、傷病者への対応としてAEDや一時的な救護室の設置、オープンエリアとクローズドエリア（舞台裏、楽屋等）それぞれに適した警備体制の強化等を検討する。また、日頃から舞台機構、電気設備、空調システムなどの老朽化対策や定期的な点検体制を確立する。

緊急時の対応体制については、具体的な行動指針を定めマニュアルを作成する。特に、年齢、障がいの有無、国籍などを考慮した多様な利用者を想定し、全ての人に適切な情報が届く避難

誘導方法を検討する。さらに、警察や消防、医療機関等との連携体制を構築し、緊急時の迅速な情報共有と支援に備える。

（４）情報管理

個人情報や事業に関する非公開情報の保護体制を確立する。情報セキュリティ対策として、外部からの不正アクセスやサイバー攻撃による情報漏洩を防ぐため、セキュリティシステムと保守管理体制を構築する。また、チケット購入者等の個人情報を適正に管理・運用するため、個人情報保護規定を定め、職員への教育を徹底する。

（５）事業継続

緊急事態が発生した時に、早期に復旧すべき優先事業を検討したり、施設が利用不可能になった場合に代替施設や代替手段を確保できるよう、県内の文化芸術施設や団体とのネットワークを構築したり、県民の文化活動やサービスを迅速に再開するための復旧計画を策定するなど、県民の文化芸術拠点として、緊急時にも機能を維持し、文化政策の停滞を防ぐための事業継続性を確保する。

５ 管理運営手法について

（１）管理運営手法

現在、地方自治法では、公の施設である公立文化施設の管理運営は、「指定管理者」に管理を行わせることができるとされている。（地方自治法第 244 条の 2）

また、P F I 法（民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律）では、「民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用した公共施設等の整備等の促進を図るための措置を講ずる（P F I 法第 1 条）」と規定されている。ここで言う整備等とは「公共施設等の建設、製造、改修、維持管理若しくは運営又はこれらに関する企画をいい、国民に対するサービスの提供を含む。（P F I 法第 2 条第 2 項）」とされている。

今後、それぞれのメリット・デメリットを精査し、複合的に適用することも含め、基本理念、基本方針及び運営方針の実現をするため、新しい文化芸術施設の運営母体として、適切な管理運営手法を検討する。

【管理運営手法比較】

直営	施設の設置者である自治体が、直接的に管理運営を担う。 直営方式の利点は、県の文化振興に関する理念や方針を組織内で一貫して実現できる点にある。 しかし、劇場運営には専門性や柔軟な対応が求められるため、全ての業務を自治体職員のみで担うことは現実的ではない。そのため、専門的な業務を外部に委託する事例が多く見られる。 直営の場合、専門性の確保や、夜間や土日祝日など不規則な勤務形態への対応、利用者の多様なニーズに応えるためのサービス提供のあり方などが課題となる。
指定管理者	多様化するニーズに、より効果的に応えることを目的として、民間の専門的なノウハウを活用したサービスの向上や経費の縮減を図る制度である。 これまで公共的な団体等に限定されていた公の施設の管理運営を、公益財団法人や民間企業など、幅広い団体が担うことができる。専門的な知見を持つ組織が運営を担うことで、質の高いサービスやホスピタリティの提供、専門性の確保が期待できる。 一方で、指定期間が定められた期間に限定されるため、数年ごとに管理運営者が変わる可能性があり、事業や運営の継続性をどのように確保していくか、という点が課題となる。
P F I	P F I 法に基づき、民間事業者が公共的施設の整備と併せて管理運営を行うスキーム。事業方式として、B T O方式、B O T方式、B O O方式などがある。指定管理よりも範囲が広範で、長期契約（10～30年程度）を前提に、施設の建設、資金調達、運営まで民間が一体的に担う。
コンセッション方式	平成 23(2011)年の法改正で導入された「公共施設等運営権制度（P F I 法第 22 条以下）」で施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定する制度が整備された。P F I の方式の一つとなっている。

第6章 施設整備

1 機能エリア別の概要と諸室のイメージ

新県民ホールが目指す基本理念、基本方針、運営方針を実現するための施設として機能エリアごとに概要と諸室等のイメージを整理する。

それぞれの機能エリアは、基本的に個別の利用が想定されるため、独立した動線を確保する。また、相互に干渉する懸念がないように遮音性能や振動対策を行うとともに、必要に応じて連携して機能させることも検討する。

機能エリア	概要	諸室等のイメージ（例）
大ホール	<u>本格的なオペラ、バレエが実施できる多機能ホール</u> ・ 本格的なオペラ、バレエのほか、ダンス、ミュージカル、大型演劇、伝統芸能など大規模な舞台芸術の上演ができる。 ・ 音響反射板を備え、静穏性と生音の響きを活かしてクラシックや吹奏楽などの音楽芸術にも利用できる。 ・ 大規模なポップスやロック、ジャズなどの全国ツアーの他に、大会や集会などにも利用することができる。 ・ リハーサル室は、災害時の避難所としても利用できる。	・ 形式 プロセニウム ・ 客席 2,000～2,400 席程度 (立ち見席 100～200 程度を含む) ・ 舞台 主舞台 両袖舞台 それぞれ主舞台と同等の広さ 奥舞台 主舞台の半分程度の広さ ・ オーケストラピット ・ 奈落 主舞台同等の広さ ・ 楽屋 大規模な催しでも対応可能な規模 ・ リハーサル室 主舞台同等の広さ ・ 搬入 ハイキューブコンテナ 2 台分の広さ
中ホール	<u>県民利用中心の多機能ホール</u> ・ 県民の文化芸術活動の発表ができる。 ・ 演劇やダンス、伝統芸能をはじめとする舞台芸術公演にも利用できる。 ・ 大ホール同様に音響反射板を備え、中規模なクラシックや吹奏楽などの音楽芸術に利用できる。	・ 形式 プロセニウム ・ 客席 600～800 席程度 (立ち見席～100 席程度を含む) ・ 舞台 主舞台 両袖舞台 合わせて主舞台と同等の広さ ・ オーケストラピット（張り出し舞台） ・ 奈落 主舞台同等の広さ ・ 楽屋 多様な催しに対応可能な規模 ・ リハーサル室 主舞台同等の広さ ・ 搬入 ハイキューブコンテナ 1 台分の広さ
ギャラリー	<u>美術品の巡回展にも対応できるギャラリー空間</u>	・ 合計 1,200 m²程度の展示空間 ・ 天井高 4～8 m 程度 ・ ロビーあり

	・神奈川県美術展など、大規模展示ができる。 ・美術品の展示もできる。 ・展示室について、区画するなどスペースを効率よく利用できる。 ・空間を活用した舞台芸術、ダンス、音楽などの利用も想定する。	・搬入 4tトラック（ロング）1台分の広さ
練習室	<u>様々な用途に利用できる多機能空間</u> ・舞台芸術、音楽芸術、美術にかかる練習や発表など様々な用途に利用できる。 ・必要に応じて会議室や楽屋としても利用できる。	・大（270 m²程度）×複数室 ・中（135 m²程度）×複数室
製作工房	<u>映像機能を含む、舞台公演を安定的に上演するためのバックヤード</u> ・舞台公演を安定的に上演していくための機能を有する。 ・映像の製作、撮影、加工・編集、配信などの機能を有する。	・製作工房（映像製作、撮影、配信） ・製作工房（衣装・幕類） ・製作工房（材料加工） ・製作工房（組立・塗装） など
交流機能	<u>誰でも自由に出入りでき、文化芸術と新たに出会える</u> ・立地を活かした展望が楽しめる。 ・用事が無くても訪れ、休憩し、飲食できるなど居場所になる。 ・文化芸術と新たに出会える。 ・公演や展示、文化芸術に関する情報を得ることができる。（教育機能）	・ロビー ・休憩スペース ・展望スペース ・情報コーナー、案内機能、教育機能 ・展示スペース ・イベントスペース ・ライブビューイングスペース ・飲食機能 など
その他機能	<u>あらゆる人が安心して利用し、また働ける環境</u> ・働きやすい管理事務所機能。 ・託児所を設ける。 ・事業者等が利用できる諸室を設ける。	・事務所等 ・託児所 ・貴賓室 ・事業者用スペース など

※その他、駐車場の整備が必要

2 整備を進める上で配慮すべき事項

(1) パイプオルガンの継承に向けた検討

県民ホールの小ホールには、日本の公立文化施設に最初に設置された歴史あるパイプオルガンが設置されている。新県民ホールの再整備に当たり、この貴重な文化遺産を何らかの方法で次世代へと継承する必要がある。

今後の検討の方向性として、新県民ホールのホールにパイプオルガンを再設置する場合、パイプオルガンに合わせた舞台や客席空間にする必要があり、ホールの機能が限定されるため、県民利用を想定した多目的での活用や、多様な文化芸術活動の場となることが難しくなる可能性がある。

そのため、パイプオルガンを継承するための一つの選択肢として、より多くの県民が豊かな音色を身近に感じられる機会を創出するため、誰もが気軽に立ち寄れるパブリックスペースへの設置など、様々な可能性を検討していく。

これらの検討は、専門的な知見が不可欠となるため、今後、専門家や関係者と協議しながら具体的な検討を進めていく。

(2) 横浜市の動向

新県民ホールの再整備は、横浜市が策定した「山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン」をはじめ、福祉政策や文化政策など、地元である横浜市の政策と整合性を取りながら進めていく必要がある。

ア 令和7(2025)年10月 山下公園通り周辺地区まちづくりビジョンの策定

ビジョンの中で、「4 地区の将来像とまちづくりの方向性」として、「国内外から人や企業を惹きつける多彩な機能の導入」について次のような記載がある。

■世界水準のエンターテインメントに触れられる場の創出

- ・ 音楽ライブや映画祭等、世界水準のエンターテインメントを楽しめる施設を充実させ、来街者がいつ訪れてもワクワクするような体験の場を提供していきます。
- ・ 本格的なオペラやバレエ等の舞台芸術を上演できる施設を整備し、主催者や演者など、様々な主体から選ばれる場を創出します。
- ・ エンターテインメントや文化芸術の営みが公共空間や広場に滲み出されることで、誰もが気軽に文化に触れられる魅力的な空間を創出します。
- ・ 市民が身近に文化芸術を体験し、表現する機会を創出することで、将来、文化芸術分野で活躍する人材の育成や豊かなライフスタイルの実現につなげていきます。

また、「5 まちづくりの実現に向けて」の中で、県民ホールが立地するエリアは、「みなとみらい方面、関内駅方面から来街者を迎え入れる結節点であり、みなとみらい線日本大通り駅や大さん橋国際客船ターミナルに近接」している西の結節点となっている。

イ 横浜市福祉のまちづくり条例、施行規則及び施設整備マニュアル

【横浜市福祉のまちづくり条例施行規則】

バリアフリー法施行令の「便所」、「駐車場」及び「劇場等の客席」の基準が改正されたことを受けて、横浜市福祉のまちづくり条例施行規則の一部が改正され、令和7(2025)年6月1日より施行される。

【横浜市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル（建築物編）の改正】

福祉のまちづくり条例施行規則を改正に合わせ、施設整備マニュアルが改正された。マニュアルでは、「移動等円滑化経路」「駐車場」「廊下等」などの整備項目について整備基準が示されている。

ウ 「横浜未来の文化ビジョン（仮称）」骨子案（令和8(2026)年3月策定予定）

横浜市では、平成24(2012)年に「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」を策定し、文化政策を推進してきた。

策定から13年が経過し、これまでの成果と課題、文化の現状、環境の変化を踏まえ、「10年後の横浜の文化の将来像」を『横浜未来の文化ビジョン（仮称）』として描くこととした。このビジョンにより、文化施策の目指す方向性を明確化し、事業手法を再構築することで、市民が文化的豊かさを実感できるようにすることを目的としている。

3 施設整備手法

施設整備に当たり想定される整備手法には、次のようなものがある。それぞれの手法のメリット及びデメリットを考慮しつつ、県民ホールの再整備に適切な手法を今後検討していく。

新県民ホールでは、施設の理念、基本方針及び運営方針を実現することが重要であるため、運営の柔軟性や独自性、公共性が担保されることを重視し、設計段階から運営の考え方が反映されるような整備手法を検討する。

また、近年、建築資材の高騰等により、公共文化施設における入札不調や工期遅延が全国的課題となっているため、計画通り施工でき、早期の再開が望める方法を検討する。

（１）整備手法の分類と整理

整備手法	内容
従来方式	地方自治体が事業主となり、「設計」「建設」「維持管理」「運営」の各段階において、個別に発注する手法で、最も一般的な方式である。 （メリット）設計に関して、自治体（発注者）の意向が的確に反映され、求める仕様や性能を確保しやすい。 （デメリット）事業全体の効率化・コスト縮減は難しく、民間の創意工夫の地が少ない。設計者、施工者、運営者が異なるため、運営者の意見が設計に活かされにくい。

設計・施工一括発注方式 (DB : Design Build)	地方自治体より求める性能（要求水準）を示し、同一契約で「設計」と「施工」をまとめて発注する手法。 （メリット）設計の段階から施工を見据えた調整や準備が可能であり、工期短縮やコスト削減が一定程度期待できる。 （デメリット）コストを抑えられる設計を優先するなど、設計に施工者の意見が反映されやすく、自治体（発注者）にとって制約がしやすい。
ECI 方式 (Early Contract Involvement)	設計段階から施工者が関与する方式。施工者は工事契約の前に別途契約する「設計業務への技術協力」を設計段階で行い、その期間中に施工の数量・仕様を確定した上で改めて工事契約をする。 （メリット）設計段階から施工者が関わり、入札前に技術上の問題を解決して資材や技術者を用意できるので入札不調を未然に防ぎ、工事期間を短縮する効果が期待できる。DB よりも発注者の意向を反映しやすい。 （デメリット）施工者の競争性をどう担保するかが課題となる。
PFI 方式 (Private Finance Initiative)	民間事業者が自らの資金で施設の「設計」「建設」を行った後、引き続き、事業期間を通して施設の維持管理及び運営業務を行う方式。建設後に地方自治体に施設の所有権を譲渡する BT0 (Build Transfer Operate)、事業終了後に所有権を地方自治体へ移転する BOT (Build Operate Transfer) 方式などがある。 （メリット）設計施工から管理（運営）まで一括発注のため、DB のメリットに加え、公共サービスの向上や財政負担の軽減・平準化が期待できる。運営・維持管理の視点を設計施工に反映しやすい。 （デメリット）コストを抑えられる設計を優先するなど、設計に施工者の意見が反映されやすく、自治体（発注者）にとって制約がしやすい。契約時の事業計画に縛られるため、契約期間中の社会情勢の変化に対応しづらい。建設から運営まで一貫して事業性が求められるため、採算性の低い事業が成立しづらい。（運営リスクが大きい場合、民間事業者の参加意欲が低下する。）
市街地再開発事業	都市再開発法に基づき、市街地の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るために、建築物及び建築敷地の整備とあわせて公共施設の整備を行う。 （メリット）地域のまちづくりの視点から効果的な事業が実施できる。保留床処分や国庫補助の活用等により、コスト削減効果が期待できる。 （デメリット）事業計画等について関係権利者の同意が必要となるほか、都市計画法（市街地再開発事業の都市計画決定等）や都市再開発法（組合設立、権利変換計画認可等）に基づく法定手続きが必要となり、整備にかかる事業期間が長い。

(2) 更新事例の整備手法による分類

整備手法	事例（開館年）
従来方式	長野市芸術館（平成 28（2016）年） 観音寺市民会館（平成 29（2017）年） 堺市民芸術文化ホール（令和元（2019）年） 那覇文化芸術劇場（令和 3（2021）年） あきた芸術劇場ミルハス（令和 4（2022）年） 高槻城公園芸術文化劇場（令和 5（2023）年） 丸亀市民会館（THEATRE MAdo）（令和 8（2026）年予定） 新唐津市民会館（仮称）（令和 8（2026）年予定） 宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザ複合施設（令和 10（2028）年予定） （仮称）国際センター駅北地区複合施設（基本設計実施中）
設計・施工一括発注方式 （DB：Design Build）	ロームシアター京都（改修）（平成 28（2016）年） 小田原市民ホール（令和 3（2021）年）
ECI 方式 （Early Contract Involvement）	釜石市民ホール TETTO（平成 29（2017）年）
PFI 方式 （Private Finance Initiative）	杉並公会堂（平成 18（2006）年） いわき芸術劇場アリス（平成 20（2008）年） 静岡市清水文化会館マリナート（平成 24（2012）年） 東大阪市文化創造館（令和元（2019）年）
市街地 再開発事業	北九州芸術劇場（平成 15（2003）年） 岡山芸術創造劇場（令和 5（2023）年）

(3) 建設費と平米単価について

【現在整備中又は計画中の類似施設の建設費及び㎡単価】

年度	施設名／施設概要	㎡単価 (税込み)
令和4 (2022)年 (工事契約時)	【従来手法】丸亀市（仮称）みんなの劇場（香川県丸亀市） 延床面積：12,599.82 ㎡ 総工費：13,067,098 千円（税込み） （※令和7（2025）年2月時点総工費：14,868,790 千円（税込み）／工期延長及び物価インフレスライドによる増額） 【施設規模】大ホール約1,300 席／小ホール約350 席／練習室／講座室／マルチスペースなど	103.7 万円 (※118.0 万円)
令和6 (2024)年 (工事落札時)	【従来手法】新唐津市民会館（仮称）（佐賀県唐津市） 延床面積：7,244.68 ㎡ 総工費：10,278,400 千円（税込み） 【施設規模】大ホール約830 席／小ホール（約140 ㎡）／活動室／曳山展示場／展示ギャラリーなど	141.8 万円
令和6 (2024)年 (設計者選定プロポーザル時)	【従来手法】（仮称）国際センター駅北地区複合施設（宮城県仙台市） 延床面積：約32,000 ㎡ 概算工事費：33,600,000 千円（税込み） （令和6（2024）年5月設計業務委託発注図書より） 【施設規模（予定）】 大ホール2,000 席／小ホール350 席／リハーサル室／練習室／製作工房／ワークショップゾーン／展示スペースなど	105.0 万円 (計画中)
令和6～7 (2024～2025)年 (工事落札時)	【従来手法】宮城県民会館及び宮城県民間非営利活動プラザ複合施設（宮城県） 延床面積：31,996 ㎡ 概算工事費：49,597,372 千円（税込み）※落札価格より 【施設規模（予定）】 大ホール2,200 席／スタジオシアター600 席／スタジオ300 席、ギャラリー1,600 ㎡／ギャラリー2,500 ㎡／練習室／会議室／和室／交流サロンなど	155.0 万円
令和7 (2025)年 (公募型プロポーザル時)	【設計・施工一括発注方式（DB）＋管理運営】徳島県藍場浜公園西エリア・新ホール整備（徳島県） 延床面積：12,000 ㎡ 建設工事費：16,200,000 千円（税込み） ※地下駐車場解体等の関連工事に要する費用を含む 【施設規模（予定）】 大ホール1,500 席／リハーサル室／スタジオなど ※入札不調のため公募中止 再公募中（令和7（2025）年10月現在）	135.0 万円 (計画中)

（４）県民ホール整備費における平米単価の見込み

ここ近年の物価上昇や働き方改革による人件費の高まりを受けて、建設費は急激に高騰しており、公共事業の入札不調事例が出てきている。

令和５（２０２３）年度に実施した予備調査では平米単価 １２０ 万円／㎡（税抜き）、税込みにすると １３２ 万円／㎡で計算していた。建設費は令和 ７（２０２５）年現在も上昇傾向にあることから、着工が数年後になる県民ホールの工事において、ここでは平米単価 １３２ 万円／㎡から １５５ 万円／㎡（税込み）を見込んで建設費を試算する。

（５）建設費試算

延床面積は、現在の県民ホールの ２８,５００ ㎡から最大で ３４,０５０ ㎡程度を見込む。また、平米単価は、１３２ 万円／㎡から １５５ 万円／㎡を見込んで建設費を算出すると、建設費は ３７６.２ 億円から ５２７.８ 億円程度になる。

（６）建設費以外にかかる整備費について

建設費の他、以下の費用が必要となる。

項目	内容
設計費・工事監理費	建物の設計図作成にかかる費用（設計費）や、工事及び設計の進捗を確認する費用（現場監理費）
外構工事費	建物本体以外の敷地内の工事費用。駐車場、植栽、塀、フェンス、門扉、アプローチ、給排水管の引き込みなど
付帯工事費	既存建物の解体・撤去費用など
備品・什器費	新しい建物で使用する家具、事務機器、備品などの購入費用など
調査・申請費用	地盤調査費用、測量費用、各種法的手続きの申請手数料、建築確認申請費用など
税金・保険料	不動産取得税（土地・建物）、建設工事保険料など

4 関係法令の規制

(1) 敷地概要

県民ホールの再整備にあたり、現在の敷地で建替えすることを想定している。敷地の概要は次のとおり。

住居表示	神奈川県横浜市中区山下町 3-1
敷地面積	10,946.33 m ²
都市計画区域	市街化区域
用途地域	商業地域
防火地域	防火地域
指定建ぺい率	80%
指定容積率	600%
高さ制限	第7種高度地区 高さは最大31mまでとなる。ただし、一定の公開空地の確保等の条件を満たした上で、高さ制限の緩和が可能であると規定されている。
日影規制	なし
外壁後退	北側道路：3m、東・西側道路：0.5m（地区計画による）
風致地区	なし
その他の指定	地区計画、土地造成等工事規制区域、駐車場条例（商業地域）、建築物再生可能エネルギー利用促進区域、景観計画（景観推進地区）
道路	（北側）法第42条第1項第1号道路 幅員24.00m （東側）法第42条第1項第2号道路 幅員8.05m （西側）法第42条第1項第2号道路 幅員10.07m （南側）法第42条第1項第2号道路 幅員12.25m

(2) 関係法令等

県民ホールの再整備にあたり、関係する法令を整理する。これらの関係法令等を遵守した上で、基本理念、基本方針、運営方針の実現を目指し、安全性、利便性、社会的包摂、デザイン性などの様々な要素の最適なバランスを検討し、公共施設としての質を高めていく。

- ・ 興行場法施行条例及び施行規則
- ・ 神奈川県建築条例及び施行規則
- ・ 横浜市建築基準条例及び施行規則
- ・ 横浜市福祉のまちづくり条例及び施行規則
- ・ 消防法
- ・ 横浜市火災予防条例及び施行規則 等

第7章 期待できる県民生活への効果

1 県民の文化芸術活動への効果

(1) 県民の文化芸術活動の場となる

ホール1やギャラリーは、国内外の優れた文化芸術団体やアーティスト等が利用したいと思う施設となることで、県民がその優れた作品に触れる機会を生み出す。また、そこでの体験が憧れや夢を育み、県民の文化芸術活動が活性化する効果が期待できる。

ホール2やギャラリーを中心に、県民の文化芸術団体等が日頃の成果を発表できる場を安定的に確保する。そして、専門性の高い職員が利用者を支援することで、県民ホールならではの高度な演出や技術を取り入れた発表体験を得ることができ、今後の文化芸術活動のモチベーションの向上や自己実現のきっかけを創出する。

(2) プロの芸術家等との協働、共演の場となる

自主事業における作品制作や発表の過程で、県民が参加することで、プロの芸術家等と直接交流、協働し共演する機会を創出する。これにより、積極的に文化芸術活動に取り組む県民の生きがいや創造性を育み、将来の文化芸術を担う人材の活動を支援する。

2 地域や暮らしへの効果

(1) 地域ブランドの向上と愛着や誇りの醸成

新県民ホールが魅力的な文化芸術の発信拠点となり、国内外の優れた芸術文化団体やアーティスト等が集まり、県民がその公演や作品を鑑賞するために集まり、この施設が多くの人々に愛されていくことで、神奈川県地域ブランドの向上に寄与することができる。まちの魅力が向上することで、国内外からの人や企業が集まり、地域の活性化に繋がり、新県民ホール及び地域に対する県民の愛着や誇りの醸成に繋がっていく。

(2) 地域全体における文化芸術の持続的発展

新県民ホールは、国内外の団体等との連携拠点になることを目指す。県内における文化芸術団体や文化施設を繋ぎ、文化施設の維持管理、運営、作品の創造におけるノウハウ等を共有することで、専門的な技術等を身につけるための支援、専門人材による人的交流等を継続的に推進し、県内全体での文化芸術の持続的発展に寄与することができる。

(3) にぎわいの創出と周辺地域の活性化

県民ホールへの来場者は、チケット代以外に、交通費、飲食費、宿泊費、買い物代などを周辺地域内で消費するため、連鎖的な経済効果を生み出す。また、オープンスペースにおいて飲

食を含む交流機能を充実することで、文化芸術の鑑賞目的の来場者だけでなく、国内外の観光客も訪れるようになり、施設周辺だけでなく、地域全体に活気と賑わいをもたらす。

3 共生社会への効果

(1) 多様な価値観への理解の促進

新県民ホールでは、年齢、障がいの有無、国籍、文化的な背景等に関わらず様々な人々が集い、交流する場となることで、多様な人々が同じ空間、同じ時間を共有し、共に芸術作品を鑑賞したり、創造活動に参加したりできる文化芸術の広場を目指す。

この広場での活動を通じて、日常生活では関わりや接点が無かった人々との交流が生まれ、多様な人々が互いを認め合い、様々な人がいることが普通のこととして捉えられるようになる。県民一人ひとりの多様な価値観への理解と共感が深まることで、偏見や差別のない共生社会の形成に貢献する。

(2) 誰もが活躍できる「居場所」と「生きがい」の創出

アクセシビリティに配慮した施設や事業、県民参加型の事業を通じて、これまで文化芸術活動が行えなかった人々に活躍の場を創出する。障がいのある方、高齢者、子育て世帯、外国人など、あらゆる人々が自分らしくいられる「居場所」となり、社会や様々な人と繋がることのできる交流の場となり、生活に生きがいと喜びが生まれるなど、社会的な孤立の解消に繋がる場となることが期待される。

(3) 雇用の創出

障がいのある方、高齢者、子育て世帯、外国人など、多様な県民の雇用の場や関わる機会などを創出することで、共生社会のモデルとなることを目指す。

4 経済波及効果

経済波及効果は、新県民ホールでの様々な活動から生まれる直接的及び間接的な経済的恩恵を指す。具体的には、ホールの事業によって生じる直接的な消費はもちろんのこと、来場者が周辺の交通機関や飲食店、宿泊施設等を利用することによる近隣地域への波及効果、さらには県域を超えた広範な経済活動の活性化も含まれる。

経済波及効果は、文化施設の社会的価値を支える重要な要素の一つであり、文化活動を通じて人の移動や交流を生み、地域に経済循環をもたらすことで、施設の持続的かつ安定的な運営基盤の形成に繋がる。

(ここに最新の神奈川県経済波及効果分析ツールにより算出した結果を掲載する予定)

第8章 その他

1（仮）収支見込（概算）

収支見込は、施設や運営に関する詳細が定まっていない基本構想の段階で算出することは困難だが、おおよその規模を参考として把握するために、現時点の仮の収支見込として次のとおり算出する。

施設の延べ床面積は、建設費試算における最大の場合 34,050 m²（建設費 527.8 億円）を想定し、現行から約 1.2 倍（28,500 m²→34,050 m²）になると仮定した。また、国内企業物価指数が令和 7（2025）年 1 月時点で 25.3%増（対令和 2（2020）年平均）、消費者物価指数が令和 7（2025）年 1 月時点で 11.2%増（対令和 2（2020）年平均）となっていることを参考とする。

まず、貸館収入については、大ホール（2,400 席想定）及び中ホール（800 席想定）共に貸館利用を 7 割、自主事業利用を 3 割、席単価を同規模施設と同等額と仮定した。

ギャラリー（1,200 m²）と練習室（270 m²×複数室、135 m²×複数室）は、m²当たりの単価を同規模施設と同等額と仮定した。

次に、支出について、施設維持管理業務は、延床面積の増分と、国内企業物価指数の増分を考慮するほか、自主事業にかかる支出は国内企業物価指数の増分を考慮した。

【（仮）収支見込（概算）】※仮の試算であり、規模等を含め今後検討することとなる。

項目		R3～6年 実績平均	収支想定	増減	
収入	貸館業務等	2.69 億円	4.55 億円	69.1%	席単価等の見直しと物価上昇を考慮し約70%増と仮定
	自主事業 （チケット収入等）	0.67 億円	0.8 億円	19.4%	物価上昇を考慮し約20%増と仮定
	県負担（指定管理料収入等）	6.26 億円	7.95 億円	27.0%	
	補助金・寄付金等	0.3 億円	0.3 億円	0.0%	
	その他	0.31 億円	0.31 億円	0.0%	
収入合計		10.23 億円	13.91 億円	36.0%	
支出	施設維持管理業務	8.32 億円	11.64 億円	39.9%	施設規模の増加割合と物価上昇を考慮し約40%増と仮定
	自主事業	1.81 億円	2.17 億円	19.9%	物価上昇を考慮し約20%増と仮定
	その他	0.06 億円	0.06 億円	0.0%	
	繰越金等	0.04 億円	0.04 億円	0.0%	
支出合計		10.23 億円	13.91 億円	36.0%	

上記はあくまでも仮定の条件に基づいた仮の試算であり、今後、新県民ホールが持つ社会的意義と県の財政負担について考慮しつつ、自主財源の多様化と効率的運営を推進するなど、公費と自主財源のバランスが最適化された持続可能な運営体制の構築を目指し検討していく。

2 新県民ホール再開までの県民の鑑賞機会の確保

令和7（2025）年3月に県民ホールが休館したことを受けて、休館中の県民の文化芸術の鑑賞機会を確保するため、県内各地の文化施設やスペースなどと協働し、これまで県民ホールで実施してきたオペラやバレエ、クラシック等の公演、企画展、各種セミナーなどの様々な企画や、地域と共同で制作する作品などを実施していく。

県内の各地域で実施することで、これまで障がいなど様々な理由で長距離の移動が難しく、県民ホールまで来ることができなかった方にも、身近な地域で文化芸術に触れる機会を増やしていく。また、実施する市町村や文化施設、文化芸術団体とのノウハウの共有やネットワークの構築を行い、新県民ホールが再開した時に、地域の「連携拠点」となるための基盤を構築していく。

3 今後の進め方・スケジュール等

今後のスケジュールは、選定する整備手法によって変わってくるが、一般的には、基本構想策定後は、基本計画、設計者選定、基本設計、実施設計、除却工事、建設工事を行い、開館準備を経て開館となる。

新県民ホールの再整備に当たって、基本理念、基本方針及び運営方針の実現、早期の再開、横浜市のまちづくりとの整合性などを総合的に考慮しながら、また、県民の皆様のご意見を引き続きお伺いしながら、最も適した手法を検討し、開館に向けて再整備事業を進めていく。

別紙 1

1 ハイスクール議会での答弁概要

■実施日：2025（令和7）年8月18日

■テーマ：新しい県民ホールについて

■質問：

- 新たな県民ホールにおいて、総合計画にもある通り「誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくり」を目指すにあたって、若者しいては、高校生の知名度及び利用率の向上に関して、知事の現状の見解と今後の対策方針について伺いたい。

■回答：

- 新たな県民ホールが、より多くの方に利用していただき、県民の皆様にも愛される施設になるためには、今後何十年にもわたって利用していくこととなる若い世代の方々を使いやすく、足を運んでいただけるような施設にしていく必要がある。
- そこで、現在、「みんなでつくる県民ホールアイデアコンテスト」等の機会を通じて、新たな県民ホールのアイデアを広く募集しているので、高校生の皆さんにも是非ご意見をいただきたいと思う。
- また、来月3日に実施する予定の「当事者とのオンライン対話」において、吹奏楽部に所属する高校生や声楽を学ぶ大学生、若手バイオリニストなどの若い世代の方々と「新県民ホールに期待すること」をテーマに、私が直接、意見交換をする予定となっている。
- さらに、高校生にも、新たな県民ホールに興味を持っていただけるよう、SNSなど若い世代に訴求力のある媒体も活用し、建替え後の施設やそこで実施する事業の魅力について積極的に広報していく。
- こうした取組を通じて、若い世代の方にも数多く来ていただける魅力ある文化芸術の拠点にしていきたいと考えている。

2 オンライン対話における意見

■実施日：2025（令和7）年9月3日

■参加者：知事、バイオリニスト（橘和美優氏）、バレエダンサー（吉川文菜氏）、東京藝術大学声楽科（大泉結葵氏）、県立港北高等学校吹奏楽部3年（鈴木太智氏）、美術家（平田守氏）、オペラ演出家、演出助手/建築史研究者（吉野良祐氏）

■テーマ：新県民ホールに期待すること

■意見：

- 演奏家としてホールに立つ上で、アンサンブルなど他の人と演奏する時に一緒に音を作りやすい響きがあるとよい。
- 吹奏楽の合奏として演奏していると、すごくまとまって演者側からも聞こえるため演奏しやすいホールという印象がある。
- 何かに特化するのではなく、みんなが使えるものがよい。近くに神奈川芸術劇場もあり、みなとみらいホールもあるという、色々なものを専門にした場所があるので、県民ホール

は、そういったものの真ん中にターミナルみたいな感じで色々なものが集まる場所があつてよい。

- 今までの県民ホールでも、ある時はオーケストラやバレエをやったり、海外から来たオペラをやったと思ったら、次の週は演歌ショーをやったりする。そういう意味で多様な出し物によって来る人が色々な形で来るという、結果的にはみんなの私にとっての県民ホールっていうようになってくる。(知事)
- 海外のお客様にも楽しんでもらえるような劇場にしていってほしい。
- Kアリーナはスピーカーなど音響技術の部分でのフォローがかなりあるのではないかと。Kアリーナのような大規模なほうが興行的には良い部分があるのかもしれないが、県民ホールにとっての適切なサイズを模索することも重要ではないかと思う。
- 県民ホールの美術展示スペースは、公共空間として大きな作品を展示することができ、かつその作品が映える空間となっていたので、美術家にとっては非常にメリットがある。大きな作品を展示できる空間については維持してほしいと思う。
- 県民ホールでは、様々な演目が上演されていたが、ぜひ、全幕のバレエをもっと上演してほしい。舞台の大きさと客席の広さの両方がとても大切になると思う。
- 公演の中には、上演時間の短く、観客数を絞ったような公演があるため、キャパの大きい大ホールだけでなく、小ホールのような小さな会場も併設すれば、四重奏や個人のリサイタルもでき、ニーズ別のお客様も満足すると思う。
- 新しい県民ホールはエンターテインメントと芸術の架け橋になればよいと思っている。今までの県民ホールではポップスの上演とクラシックの上演と両方やっているのがとても魅力的なので、現在大きく開いているエンターテインメントとアートの溝を埋められるのではないかと考えている。
- より魅力的な主催事業を制作できるホールになってほしい。貸館も重要だが、ホールが主体となって挑戦的なプロジェクトを進めて、多くの人がつながれる拠点になっていくとよい。
- 商業的に成功することも大事だが、オペラ、バレエなど商業的な成功という点では困難を抱える分野もあるので、公共劇場じゃないとできない文化芸術の事業を、責任をもってやっていくことが重要と思っている。
- 吹奏楽コンクールでの動線で、移動に使用する階段が狭かったり、楽器を搬入するエレベーターの近くに段差があるせいで接触があったり、トラックの搬入場所が外にあり、夏だと暑すぎるなど、心配な場面があるので、様々な場面に対応できるようにしていただけるとありがたい。
- ギャラリースペースに対しては、大きく真っ白な白壁があると絵画にしても彫刻にしても映えると思う。ピクチャーレールからワイヤーを吊るして展示するのが一般的だが、パブリック空間でも壁に直接釘打ちとかができるとうよい。また、映像表現ができるような何もない空間もとても重要。県民ホールで展示をやったことによって箔がつくといったことが美術家にとっては大事だったりする。そのため、伝統性は残した上で、新しくするのがよい。
- 海外では、劇場そのものを見に行きたいという、そんな劇場もあるわけだから、観光スポットにもなるような要素も必要。(知事)

- 大容量の電源を設置し、色々な仕掛けをやっても、照明や音響でどんなにやっても対応できるといったことも必要。(知事)

3 ヒアリングの実施

(1) 神奈川県吹奏楽連盟ヒアリング

■実施日：2025（令和7）年7月17日

- 中学校や高等学校の定期演奏会、大学や一般団体のコンサート、吹奏楽コンクール（横浜市、神奈川県、東関東、全日本）の会場として利用され、「吹奏楽発祥の地・横浜」にふさわしい、発表の場としても憧れのステージだった。
- 音響の良さが重要。大ホールの舞台スペースは現状維持、座席数も是非現状を維持してほしい。(座席にゆとりを持たせるなどの理由で減らさないでほしい)
- 出演者に車椅子利用者が増えているのでバリアフリー対応を希望する。
- 廊下の拡張、エレベーター、土足で入れるリハーサル室、様々な広さの楽屋でホールの映像、音声が視聴できる環境、楽屋近くや各階ロビーへのコインロッカー、適切なトイレ計画、50人程度の会議室、館内の段差の解消とフリーWi-Fiを希望。ロビーからの眺望は大切にしてほしい。ホワイエのラウンジは吹奏楽コンクールでは使わない。客室内での携帯電話の通信抑制装置を希望する。
- コンクールでは、多数の学生団体が10～20分刻みでトラックから大型楽器等の搬出入を行っている。雨天でも濡れない、直接舞台袖に搬入できる、または、一度に大量の楽器等を舞台袖に搬入できる大型リフトの設置。演奏中でも搬入できる静穏性を考慮して、専用の搬出入口を設置してほしい。
- 2年程度前から特例申請できるとありがたい。公的施設として優しい利用料金設定、駐車場料金に上限設定を希望。(スペースの関係でバスやトラックについては、時間まで回送してもらうことはやむを得ないと思う)
- 一日も早い再建対策を希望する。

(2) 神奈川県高等学校文化連盟へのヒアリング

■実施日：2025（令和7）年7月18日

- 神奈川県高等学校総合文化祭、神奈川県高等学校美術展（以下「高美展」という。）の会場として神奈川県民ホールギャラリーを永きにわたり利用してきた。
- 横浜市中心部に代替できる展示施設は無い。
- 高美展は県内で開催される高校生の美術展として最大規模の展覧会であり、教育的公益性も高い。展覧会開催に当たり、県民ホールギャラリーは立地・展示空間（展示面積・展示壁面長）ともに最適な会場であった。
- （参考）第71回神奈川県高等学校美術展（R6.12.2～8）
参加校数：98校、出品作品数：884作品、観覧者数：1544名

- 建替えにあたり、従前の規模や機能などが継承されず、横浜市民ギャラリー移転時の例のようにスペックダウンすることを懸念している。
- 少なくとも、従前の展示空間（展示面積・展示壁面長）を継承した上で、内装・照明・天井の高さ・壁面までの引きなど仕様を適切に改善されることを期待する。
- 再建後、これまでと同様に総合文化祭・高美展の会場として利用したい。
- 新県民ホールにギャラリーが再建されない、もしくは従前より明らかに縮小される場合、代替の施設（従前と同等の県立の展示スペース）の建設を望む。

（３）一般社団法人神奈川県知的障害施設団体連合会へのヒアリング

■実施日：2025（令和７）年８月１日実施

- 知的障がい者の雇用を創出してほしい。神奈川県立生命の星・地球博物館とかながわ県民活動サポートセンターなどでは「ともしびショップ」を運営できている。しかし、金銭的補助が無い場合、人件費・光熱水費等のランニングコスト確保が難しいため運営が厳しくなる。喫茶とグッズの販売ができる。事業としては就労継続支援Ｂ型であり、必要経費を引いた売り上げは原則として利用者の給料となる。２万円以上の給料を支払えることが運営上望ましい。給料の額が増えるに比例して報酬額が高くなる。
- 観劇等は、知的障がい者だけのイベントを実施すれば気兼ねなく鑑賞できますが、防音ルーム（ファミリールーム）があれば、健常者と同じ公演を鑑賞することができて使い勝手がよい。家族の方も周りに気を使わずに観劇を楽しめる。
- 音や人込みに敏感な方、行列に並べない方もいるため、入口や駐車場の動線が別経路になっていると入り易いと思う。アナウンスや演劇のセリフなどは掲示板（字幕）があると聞き取れない場合でもわかりやすい。または、色々な最新技術で便利なものが出てくるかもしれない。
- 劇場に行けない方でも施設の中で楽しめるように、ライブビューイングのような配信などができると良い。
- 車椅子席は、いつも前方か端の方に設置されている。当事者にとって見やすいかは分からない。
- 美術は、知的障がい者の方の活躍が目覚ましい分野。ギャラリーがあると、発表の場所が増えてうれしい。ロビーで期間限定の展示をしたり、ロビーの一角でライブで絵を描いているところを見てもらったりもできると思う。ただ、そういう場所を障がい者で独占するのではなく、利用者の中で平等に利用できるのがよい。
- 他の文化活動としては、ダンスが好きな方は多い。また、歌うことも好きな人が多い。知的障がい者と職員でバンド活動などしている人もいる。気軽に出演できるようなイベントがあるとよい。
- 避難機能については、個室があると助かる。

(4) 神奈川県合唱連盟ヒアリング

■実施日：2025（令和7）年8月6日

- オペラ公演の役割が重要。1987年10月ベルリン・ドイツ・オペラの引っ越し公演によるワーグナー作曲の「ニーベルングの指環」日本全曲初演が、日本のオペラ界において、特筆に値する。
- その他、次の公演は、全国でも珍しいオペラの専門家の職員と県民とともに築き上げた、日本の音楽界の歴史に残る、素晴らしい成果だと思う。
 - ・ 2002年10月、三善晃作曲のオペラ支倉常長「遠い帆」
 - ・ びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作オペラによる県民合唱団員とともに創り上げるスペクタクルな舞台
 - 2010年3月、ジャコモ・プッチーニ作曲の「ラ・ボエーム」
 - 2011年3月、ジュゼッペ・ヴェルディ作曲の「アイーダ」＜震災の影響で中止
 - ・ 2015年12月、黛敏郎作曲、三島由紀夫原作の「金閣寺」
- オーケストラと公募による県民合唱団の公演活動（周年記念事業等）は、神奈川県音楽史に残る、素晴らしい取組だった。
 - ・ 2005年1月、團伊玖磨作曲の合唱とオーケストラのための組曲「筑紫讃歌」
 - ・ 2007年3月、ベンジャミン・ブリテン作曲の「戦争レクイエム」
 - ・ 2010年6月、カール・オルフ作曲の「カルミナ・ブラーナ」
 - ・ 2014年10月、マーラー作曲の交響曲第8番「千人の交響曲」
- 上記のように、定期的に県民合唱団を組織し公演を続けてきたことは、神奈川の合唱文化の向上に、深く寄与されたと思う。
- バレエ公演も、日本の舞台芸術界に大きな影響を与えてきた。
- 小ホールのパイプオルガンも、神奈川にとって自慢できるものだった。
- ミュージカル・演劇に特化してKAATがあるように、「オペラ」「オーケストラ付き合唱」「バレエ公演」といった総合舞台芸術のためのホールを建設してほしい。
- 県民ホールのロケーションは抜群であり、歴史文化の面でも優れた地である神奈川県から真の芸術と神奈川の歴史伝統を世界に発信できるような、最高のホールと評価してもらえるような特徴あるホールを期待する。
- 数多くの楽屋、広い舞台裏、教会の響きを彷彿とさせるような音響効果、パイプオルガンの設置、エレベーターやエスカレーターの設置など、ご検討いただきたい。
- 100周年に向けて、神奈川から最先端の文化と上質な芸術を発信できる環境を作り上げることが大切である。設備のみならず、人的措置も重要であり、それらを神奈川県民に還元してゆくことが、文化発展における最重要課題だと考える。

(5) バレエ団ヒアリング

■実施日：2025（令和7）年8月10日

- 民間が劇場を作るのは難しい。足りないのはオペラ・バレエ公演ができる劇場。県民ホールが休館し、東京文化会館も改修に入ると、オペラ・バレエ公演ができる場所がなくなる。
- 様々な機能を詰め込みすぎず、大ホールを主として考えてほしい。もし、サブホールを作るのであれば、大ホールとの複合的な使用の可能性を考慮してほしい。また、ギャラリーは別の敷地に持っていけば良いのではないかな。
- 横浜市のまちづくりと調整しながら再整備を進めるとのことだが、そのせいでホールの再開が遅れるのは避けてほしい。
- オペラ・バレエができる劇場にするには次のような諸条件を踏まえることが必要。
 - ・ 搬入口と舞台を同一レベルにすること。
 - ・ 主舞台エリアに匹敵する、転換や格納に使用可能な舞台エリア。
 - ・ 舞台の主要エリアと同等の広さのリハーサル室。
 - ・ 重量物の設置を考慮した吊物バトンやスノコの作業性の向上。
 - ・ 舞台機構はシンプルで自由度が高い構造にすること。
 - ・ 搬入口から舞台、楽屋、リハーサル室等へのアクセスが容易であること。楽屋エリアが複数層に渡る場合は、衣裳資材等を移動できるエレベーターの設置。
 - ・ 搬入口は少なくとも大型トラック 2 台が同時使用できること。できれば 40 フィートコンテナ（ハイルーフ）を搬入口につけられること。
- オペラやバレエで劇場を使用する場合、まとまった期間借りる必要がある。公立ホールだと学校行事などで借りられない場合があるので、別の運用を検討してほしい。
- 労働基準法の改正により、深夜に作業をするということができなくなり、より日数が必要になっている。午前、午後、夜間という貸出枠でなく、時間単位など検討してほしい。
- オケピ・客席だけを舞台を利用する団体とは別の団体に貸すなど、空間的なシェアも考えられる。（緞帳を下ろして、前舞台だけを別団体に利用していただくなど）
- 頓挫した横浜市の新劇場計画の情報を、神奈川県と共有してほしい。

（6）舞台監督ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月14日

- 県民ホールは舞台床が集成材で釘打ち禁止になっているので自由度が低い。袖は合板にして、張り替えられるようにすればよい。
- バルコニー席（複層階の席）はどこの劇場でもあるが舞台の全域を見渡すことはできない。設計時には客席から舞台がどの程度見えればよいかという検討基準があるが、2,000席で全席見切れがない席を作るというのは難しい。見切れがあったり手すり邪魔になったりする場合は、最初からチケット代を安く設定するなどの対策がある。
- 舞台及び客席の空調をどうするかも大きな問題。大体は客席と舞台で2つに分ける。新国立劇場はオーケストラピットにも個別の空調設備があり便利。オーケストラピットで一番問題なのは湿度。60%を超えると音の響きに影響がありNGなので、50%まで下げるために除湿空調を行うと客席が寒くなりすぎる。夏は観客自体が湿気を持ってくる。

空調は建築時に考えないと後から変えられない。また、スモークも今は4種類くらい(の液剤)を使っているが、空調と湿気によって煙が上がっていかないことがある。

- オーケストラピットは何㎡とれるか。常設の脇花道を作らなければ、オーケストラピットを広くとることができる。びわ湖ホールが75㎡程度だったと思うが、ワーグナーなど大型のものをやる時は狭い。新国立劇場は140㎡。80㎡あれば二管編成が入る。ただしオーケストラ迫への乗込階段があると演奏面として使える面積が狭くなる。
- 譜面が今からはみんなタブレットになってきている。タブレットになるならば譜面灯はいらなくなる。そうすると今より電源は少なくてよくなるかもしれない。ただし、タブレットの輝度調整が必要になる可能性がある。
- 各座席に字幕用のタブレットがあると画期的だと思う。
- 映像の機械はどんどん新しくなっていく。高価なプロジェクターを劇場が持っていたとしても、業者をいれなければ使えないのであれば意味がない。貸館は持ち込みでよい。
- 舞台機構は躯体にかかる重量が違うので、巻取り式がよい。
- 舞台の床面は黒くしておいたほうがよい。舞台床を白くしたいのであれば、音響反射板の中の床に白い合板を敷いたほうが効率的。
- 舞台の迫りは仮設でもいいが、舞台面に開口部を設けることは必要。兵庫県立芸術文化センターでは道具迫りも舞台の演出迫として使っている。迫りを使うかはわからないが、道具迫や切穴を公演で使うかどうかは演出家が考えること。切穴の位置はセンター、上手、下手の3か所にあるとよい。また後ろにもあれば、そこから登退場することもできるし、そこを使ってできる表現がある。
- 引越し公演しかなければ演出迫は必要ない。なぜなら、その演目に必要な場所に迫りがあるとは限らないから。先方も演出でできること、できないことを考えた上で引越し公演を計画する。
- レポートリー制ではない劇場であればポータルタワーも不要。オペラを上演するにはポータルが必要という考え方はもう古いと思う。今はムービングの灯体があるので照明ブリッジも必要ないかもしれない。もし照明ブリッジを作るならば、取付・取り外しができるものであればよい。
- オペラについて、劇場としてどのレベルのものを創るのか。貸劇場だけならば全部機材は持ち込みで空間があればよい。オペラは入場料では採算が合わないが、兵庫県立芸術文化センターでも劇場の顔としてオペラ事業をやっている。オペラを上演することで全国から人が来るため、それがシティセールスになっている。
- オペラはPAを使わないのが前提だったが、最近はPAをいれることもある。変わってきているのは確か。
- 昔は夜通し仕込みなどをしていたが、今は働き方改革での深夜作業が難しくなっているが、照明スタッフのみ残して深夜作業を行うなどはしている。
- 照明について、ハロゲンからLED、ムービングになる。もうそういう時期が来ている。照明家は考えが古い人が多い。今まで通りの凸レンズでよいと考えている。また演劇の人はムービングは高価というイメージがあるのではないか。照明のあり方も変わってきており、今は前灯りを使わないデザインもでてきている。

- 今は映像を専門に扱う部門がない。照明がやるか音響がやるか。電源を取るのは照明だが、コンピューターは弱電だから音響の担当になる。また、仕込みができる人はいるが、映像を作れる人がいない。
- 新国立劇場は客席につけるタブレットの電源は用意してあるが使っていない。韓国のレストラン劇場は客席字幕がついているが、黒い画面に白字なので明るさの問題は起きていない。これからは客席の字幕が標準設備にならないとダメだと思う。公演や館内レストランの情報や緊急速報も流せる。
- 今は若いスタッフに技術を教える人がいないのが現状。
- 劇場のファンクラブを作ったほうがよい。兵庫県立芸術文化センターの開館時は、ゲネプロへの招待やバックステージツアーなので7万人の情報が集まった。当時は郵送でのDMだったので一世帯で1通にして送料を節約したが、今は電子媒体にして情報が流せるようになった。
- 今は芸術監督という職が形骸化しており、何の役割かわからなくなっている。予算があるのか人事権があるのか。芸術監督の職能の範囲を明確にすることが大事。

(7) 公益財団法人横浜市観光協会ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月15日

- アーティストのコンサートを実施している場所なので、観光地としての認識はなく、周辺地域への波及効果について、県民ホールにダイレクトに向かいそのまま帰るイメージなので特に地域と連携しているイメージはない。
- 2,000人規模の会場は少なく他の会場と棲み分け出来ていると思う。価格帯も他の施設と違って利用しやすいが、MICE（国際会議）の会場として利用日の3～4年前に予約しようとしたが、予約できなかったことが何度かあった。国際会議だと利用の3～4年前から動き出す必要がある。
- 800～1,000規模のホールも需要はあると思うが、1,000規模だと価格帯は異なるがパシフィコがある。学会利用の方に聞かれた際は、産貿ホール“マリネリア”や“ワークピア”などを紹介している。
- 山下公園通りは有力コンテンツだが、公園なのでお金は落ちない。そのような中でカフェがあると滞在時間も伸び、お金が落ちると思う。英一番館は一面ガラス張りでそこからの景色がとてもよかった。ユニークベニューとしてこのロケーションを生かしたパーティー等を組むことができるとよい。昼はレストラン、夜は団体利用ができるとよい。
- 屋上庭園などがあり、そこで何かできればよい。外に喫茶店のテラス席を用意すると外国人も来やすいと思う。夜もやってくれるとありがたい。
- キッチンカーを呼んだりイベントスペースとして利用できるのであれば、広場的空間はあった方がよい。
- 興行主が広報を行う際に、周辺ホテルを紹介すれば、街とつながってくると思う。

- 訪日外国人が来たいと思う施設としては、外国語対応は必要。M I C Eで来訪している外国人は1週間くらい滞在するので、インターネットや現地で当日でも簡単に予約できるようになっていると、案内しやすい。
- 観光協会が運営している観光サイトがあるのでそこでも紹介できる。バックヤードツアーをやっていただくとツアーとして紹介しやすい。海外の音楽堂だと最後にミニコンサートつけるなどがある。
- 在住外国人の場合、求められるものは日本人とあまり変わらないかもしれない。言葉の障壁があるので多言語対応は必要だと思う。
- 今横浜に一番訪れているのはアメリカ・中国が多く、全体の半分を占める。次いで台湾・韓国。当協会のホームページは、英語が一番閲覧されている。次いで繁体字。中国は自国のサイトで検索することが多いので、SNS（W e i b o）での広報に力を入れている。

（８）公益財団法人東京二期会ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月15日

- 昨今の改修や建替え等によりオペラ公演を行うことができる劇場が少なくなっている。
- 県民ホールとは、2008年から9年間、びわ湖ホールを含めた共同制作で一緒にオペラ公演を行っていた。また、札幌文化芸術劇場 hitaru のこけら落としでも共同制作を行った。他にも、県民ホールの買取公演としてオペラ公演を行ったことがある。
- 座席数は、ポピュラーな演目も行うことを前提とすれば2,500席、少なくとも2,300席程度あるとよい。オペラを上演するならば2,000席以上は興行をするために必要で、P Aを入れる公演もあるが、生の歌声を客席に届けるオペラ公演には2,500席が限界と思われる。
- 立見席（座席付き）を設けるのは選択肢として検討できるかもしれない。音は上にいくので上階でも聴こえる。ウィーンで立見が成立しているのは、正面の抜群に見える場所や、オーケストラピットが見える席（2，3階）が立見席となっているから。利用者は、安いから立見を選択する人だけでなく、その席から観たいから立見という方法を選択しているのだとも思われる。
- 国立劇場の建替えが終われば、次に新国立劇場が改修に入るかもしれない。その時にオペラが実施できる場所として神奈川県民ホールが開館していると非常に有効だと思う。新国立劇場の改修と県民ホールのオープン時期を合わせていただけるとありがたい。
- 海外と協働する公演では、コンテナで運んでくることがあるので、直にハイキューブのコンテナごと搬出入できるとよい。
- コンサートを行うための音響反響板は必要。
- 東京文化会館が重用されているのは音響がよいから。2,300席あるが5階席でもオーケストラも含めよいバランスで聴こえる。新しい県民ホールも音響が素晴らしいものになれば、敢えて使いたいということになる。

- 連日入れ替え制でレパートリー公演を行う場合は4面舞台が必要になるが、そうでなければ4面舞台は不要。本舞台は現在の大きさで、上手か下手どちらかに本舞台と同じ大きさの舞台袖があるとよい。オペラとコンサートを同時期にやる場合に、舞台セットをそのまま袖舞台に逃がすことができる。また、奥舞台からのリアプロジェクションはできたほうがよい。
- 迫りはあまり使わないが、全くないと例えば舞台上のものを消す、階段を下りていくなどの演出ができなくなるので、どこかにはあった方がよい。
- 楽屋は増やした方がよい。大きなものよりは室数がほしい。出演者が集中しコンディショニングを整えるための空間が必要。数がないと主要な役同士が同じ部屋になってしまう。
- 小ホールは、歌手のリサイタルでの需要はあるかもしれない。東京文化会館の小ホールの席数（約650席）と音響は、リサイタルにちょうどよい。また東京文化会館自体が主催公演でも使っている。
- 近年映像技術は発達しているが、オペラは映像だけで上演するということはないだろう。また映像製作費も高い。映像と実際の美術を組み合わせる表現になる。特にオペラは歌手の声を反射させたいので舞台美術が必要。プロジェクターなど機材の発展が日進月歩なので持ち込みを想定してよい。
- バリアフリーについて、エレベーターがあり、入口から客席まで車椅子で移動できるのが理想。ヒアリングループなどの設備は、劇団で準備するのは大変なので、劇場側で備えてあるとよい。海外では座席で字幕がみられるタブレットがあるが、それは複数の言語に対応する必要があるため。
- 「そこに行けば劇場で何が行われるか分かりチケットが買える」場所があるとよい。主催事業、貸館公演の区別なく広報し劇場を盛り立てていければよい。
- 劇場に入ったときに素敵な空間だ、と感じられるホワイエ（ロビー）があるとよい。

（9）公益財団法人神奈川芸術文化財団ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月15日

※ 第4回委員会の資料2を受けてのご意見

- ホール2をアートの展示と共用するのは想像しにくいですが、ギャラリーが実演芸術の会場にもなるということは想像できる。これまで、県民ホールのギャラリーでは演劇やダンス、音楽の公演を一柳芸術総監督の強い意志もあり行ってきた。劇場的な利用に適した設備があったわけではないが、仮設を組み、それを面白がれるコンテンツを行なっていた。
- 新ホールとKAATを一体的な運営で考えたときに、ホール2は、新ホール1やKAATホールでは上演の真価を示せないジャンルや演目に相応しく、それらを補完する施設として大いに機能すると考える。
- ギャラリーで舞台芸術を行う上で足りなかったのは楽屋機能。また、防音は考えた方がよい。特に打楽器系は振動が伝わる。ギャラリーで舞台芸術もする際には、音漏れの問題で小ホールや場合によって会議室まで貸せなかった。さらに、下のギャラリーは照明

が吊れない、電源を取れない、椅子の設置が難しいなどの問題があったり、空調の音が突然鳴ったりするので、音楽をやる時には特に気を遣わねばならなかった。

- 壁はデフォルトを美術ギャラリーとして使うなら白い壁だし、音楽ならばフラッターがおきない壁、演劇が主ならフラッターがおきない黒い壁を選ぶことになるだろうが、いずれの場合でも、様々な用途に変えて使うのは概ね可能だと思う。
- ギャラリーのうち一つは収納型の客席機構を備えることも考えられるし、スチールデッキや平台などで都度必要な段床を組んで客席を作ることも考えられる。都度組み立てるのは手間を考えると不利に感じるが、上演のジャンルにより客席の幅や高さ、位置を合わせて設営を行えるという利点はある。
- ギャラリーの搬入口など共用部は知恵を絞って考えないとならない。会場は別であってもある機能が共有されていたら使えないという場合もある。
- 何よりも物と人のルートをよく考えるべき。KAATは、各施設の楽屋導線が重複していることや倉庫の不足から、楽屋のセキュリティレベルの管理や物品の施設間移動など、煩雑な運営を必要とする劇場になっている。
- 今の県民ホールギャラリーで独立しているのは第1展示室（144.9㎡）だけ。第1展示室だけを借りたいという人は多く需要があった。
- ギャラリーは、本来は展示室毎に独立していた方がよいと思うが、県民ホールの場合、第5展示室の周りに散りばめられて繋がっているのが特徴的であり、それにより色々な現代アートができた部分もあると思う。動線としては、どこかのギャラリーを通過せねばいけなかったが、皆さんそれは承知で借りていた。展示はほぼ無料のものだったので、隣を見る機会があると利点として捉えていた。ただし有料の展示では難しい。また搬入の日程がずれると他の展示中の展示室の中を突っ切って搬入することになり、問題になったこともある。
- ギャラリーはあまり大きいと貸しにくい。利用は必ずしも大きい展示だけではなく、1,000㎡もの展示スペースを使うのは、限られた作家でないと難しい。また簡易壁で区切ったとしても、KAATの中スタジオ及び小スタジオは、一体の施設を簡易壁で隔てて個別に使用できる仕様だが、防音の問題などあり、別々の団体が入ることはほとんどない。個別のスペースを有機的に繋げられる仕様も検討すべき。
- 施設に必ずカフェやレストランが入ると思われるが、今は目的外使用になっており劇場の運営とは別になっている。劇場法制定以降の社会で文化施設を考えたときに、カフェやレストランが切り離されているのは強い違和感があり、劇場施設の一部として運営されるべき。複数あるとすれば、一つのカフェにはギャラリー機能を持たせるのもよいと思う。
- ドアもぎりについて、オープンシアターの時は4か所でドアもぎりにしていた。
- ドアもぎりについては、どこまでをパブリックスペースにするかという問題でもある。位置の工夫により任意にセキュリティエリアの境を設けることで、空間を分けることもできる。イギリスのナショナルシアターでは、パブリックスペースを広く取り、(複数の飲食店、ショップなどを設置することで、)観劇の有無に関係なく常に多くの人々が集う、賑わいの創出につなげている。

- オペレーションと経費の問題がある。KAAT の場合は、20 以上のドアがあり、ドアを開け閉めするオペレーションは意外と大変なので、手前にセキュリティエリアの境を設けている。また、運営の手間の以外にも、ホワイエでの物販をする場合は、セキュリティエリアで区切る必要がある。
- 電子チケットが主流になればドアもぎりが簡単になるが、ドアの数だけ人が要ると思われる、KAAT では現在ホールで案内スタッフが 14 人程度ついているが、ドアもぎりにすると 2 倍の人数が必要になるだろう。
- 運営面では執務室や会議スペースが十分必要。人材の育成・活用の面からも労働環境という趣旨でもスペースを求める。
- 練習室等の一般貸出を想定するなら、同日のプロ利用との動線を分けられるようにしなければならないと考える。

(10) 国立新美術館ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月25日

- 昭和の時代から県民ホールは横浜市民ギャラリーと並んで、若手作家の作品を発表するなど、新しい美術を東京に先駆けて行っていた印象がある。近年は、県民ホールギャラリーの天井高のある空間を上手く活かしたダイナミックな展示を実施していた。
- ギャラリーは、新しい美術の多様な表現も展示できるような、汎用性のあるニュートラルな空間がよいと思う。
- 映像は不可欠になっている。水戸芸術館のように壁の後ろに空間があると、プロジェクターを壁面にかけた時にケーブルなどを収納できスッキリさせることができる。また、重量物を掲示する際にも使い勝手がよい。
- 県民ホールのギャラリーであれば、バレエ衣装の展示やオペラの先進的な舞台装置デザインの展示など、相乗効果が出ると思う。音を出すような作品は、小ホールで関連企画などをすればいいのではないかな。
- これからは、貸館も含め収支バランスも考えるべき。
- 地域活性化の相乗効果を考えないといけない。ただ、横浜の場合は東京からの集客を考えると開館時間を7時ぐらいに遅らせる必要があるため、9時過ぎに公演が終わった時には中華街があまり開いていないと聞いたことがある。
- 公共の文化施設には文化を育てる使命があり、収入につながらないものもやる必要がある。公金がないと運営できない。今後独自財源などを確保していくためには、非営利の公的な活動をよく理解し、経営・収入の確保を戦略的に考えることができるような人材が必要。
- 美術品を借用する場合は、貸す側はファシリティレポートを見て空調や温湿度管理、警備体制などの条件をチェックする。海外では、展示室の消火設備は、人命優先でスプリンクラーが多い。今まで日本はハロゲンガスが多かったが、ギャラリー空間の消火設備については現在の状況をよく調べた方がよい。

- ギャラリーの広さについては、これまでの県民利用の状況を確認した方がよい。150 m²の利用が多いのであれば、300 m²の部屋を二つに区画できるようにすれば良いのではないか。500, 400, 300 m²のギャラリーは状況に応じた活用を検討できる。
- 高さが全てに8m ある必要はないのではないか。8m はかなり高く、照明の設置やメンテナンスも大変になる。部屋ごとに高さは変えても良いのではないか。

(11) 新国立劇場技術部ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月26日

- 新国立劇場と同じような映像セクション持っているのは聞いたことがないが、昨今は公演のジャンルを問わず映像の使用が増えてきたので、これからの劇場やホールは、映像技術を専門的に理解している人がいた方がよいと思う。
- 新国立劇所映像係は元々、収録・編集を行い公演記録映像を作成のための部署だったが、プロジェクションなどの映像送出の業務も大変多く行っている。また、貸館の際、外部の収録業者や送出の映像業者の対応も行っている。映像セクションは、職員4名でまわしているが、映像送出の仕事が増えており足りてはいない。
- 公演記録を作成するための設備である録画編集室は、外部には貸していない。編集機器は古い方式で専門性が高いため、編集の際は委託業者ではなく職員が操作する。
- 主催公演のほぼすべての演目を収録している。
- 舞台において映像の仕事は、プロジェクションなどの映像送出と、収録・配信などがあるが、それぞれ専門性が高いため、場合によっては、担当部署を分けることを考えたほうがよいかもしれない。
- 配信は、後日であれば、編集したものを配信用にデータにして担当部署に渡す。ライブ配信は、配信業者が劇場のインターネット回線を使用して行う。
- 映像モニター設備はSDIなど遅延が少ないシステムにしないと、モニター上の指揮者の動きと音が合わなくなる。
- 新国立劇場では記録用も定点ではなくカット割り(台本作成)している。台本は稽古を見ながら作る。短いオペラで50ページ・500カット。(長いと100ページ・1,000カット)
- 舞台収録は撮影機材にとっては過酷な環境。暗いシーンでも映像がきちんと撮れるような高性能な機材が望ましい。
- ただの記録ではなく、配信したり販売したりするクオリティの映像を撮るためには、高倍率のレンズとカメラマンは最低3名必要だと思う。スペシャルのときは、機材とカメラマンを増やして4名や5名の体制にする場合もある。
- VRは面白いとは思いますがやっていない。VRの映像は、視聴のためにVR機器が必要なので汎用性がない。VRはゲームやアミューズメントなど他ジャンルの方が生かせるのではないか。
- 機材は、数年経つと新しいものが出てくる。15年後くらいにはメーカーのサービスが終了し、修理も難しくなる。そこを念頭においてほしい。また、プロジェクターは、現在、

2 K解像度での投影がオーソドックスだが、解像度が4 K以上になると、コンピューターなど出力する機器にパワーが必要だったり、回線の伝送性能も高くないと難しい。

- オペラ公演でのプロジェクションなどの、映像を利用した演出はこれからも増えていくと思う。新作に関しては映像を活用している作品は7～8割。
- 貸し劇場公演で外部事業者がプロジェクションを担った場合、事業者は映像信号や通信のケーブルを自分たちで引くことが多いので、ケーブルのルートを確保する通路や小扉を予め作っておくと対応の際便利。
- 所持機材、持込機材ともに、電源設備は必ず必要。最近 200V のプロジェクターが当たり前になっている。LAN回線があれば便利。映像信号の回線をつくる場合は、用途やその時以降の主流を考える必要がある。
- リアプロジェクションは投影面から 15m くらい離してプロジェクターを設置している。レンズの画角によりプロジェクターの設置場所は変わる。
- 新国ではリアプロジェクションの使用率はとても高い。また、海外からの引っ越し公演でもリアプロジェクションを使用することが多いと思う。

(12) 横浜商工会議所ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年8月27日

- 再整備される県民ホール本館の機能については、従来の機能を維持しつつ、本格的なオペラにも対応できる最新鋭の施設として再整備していただきたい。
- 県民ホール本館の立地場所については、現在の地点での建替えに加え、利便性や経済波及効果などを十分に考慮し、横浜都心臨海部の新港地区や山下ふ頭地区などの多様な地点での整備を含めて検討していただきたい。
- 新たな県民ホール本館のデザインについては、横浜港に隣接するという立地を考慮して港からの景観にも配慮しつつ、横浜・神奈川を代表するシンボリックなデザインとしていただきたい。
- 横浜市が策定した「山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン(素案)」では、山下町1番地から3番地にかけては、山下ふ頭や関内・関外地区、みなとみらい21地区などの水際線の各地区をつなぎ、来街者を迎え入れる玄関口となる“西の結節点”に位置付けられている。

しかし、同地区に立地するシルクセンター(1番地)は1959年に、産業貿易センタービル(2番地)は、県民ホール本館(3番地)と同じ1975年に建設され、既に50年以上が経過して老朽化が進んでいることから、隣接する建物の再整備計画を把握して当該地権者との連携を図りながら再整備を進めていただきたい。

(13) NPO 法人神奈川県視覚障害者福祉協会ヒアリング

■実施日：2025(令和7)年9月10日

- 基本的な設計について、設計の途中で、本当に使いやすい設計になっているか意見聴取をしてほしい。その時は、図面は得意ではないので説明してもらいながら進めたい。
- 配色について、床と階段の色を分けて、ロービジョンの人が分かりやすい色合いでコントラストをはっきりさせてほしい。特に、床と階段の始まり、壁と床、エレベーターのドアの色と壁、男子トイレと女子トイレの入り口を色分け、トイレの個室のドアと壁の色を変えてメリハリをしっかりとつけてほしい。また、階段の段鼻（角）が分かるように色分けをはっきりさせてほしい。白状が引っかかりたりするので、段がついたものにせず、色で示すだけでいい。劇場のエントランスの壁や床がタイルやレンガ張りになっていると段差の線との区別がつかないことがあるので、フラットになっている素材にしてほしい。
- 階段について、蹴上の高さは普通 17～18 c m ぐらいだと思うがもう少し低くしてもらえると高齢者も我々も使いやすい。バリアフリー法や関係法令等の基準に準じて階段や踊り場等に展示ブロックを作ってもらいたい。
- トイレについて、人感センサーの音声案内を設置してほしい。トイレの中の構造はシンプルなものにしてほしい。最近ではドアがなく、クネクネ中で移動する必要があるトイレがあり困っている。トイレの中の流すボタンとウォシュレットのボタンが同じ形のため、どちらか分からない。流すボタンは靴ベラ式にしたり、色で目立たせたりしてほしい。緊急呼び出しボタンは赤、流すボタンは青と、J I S 規格でも決まっておき、形状まで決まっているが、守られていない。何度か間違えて緊急呼び出しボタンを押してしまったことがある。点字で「押す」とだけ書いてあり、それを押すことで何が起きるのか分からないというケースもある。手をかざすことで流すタイプのセンサースイッチも、我々には分からない。
- 案内と表示について、案内表示板は大きな文字で、必要な太さで表示してほしい。表示は可能な限り目の高さにしてほしい。ロービジョンの場合、数センチまで近寄ってみるので、高いところだと近寄れないため読めない。150cm 前後の高さに配置してほしい。
- 音声案内について、必要な場所（最低限ほしいのは、建物の入り口、受付、トイレ）へ音声案内を設置してほしいが、つけすぎるとうるさくなるので、一般の人に気をつかって、音声案内のタイミングを考える必要はある。また、ボリュームも演目などに差し支えないよう配慮する必要がある。三重県には白状に反応する音声案内があった。シグナルエイド対応（こちらで専用機器のボタンを押すとスピーカーがしゃべるもの）も考えられる。シグナルエイドを持っている人は全体の 1 割ぐらい。圏内に入るとシグナルエイドがぶるぶる震えて教えてくれて、ボタンを押すと音が聞こえる。
- 音声解説（演目解説）について、県立音楽堂などでやっているが、スマートフォンの Bluetooth 接続で、能などの説明をイヤホンで聞くことができる。会場全体でなくても、そういうエリアを設けておけばよいのではないかな。また、しゃべっても良いといったエリアがあるとよい。一緒に付いてきてくれる人（ガイドや家族など）が説明してくれる時の、こそこそ声がうるさいと言われてしまうので。親子室などもあるが、そこまで隔離しなくてもいい。最近の映画では、音声解説をスマホでできるが、舞台などでは、人が話す必要があると思う。

- 点字ブロック（ユニバーサルデザイン）について、原則色は黄色がよい。ロービジョンの方から見やすい。グレーや金属の場合などがあるが、床と同調した色だとどこに点字ブロックがあるのか分からない。点字ブロックは、屋内と屋外の基準があって、車いすを考えると屋外は高さ 5mm で良いが、屋内は場所によって高さ 2.5mm にすれば、車いすとか高齢の方からも文句は出ないと思う。
- 人的配置について、障害のある人が単独で劇場に行きたい時に、予め支援を伝えておき、窓口で対応してくれるという仕組みがあると嬉しい。支援としては、座席までの誘導はやってほしい。それがあったら助かる。コンサート（特にオペラなど）はチケット代が高いので、行きたいと思ってもガイドを含めて 2 人分を購入する必要があると思うと、二の足を踏んでしまう。ホールの従業員のマニュアルを作り、障がい者の案内研修なども行い、徹底してもらえるとよい。
- プログラムや資料について、拡大文字で作成してくれるとありがたい。拡大文字は 16～18pt の大きさと、書体は丸ゴシック体を使っている。通常のコシックだと画数によっては文字がつぶれて黒くなりすぎるし、明朝だと細い。チケットを買った時に、データでもよいのでプログラム（当日の演目のパンフレット）を送ってほしい。
- 良かった事例について、客席がスロープだと良い。不規則な段差（幅の違う階段なども含む）がある会場はつらい。厚木の郷土博物館でココテープ（視覚障害者歩行テープ）を引いてもらってありがたかった。ステージの映像を舞台奥の画面に映している公演がありよかった。座席ごとに飛行機みたいにタブレットがついている劇場があった。その時は手話通訳の映像が出ていた。
- エレベーターについて、たまに音声案内で「出口はこちらです」とか言われるが、我々にはわからない。どんな仕様や音声案内にするのが良いか、機種を選定するときなどに我々に聞いてほしい。
- エスカレーターについて、エスカレーターは上りとか音声で教えてくれたらと思う。「3 階行き上りエスカレーターです」とか。エスカレーターが使えない場合は、「このエスカレーターは使えません」といった音声も流してほしい。
- その他提案について、車いす席はいつも後ろの端っこなので、何か所かに配置して選べるようにするとよい。楽屋のトイレに 1 か所ぐらいは多目的トイレがほしい。ロービジョンだと前列だと見えるから前の方に優先席があると嬉しい。ディスプレイは、明るくても堂々と見えるエリアがあると助かる。また、ガイドが常に同時通訳しても問題ないような、しゃべってもいいエリアもほしい。

4 みんなでつくる県民ホールアイデア箱等

■実施期間：令和 7 年 6 月 18 日から令和 7 年 10 月 31 日まで

※ 一部体裁を修正

- 屋上にチケット制で花火の観覧席。人混みで危ない思いをしなくて、昔見た横浜の花火をまた見たいとずっと思っている。今年、休館間際に英壺番館でお友達とランチを頂いて名残を惜しんだ。コンサートでよく行っていた県民ホールが新しくなって利用できる日を待っている。（横浜市、50 代、女性）

- 希望する全ての方が使用できるプライベート観覧席（個室）。防音設備が整っており、乳幼児、幼児連れでも気にせず親子、家族で観覧でき、軽度、重度の障がいのある方も健常者と同じ演奏にふれることができ、高齢者の方が楽な姿勢で観覧できるようなプライベート観覧席を作してほしい。（横浜市、60 代以上、女性）
- 金沢公会堂で導入されているような、観客席の一番うしろにガラス越しに鑑賞できる所で、小さいお子様いても安心な親子室を作してほしい。また、女子トイレの一方通行化が劇団四季の会場で導入されていたのですが、入り口と出口が別となっており、スムーズで混雑緩和に繋がってよいと思いました。（横浜市、30 代、女性）
- 横浜には、みなとみらいホール、神奈川芸術劇場、ミズキーホールなど、それぞれ音楽や演劇に適したホールを持っているのでこれ以上ホールはいらない。緑化運動しているため、庭園を作ってみてはどうか。（横浜市、40 代、女性）
- 大ホールにパイプオルガンを設置して欲しい。オーケストラでサン＝サーンスの交響曲など、パイプオルガンを使用した楽曲を聴いてみたい。設置、メンテナンス費用がかかると思うが、音楽ホールを新しく作るのであれば、設置して欲しい。小ホールも作るなら木の温もりを感じるホールが良い。あと、裏方さんが楽出来る、最新の舞台設備があると、後に改めて改修する費用が無くなると思うので予算に限度があると思うがなるべく取り入れたほうが良いかと思う。（横浜市、60 歳以上、女性）
- 神奈川県民ホールの面積は大きいけど、観客席がもっと増えたら嬉しい。（横浜市、10 代、男性）
- 「プロジェクションマッピングがしやすいような、白くて大きな床や壁」と「超巨大液晶画面」を用意しておく、巨大デジタルアートで人を多く集めやすくなると思います。それを見るだけでも県民ホールに行きたくなるような、どの県にもないような、巨大でインパクト抜群のデジタルアートを見てみたいです。（千葉県、40 代、男性）
- 県民ホールのギャラリーは、美術、工芸等、芸術作品を展示する貴重な場所になっていました。現在、高等学校では作品を展示することができず、大変困っています。是非、素晴らしいスペースを作ってください。切にお願い致します。（平塚市、50 代、男性）
- 今までの県民ホールは、出演者にとっては最悪であった。リハーサル室は階段を上らねば入れず、非常に狭いため本番通りの動きは到底できない。
- また、楽屋は何階にも渡って設けられているのに、トイレは地下に 2 カ所、個室は各 1 室だけ。ベートーヴェンの第九や出演者の多いオペラ、バレエなどの時はどうしていたのだろうか。出演者は排泄などしないと思われていたのであろうか。客が入る前なら客用トイレも使えるが、本番が始まったらそうはいかない。それなりに緊張もするし、実際排泄しなくとも、トイレがすぐそこに十分あると思うだけで楽になるのである。
- 新たに作られる県民ホールには、リハ室は大小 2 室欲しい。大は 21m×14m ほど、小は 17m×11m ほど、それぞれ長辺 1 辺は鏡張りで他の 3 辺はバレエバー付きにしてほしい。
- 楽屋は可能なら同じフロアで大小合わせて 12 室ほど欲しい。個室レベルの楽屋はユニットバス付き。
- 共用トイレは、楽屋エリア、リハ室エリアそれぞれに個室が男女各最低 8 室ずつ必要。

- 隣り合ってシャワールーム、というか、大きくバスルームエリアとして、その中にトイレエリア、シャワールームエリアを設けてほしい。
- 舞台裏にもトイレは欲しい。上手・下手移動用の通路を作るだろうから、その辺りにでも。ついでに、移動用通路の途中で早着替え室も欲しい。
- さらに、楽屋・リハ室エリアにそれぞれ待機スペースとでも言うような一定の空間も欲しい。イベントを行う場合、何かと準備をしたりする空間が必要になるものである。
- 今までの県民ホール楽屋・リハ室エリアは、楽屋、リハ室、それらをつなぐ階段や廊下があれば事足りると思われていた節がある。
- イベントをする側に使い易いホールになりますように。(横須賀市、60 歳以上、女性)
- カルチャーセンターのような施設が入ってほしいです。例えば、ピラティス、ヨガ、空手、太極拳、語学など。この地域は高齢者も多く出来れば横浜の地域性も含め、レベルの高い講師を呼べたら最高です。(横浜市、60 歳以上、女性)
- 新しい県民ホールが、より多くの方にとって安心して楽しめる場になることを願っています。そのために、次のような工夫があるとさらに素敵だと思います。
 - ・ 大きな車いすやストレッチャーを利用される方も、気軽に来館できるような設計。
 - ・ 車いすやストレッチャーのまま鑑賞できる専用スペースの設置。
 - ・ 視界が遮られないように、前列にゆとりをもたせるなどの工夫。
 - ・ 多機能トイレにユニバーサルベッドが備えられ、介助者と一緒に使える十分な広さ。
 - ・ 駐車場からホールまでの動線がわかりやすい設計。
 - ・ エレベーターが広く、ストレッチャーや複数人でも安心して利用できること
 さまざまな人が同じ空間で文化を楽しめるホールになることを期待しています。(横浜市、40 代、女性)
- 県民、お年寄りから子供たちも格安で使える大型ギャラリースペース。文化的なスペース。休憩スペースやカフェも併設されていたらとても利用しやすいと思います。(秦野市、50 代、女性)
- 良い音響、段差がきちんとあって見やすい客席、入口と出口を分け、動線を一方通行にしたトイレ、具体的には博多座のような素敵な劇場を神奈川に作ってほしい。(横浜市、20 代、女性)
- 神奈川県民ホール建替え案を募集しているようですが、私の希望として、安藤忠雄さんに建築デザインしてもらいたいです。(神奈川ではあまり見れないので) 海とかイメージして、後、万が一の防災施設として活用できるとよいかなと。(50 代)
- 横浜市役所アトリウムのような屋内空間を設けて、パブリックビューイングなどが実施できるようにしてほしい。屋外には、旧県民ホールのような広々としたスペースを設け、コンサートに合わせてPRブースや物販ブースを設置できるようにして、賑わいの場を創出してほしい。(茅ヶ崎市、60 代、男性)

5 みんなでつくる県民ホールアイデアコンテスト

■実施期間：令和7年7月14日から令和7年10月10日まで

応募総数 45 件について、イラストタイトルと説明文を AI（Chat GPT）により要約し、イラストを一部抜粋した。

○ 全体

神奈川県民ホールに対する提案には、観客席や音響設備の改善、デジタルアートを活用した未来型ホールの構築、多目的スペースの充実、地域性を活かしたデザイン、そして多世代が快適に利用できる空間づくりが求められています。これにより、芸術や文化の発信拠点としての役割を果たしながら、憩いの場としても機能する施設を目指す声が多く挙がっています。

○ 観客席と舞台の工夫

観客席を増やし、どの席からもステージが見やすい設計が期待されています。例えば、円形ホールや交互配置、座席間の高さを工夫することで、前列の観客の頭が邪魔にならない構造が提案されています。さらに、観客が快適に過ごせるよう、座席の広さや間隔を広げるなど、居心地の良さも重視されています。

○ デジタルアートと未来型ホール

プロジェクションマッピングが可能な白い壁や床、超巨大液晶画面を備えたデジタルアート対応のホールが求められています。これにより、どの県にもないインパクトのある展示が可能となり、県民ホールを訪れるきっかけを提供できます。未来型の施設として、地域の文化とテクノロジーを融合させた新しい魅力を発信する場が期待されています。

○ 多目的スペースの充実

カフェやギャラリー、展望デッキ、ライブビューイングルームなど、多世代が利用できる多目的スペースが求められています。例えば、親子で気軽に立ち寄れるスペースや防音ルーム、子どもが遊べるエリアを設置することで、幅広い利用者が快適に過ごせる施設を目指す声が多く挙がっています。これにより、ホールが憩いの場としての役割も果たします。

○ 地域性を活かしたデザイン

横浜港や海の景色を取り入れたデザインや、神奈川県模した建物など、地域の特色を反映したホールが期待されています。例えば、波をイメージした半円形の建物や、ガラスを多用した明るい外観が提案されています。これにより、横浜らしい文化発信の拠点として、地域住民だけでなく観光客にも魅力的な施設となります。

○ 誰もが楽しめる空間

バリアフリー対応や子どもが遊べる防音ルーム、親子で立ち寄れる開放的なギャラリーなど、多世代が快適に利用できる空間が求められています。例えば、ベビーカーや車

いすが自由に動ける広い通路や、子どもが床に絵を描けるスペースを設けることで、障がいの有無や年齢を問わず、誰もが楽しめる施設づくりが期待されています。

6 県民ホール主催事業におけるアンケート

県民ホールが実施した主催事業の中でのアンケート「新しい県民ホールについてのご意見（自由記述）」の回答を AI（Chat GPT）により要約した。

（１）Jewels from MIZUKA 2025 アンケート結果

■実施日：令和 7 年 3 月 8 日（横浜）

■回答者：311 人

利用者は新しい劇場が今までの良さを残しつつ、利便性や快適性を向上させることを強く望んでいる。

○ エスカレーターとバリアフリーの必要性

「急勾配で見やすいが、3F、2F とも階段で上るのが結構大変になってきた。まずは建物内にエスカレーターを設置してほしい。」といった意見があり、利用者は、特に高齢者や身体に不自由がある人々のためにエスカレーターの設置を求めている。

○ トイレの数と配置

「トイレが各階毎に欲しい。トイレの数を多くしてほしい。」など、多くの意見がトイレの数や配置に集中しており、特に女性用トイレの不足が指摘されている。

○ 座席の見やすさと配置

「どの席でも見やすい構造になってほしい。」といった意見があり、利用者は、座席の配置や構造が視界を遮らないように配慮されることを望んでいる。

○ 施設の雰囲気と思い出の保持

「思い出が多いホールなので全く別のものというよりは少し名残があると嬉しい。」といった意見があり、利用者は、建替え後も以前の雰囲気や思い出を残してほしいと願っている。

○ 文化的な魅力の維持

「良質な音響効果、エレベーターの設置、女性トイレの数を増やしてほしい。」など、利用者は、文化的な価値を維持しつつ、現代的な設備を整えることを求めている。

（２）吹奏楽フェスティバル アンケート結果

■実施日：令和 7 年 3 月 16 日（横浜）

■回答者：186 人

「県民ホールが親しみあるホールになってほしい」との願いが込められており、地域の文化的な拠点としての役割を果たすことが期待されている。

○ ホールのシンボルとイメージの継承

「今の県民ホールのシンボルやイメージを引き継いでほしい」との声が多く、特に大ホール入口の絵画や赤い絨毯、開放的なロビーの維持が求められている。

○ **音響と利用性の重視**

「音響の良いホール」や「県民が利用しやすい形で音楽も演劇も楽しめる場に」といった意見があり、音響効果や利用のしやすさが重要視されている。

○ **施設のバリアフリー化**

高齢者や足の不自由な方への配慮として、「エレベーターやエスカレーターを設置してほしい」との要望がある。また、トイレのバリアフリー化も求められている。

○ **イベントの多様性とアクセスの向上**

「沢山の方が気軽に来れるようなイベントが、たくさん行われる施設になるといい」との意見があり、地域の文化活動の拠点としての役割が期待されている。

○ **歴史と文化の継承**

「今の面影を少しでも残した今までの人たちの想いなど歴史を感じさせるものにして欲しい」との声があり、過去の思い出を大切にしつつ新しい施設を作ることが求められている。

(3) フィナーレコンサート アンケート結果

■実施日：令和7年3月31日（横浜）

■回答者：465人

県民からはバリアフリーや音響、トイレの数、多様な利用目的で使えること、景観との調和といった具体的な要望が多く寄せられており、これらを反映した新しい県民ホールの実現が期待されている。

○ **バリアフリーの充実**

「バリアフリー化、トイレの数を増やしてほしい。レストランや売店などショップを入れてほしい。」など、高齢者や障がい者が利用しやすい施設にするための要望が多く寄せられている。

○ **音響と視認性の向上**

「どの席からも舞台が見やすく、音響が最高のホール、オペラの公演に良いホール」音響の質や視認性を重視する意見が多く、特に音楽や演劇の公演に適した設計が求められています。

○ **トイレの数と配置**

「トイレをたくさん作ってほしいです。トイレに並ぶ時間が短くなるよう個室の数を増やしてほしい」トイレの数を増やし、利用しやすい配置にすることが強く求められています。

○ **多様な利用目的に対応**

「音楽、舞台が楽しめるホール、いろいろな使い方ができる施設にしてほしい」様々なジャンルの公演やイベントに対応できる多機能なホールの設計が期待されています。

○ **景観との調和**

「横浜の街並みに似合う建築、樹木との調和のとれた自然にあふれる県民の癒しとなる施設になってほしいです。」周囲の景観と調和したデザインが求められ、地域の文化や歴史を反映した施設であることが望まれています。

(4) パイプオルガンを訪ねる旅 アンケート結果

■実施日：令和7年8月2日（横浜）

■回答者：76人

■実施日：令和7年8月9日（茅ヶ崎）

■回答者：66人

県民ホールは地域の文化を支える重要な施設であり、利用者のニーズに応えることが求められている。

○ 多様な音楽ジャンルの採用

「クラシックからお笑いまで、幅広いジャンルを採用していただきたい。」という要望があり、様々な音楽や芸術のイベントが求められています。

○ バリアフリーと設備の充実

「バリアフリーとして大きめのエレベータの設置」や「トイレ数を多くして欲しい」といった、利用者が快適に過ごせるための設備改善が強調されています。

○ 音楽と芸術の特化

「山下公園の立地を生かし、音楽や芸術を生かす様に特化すべき」との意見があり、地域の文化を活かしたプログラムが期待されています。

○ パイプオルガンの存続

「パイプオルガンを残してほしい」という意見が繰り返し出ており、オルガンの設置が重要視されています。

○ 地域貢献とコミュニティの場

「県民のコミュニケーションの場として身近なホールとなっていきたい」との要望があり、地域の文化活動や交流の場としての役割が期待されています。

(5) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団と巡る県内オーケストラコンサート アンケート結果

■実施日：令和7年8月11日（伊勢原）

■回答者：317人

■実施日：令和7年8月24日（南足柄）

■回答者：245人

全体として、利用者は快適でアクセスしやすい音楽ホールを期待しており、特に音響や座席の質、バリアフリー対応、子ども向けの施設、トイレの充実が重要視されています。

○ 座席の快適さ

「大きなホールにしてほしい。席の間を広くとってほしい。トイレで立つときに隣の人に気をつかわないぐらいの席間隔がほしい。」とあり、利用者はゆったりとした座席配置を求めています。

○ **音響の質**

「音響がよいこと。」や「音の響き方に期待。」といった意見が多く、音質の向上が強く望まれています。

○ **バリアフリー対応**

「車いす席や、呼吸器をつけていても鑑賞できる席」や「バリアフリー」といった要望があり、すべての人が利用しやすい環境が求められています。

○ **子ども向けの施設**

「子どもが楽しめるようにする。子どもが安価で利用できるようにする。」や「子ども対策として「キッズルーム」「親子室」がほしい。」といった意見があり、ファミリー層への配慮が必要とされています。

○ **トイレの充実**

「トイレの数が増えること。」や「女性用のトイレを増やしてほしいです。」といった具体的な要望が多く、トイレの数や質の向上が求められています。

(6) All You Need is LOVE RIVER《愛川こそすべて》～THE BEATLES フリークがやって来るヤァヤァヤァ！ アンケート結果

■実施日：令和7年9月6日（愛川）

■回答者：46人

音響・映像設備や座席配置の改善、多機能な空間づくり、イベントの多様性を重視した会場の提案が求められています。

○ **音響・映像設備の充実**

ステージが見やすい座席配置や音響の良いホールを求め、3D・デジタルライブ対応の演出も期待されています。

○ **多目的な利用空間**

山下公園前のロケーションを活かし、雨宿りや休憩、子供連れでも利用できる多機能なパブリック空間が求められています。

○ **イベントの多様性**

様々なアーティストが参加できる場を提供し、盛り上がるバンドやオープニングアクトのような演出を期待しています。

○ **会場の規模と案内改善**

大中小の会場をニーズに合わせて設置し、当日の公演案内を充実させることで利便性を向上させたいとの意見があります。

○ **座席配置の工夫**

前列の座席を幅広くし、より多くの人々がステージを身近に感じられる鑑賞環境を求める声があります。

(7) 歌って、弾いて、お話しして～ご存じ青島広志先生のモーツァルトレクチャー～

アンケート結果

■実施日：令和7年9月13日（寒川）

■回答者：108人

音響や座席配置、バリアフリー、トイレ設備の充実など、利用者が快適に楽しめる会場づくりが求められています。

○ バリアフリーと設備の充実

エレベーターや身体の不自由な方が利用できるトイレなど、バリアフリー設備が求められています。

○ 座席配置の改善

座席間隔や幅を広げ、傾斜を工夫することで舞台が見やすく、傘ホルダーを座席に設置するなど、快適な鑑賞環境を整えることが期待されています。

○ トイレ設備の充実

洋式トイレの設置や女性トイレの増設など、利用者目線でのトイレ環境改善が求められています。

○ 多機能な施設の提供

カフェやバー、託児所、小学生が遊べるスペースなど、幅広い年代が楽しめる施設の充実が求められています。

○ 音響や内装へのこだわり

音響効果の良いホールや横浜らしい内装、大中小のホール設置など、立地を活かした施設が期待されています。

(8) 音楽絵本『奇妙なマザーグースの話』～「怖い」「奇妙」な歌で元気になる!?～

アンケート結果

■実施日：令和7年9月27日（松田）

■回答者：46人

■実施日：令和7年9月28日（清川）

■回答者：50人

音響設備や座席配置、バリアフリー、親子席の拡充、カフェなど多機能な施設の充実が求められています。

○ 音響設備の充実

コンサートやオペラ向きの音響に優れたホールを希望し、国内外の有名アーティストの公演にも対応できる設備が求められています。

○ バリアフリーと多世代対応

車いす利用者が快適に利用できるホールや親子席、子供が遊べるスペースなど、幅広い世代が楽しめる環境が期待されています。

○ **座席配置の工夫**

座席に余裕を持たせ、角度を工夫することで舞台が見やすい環境を整え、ゆったりと座れる快適な鑑賞空間が求められています。

○ **施設の多機能化**

カフェ、軽食屋、ギャラリー、練習場、イベントスペースなど、公演がない時でも気軽に利用できる施設の充実が求められています。

○ **案内や利便性の向上**

電光掲示板や案内板、字幕表示ディスプレイなど、分かりやすい情報提供や無料ドリンクサービス、給水機の設置が期待されています。

(9) 砂川涼子&園田隆一郎 デュオ・コンサート ～モーツァルトを旅する午後～
アンケート結果

■実施日：令和7年10月15日（横須賀）

■回答者：47人

音響や座席配置の改善、バリアフリー対応、女性トイレの増設など、快適性と利便性を重視したホールづくりが求められています。

○ **音響設備と客席の工夫**

音響の良さを追求し、座席を互い違いに配置することで前列の人の頭が邪魔にならない構造が期待されています。

○ **バリアフリーの充実**

大型エレベーターやエスカレーターの設置、階段を減らすなど、車いす利用者を含め障害のある方が気軽に利用できる施設が求められています。

○ **女性トイレの増設**

女性トイレを多く設置することで、女性来場者への配慮を充実させ、快適な利用環境を整えることが求められています。

○ **座席の快適性向上**

座席間隔を広げ、座りやすくすることで、来場者がリラックスして公演を楽しめる環境が求められています。

○ **主催公演と学びの場の提供**

主催公演を増やし、学びながら鑑賞できる公演の充実を求める声があり、生の音源の特別感を大切にしてほしいという意見があります。

(10) さがみ湖 野外バレエフェスティバル 2025 神奈川県主催公演プログラム「ジゼル」全2幕
自然と芸術が織りなす幻想の一夜 アンケート結果

■実施日：令和7年10月18日（相模原）

■回答者：91人

音響や座席の工夫、バリアフリー、飲食施設の充実など、幅広い利用者が快適に過ごせるホールの建設が求められています。

○ **座席と舞台の見やすさ**

座席を交互配置にするなど工夫を凝らし、どの席でも前列の人の頭が邪魔にならない構造が求められています。

○ **トイレの重要性**

女性トイレを十分な数設置し、動線をわかりやすくすることで、利用者の満足度を向上させる意見が多く見られます。

○ **バリアフリーの配慮**

車いす利用者や高齢者が安心して利用できるよう、エレベーターやスロープを設置し、階段を減らすことが期待されています。

○ **飲食と憩いの場**

カフェやレストランを併設し、木や植物のある広場や水場を設けることで、心癒される空間作りが求められています。

○ **文化発信の拠点**

芸術作品の展示やバレエ・オペラなどの公演を通じ、横浜らしい独自性を持った文化発信の場としての役割が期待されています。

別紙 2

1 県民ホールにおける主な出来事

年	出来事
1975	● 開館 1 月 17 日 ● 大ホールこけら落とし：松竹大歌舞伎「寿式三番叟」「勸進帳」 ● 小ホールこけら落とし：ペーター・プラニアフスキー「パイプオルガンのタペ」 ● ギャラリー：第 10 回神奈川県美術展（以後毎年開催）
1976	● 「神奈川芸術祭」開始 ● 「現代作家シリーズ」開始（ギャラリー）
1979	● 「神奈川吹奏楽フェスティバル」開始（大ホール）
1980	● 開館 5 周年 ● 「現代彫刻の歩み—41 人の作家による戦後彫刻の足跡—」（ギャラリー）
1985	● 開館 10 周年 ● 「現代彫刻の歩み—木の造形」（ギャラリー）
1986	● 現在音楽シリーズ「音楽の現在」開始（企画・監修 一柳慧）（小ホール）
1987	● 「神奈川アート・アニュアル」開始（ギャラリー）
1989	● 小ホールのパイプオルガンを舞台正面に移設
1990	● 開館 15 周年 ● 松山バレエ団「ロミオとジュリエット」（大ホール） ● バッハ・オルガン・チクルス全 9 回（小ホール） ● 現代彫刻の歩みⅢ（ギャラリー）
1993	● 神奈川芸術文化財団設立
1994	● 初代芸術総監督に團伊玖磨が就任 ● 「神奈川芸術フェスティバル」開始 ● コンテンポラリー・アーツ・シリーズ ウィリアム・フォーサイス&フランクフルトバレエ団「ARTIFACT」（大ホール） ● コンテンポラリー・アーツ・シリーズ フィリップ・ドゥクフレ&カンパニー D. C. A. 「プティット・ピエス・モンテ」（大ホール）
1995	● 開館 20 周年 ● 團伊玖磨オペラ「素戔嗚（すさのお）」世界初演（大ホール） ● 一柳慧「交信」/カール・オルフ「カルミナ・ブラーナ」（大ホール） ● ザ・版画（ギャラリー） ● コンテンポラリー・アーツ・シリーズ ローザス「死の彼方 永遠の愛」
2000	● 開館 25 周年 ● DAN YEAR 2000 ● 團伊玖磨 オペラ「ちゃんちき」（大ホール） ● ブレヒト「三文オペラ」

	● 芸術総監督に一柳慧が就任 ● 「神奈川芸術フェスティバル」から「神奈川国際芸術フェスティバル」へ変更
2005	● 開館 30 周年 ● 現代彫刻の歩みⅣ モノづくりの逆襲（ギャラリー） ● 一柳慧「愛の白夜」世界初演（大ホール） ● シリーズ 詩と音楽 全 4 回（小ホール）
2006	● 「ファンタスティック・ガラコンサート」開始（2006-2024）
2007	● 「共同制作オペラ」開始（2007-2020）
2010	● 開館 35 周年 ● 一柳慧「愛の白夜」改訂決定版（大ホール） ● スティーヴン・イッサーリス室内楽プロジェクト“アニヴァーサリー”（小ホール） ● 日常/場違い（ギャラリー）
2011	● 「オープンシアター」開始（全館）
2015	● 開館 40 周年 ● 県民参加合唱 マーラー交響曲第 8 番「千人の交響曲」（大ホール） ● オルガン・ガラコンサート（小ホール） ● 一柳慧 オペラ「水炎伝説」（小ホール） ● 黛敏郎 オペラ「金閣寺」（大ホール） ● 鴻池朋子「根源的暴力」（ギャラリー）
2020	● 開館 45 周年 ● 大山エンリコイサム「夜光雲」（ギャラリー） ● 「Toshi 伝説」（大ホール）
2022	● ロバート・ウィルソン/フィリップ・グラス「浜辺のアインシュタイン」（大ホール）
2023	● 「オルガン・プロムナード・コンサート」第 400 回公演
2024	● サルヴァトーレ・シャリーノ「ローエングリン」（大ホール） ● 眠れよい子よ よいこの眠る/ところ（ギャラリー）
2025	● 開館 50 周年 ありがとう神奈川県民ホール ● Jewels from MIZUKA 2025 ● 神奈川県吹奏楽フェスティバル ● フィナーレコンサート ありがとう神奈川県民ホール ● オルガンチャレンジスペシャル！ ● META2025 ● 共生共創フェスティバル

2 これまでの公演（ポピュラー音楽など）

年	出演アーティスト（抜粋、順不同、初回のみ掲載）			
1975	シュープリームス	ビル・エヴァンス	布施明	由紀さおり
	雪村いづみ&江利チエミ	森山良子	小林旭	オフコース
	ミッシェル・ポルナレフ	野口五郎	郷ひろみ	ちあきなおみ
	美空ひばり	森進一	西城秀樹	北島三郎
	中村雅俊	岩崎宏美	キャンディーズ	山本リンダ
	小柳ルミ子	荒井由実（松任谷由実）	沢田研二	松山千春
	寺内タケシ	オスカー・ピーターソン	さだまさし	五輪真弓
	カーペンターズ	都はるみ	アリス	研ナオコ
	加藤登紀子	加山雄三	島倉千代子	宝塚歌劇団
	アグネス・チャン	グレン・ミラー・オーケストラ	松崎しげる	井上陽水
	五木ひろし	菅原洋一	細川たかし	
	ポール・モーリア	レイモン・ルフェーヴル	因幡晃	
1980	クロード・チアリ	内山田洋とクール・ファイブ	小林幸子	近藤真彦
	フランク永井	山下達郎	堀ちえみ	シャカタク
	ふきのとう	田原俊彦	柳家小さん	淡谷のり子
	日野皓正	松田聖子	新沼謙治	渡辺徹
	高山巖	河合奈保子	谷村新司	上田正樹
	村田英雄	矢野顕子	黒柳徹子	尾崎亜美
	マルセル・マルソー	杏里	角松敏生	真田広之
	岸田智史	金子由香利	吉川晃司	いいとも青年隊
	千昌夫	タモリ	坂本龍一	CASIOPEA
	松田優作	桃井かおり	原田知世	竹中直人
	三波春夫	CHAGE and ASKA	中山美穂	三田村邦彦
	ソニーロリンズ	白井貴子	ラッツ&スター	チョー・ヨンピル
	カーラ・ボノフ	藤圭子	斉藤由貴	岸洋子
	チック・コリア	南こうせつ	TUBE	中原めいこ
	もんた&ブラザーズ	堀内孝雄	とんねるず	一世風靡セピア
	渡辺貞夫	寺尾聰	プリンセス プリンセス	山下久美子
	田端義夫	柏原よしえ	小泉今日子	THE SQUARE
	ライザ・ミネリ	高橋真梨子	Wink	甲斐バンド
	さとう宗幸	立川談志	荻野目洋子	八神純子
	竹内まりや	THE ALFEE	佐野元春	ルー・タバキン
	イルカ	高橋竹山	カルロス・トシキ&オメガトライブ	八代亜紀
	山口百恵	中森明菜	来生たかお	杉良太郎
	海援隊	中島みゆき	河島英五	早見優

	長渕剛	ジャコ・パストリアス	永井龍雲	アン・ルイス
	植木等・谷啓	サザンオールスターズ	喜多郎	シャーデー
	吉田拓郎	石川秀美	萩原健一	
1990	梅沢富美男	美輪明宏	瀬川瑛子	福山雅治
	徳永英明	織田裕二	マンハッタン・トランスファー	CHARA
	永井真理子	HOUND DOG	高橋克典	山本譲二
	米米 CLUB	槇原敬之	TOTO	クーラ・シェイカー
	森高千里	鈴木雅之	シャ乱 Q	ブランディ
	浅香唯	中西圭三	THE HIGH-LOWS	CURIO
	小田和正	安全地帯	THE YELLOW MONKEY	TRIO LOS PANCHOS
	岡村孝子	舟木一夫	宇都宮 隆	CANDY DULFER
	稲垣潤一	千住真理子	勝 新太郎	伊藤多喜雄
	南野陽子	美川憲一	椎名へきる	サーカス
	THE BOOM	SMAP	谷村有美	デューク・エリントン
	GO-BANG' S	LUNA SEA	真心ブラザーズ	今井美樹
	ジッタリン・ジン	THE BLUE HEARTS	JUDY AND MARY	渡辺美里
	B' z	T-BOLAN	Eternal	UNICORN
	レイ・チャールズ	Mr. Big	RED WARRIORS	忌野清志郎
	DREAMS COME TRUE	尾崎豊	鳥羽一郎&山川豊	大江千里
	小比類巻かほる	電気グルーヴ	黒夢	小椋佳
	高野寛	和田アキ子	藤あや子	ザ・ベンチャーズ
	杉山清貴	平松愛理	スタイリスティックス	吉幾三
	工藤静香	KAN	オジー・オズボーン	浜田省吾
	LINDBERG	JAYWALK	イングヴェイ・マルムスティーン	横山輝一
	コロッケ	メガデス	UA	アダモ
	由紀さおり・安田祥子	玉置浩二	岡本真夜	L⇄R
	PERSONZ	Original Love	PUFFY	尾崎紀世彦
	久保田利伸	大月みやこ	東京スカパラダイスオーケストラ	佐藤アツヒロ
	森公美子	Herbie Hancock		
2000	藤井フミヤ	Janne Da Arc	ジェフ・ベック	秦基博
	サヴェージ・ガーデン	DEEN	綾小路きみまろ	BoA
	Every Little Thing	access	奥田民生	YUI
	Raphael	後藤真希	川中美幸	中尾ミエ・モト冬樹
	サンタナ	スガシカオ	及川光博	石川さゆり
	SEX MACHINEGUNS	ピンク・レディー	フジコ・ヘミング	ブライアン・セッツァー
	SIAM SHADE	小野リサ	レミオロメン	ー・オーケストラ

	PENICILLIN	パパイヤ鈴木とおやじダ	スキマスイッチ	いきものがかり
	STARDUST REVUE	ンサーズ	モーニング娘。	秋川雅史
	SADS	トロカデロ・デ・モンテ	布袋寅泰	ゴスペラーズ
	DA PUMP	カルロバレエ団	コブクロ	MAX
	レスリー・チャン	グランディーパーバレエ団	リチャード・クレイダーマン	原信夫とシャープス&フラッツ
	bird	鶴岡雅義と東京ロマンチカ	倅田來未	flumpool
	宗次郎	氣志團	ORANGE RANGE	ザ・ブラターズ
	THE CONVOY	香西かおり	島津亜矢	Acid Black Cherry
	19(ジューク)	田村ゆかり	中島美嘉	Sound Horizon
	松たか子	Do As Infinity	PIERROT	UVERworld
	SING LIKE TALKING	綾戸智絵	DIR EN GREY	GLAY
	T. M. Revolution	女子十二楽坊	前川清	加納洋
	ドリーム・シアター	山崎まさよし	桂銀淑	SOPHIA
	ダリル・ホール&ジョン・オーツ	柳ジョージ&レイニウウッド	アンジェラ・アキ	Keith Jarrett
	鼓童	ウルフルズ	伍代夏子	松平健
	松浦亜弥	氷川きよし	早乙女太一	Gackt
	Skoop On Somebody	天童よしみ	矢井田瞳	SPITZ
	KICK THE CAN CREW	BUCK-TICK	AI	TULIP
	ポルノグラフィティ	倉木麻衣	くるり	坂本冬美
	石井竜也	ピーター	吉田兄弟	堺正章&井上順
	ペギー葉山	Salyu	DJ OZMA	the Gazette
	平井堅	清木場俊介	木村カエラ	ゆず
	RIP SLYME	シド	葉加瀬太郎	斉藤和義
	フォーリーブス	スフィア	ワハハ本舗	米倉利紀
	aiko	河村隆一	藤木直人	デフ・レパード
	イエス	FLAME/Lead	一青窈	森山直太朗
	東儀秀樹	安室奈美恵	矢沢永吉	クレイジーケンバンド
	吉井和哉	水森かおり	HY	桂三枝・春風亭小朝
	Aqua Timez	小池徹平		
2010	茅原実里	SPEED	ナオト・インティライミ	山下智久
	中村美律子	小沢健二	三浦大知	清水翔太
	THE BACK HORN	w-inds.	市川海老蔵	SF9
	GRANRODEO	氷室京介	豊崎愛生	back number
	KAmiYU	A. B. C-Z	Def Tech	絢香
	高橋優	KOTOKO	YUKI	DISH//
	SEKAI NO OWARI	いまいゆうぞう・はいだしょうこ	椎名林檎	エレファントカシマシ
	FIRE BALL	秋元順子	志村けん	山内恵介

	ソナーポケット	遊助	サカナクション	レキシ
	miwa	AAA	岡村靖幸	レペゼン地球
	瀬戸内寂聴	チャットモンチー	Block B	SKY-HI
	福山芳樹	ASIAN KUNG-FU	きゃりーぱみゅぱみゅ	さくら学院
	財津和夫	GENERATION	高城れに	ENDRECHRI TSUYOSHI
	UNISON SQUARE GARDEN	MISIA	KREVA	DOMOTO
	上坂すみれ	ゴールデンボンバー	U-KISS	Superfly
	レ・フレール	平原綾香	福田こうへい	JUJU
	AKB48	藍井エイル	NMB48	スカイピース
2020	ハラミちゃん	THE ORAL CIGARETTES	カネコアヤノ	梶浦由記
	三森すずこ	Saucy Dog	Gero	南條愛乃
	ファンキーモンキーベイビーズ	岡田奈々	EXILE SHOKICHI	ふぉ～ゆ～
	Little Glee Monster	Krist	清塚信也	BAND-MAID
	ずっと真夜中でいいのに。	A え！group	女王蜂	Rockon Social Club
	wacci	優里	超ときめき宣伝部	薬師丸ひろ子
	20th Century	男闘呼組	夏川椎菜	GENIC
	今市隆二	Uru	EGO-WRAPPIN'	
	BiSH	浜崎あゆみ	松本伊代・早見優・森口博子	
	純烈	高嶋ちさ子	SUPER JUNIOR-D&E	
	Aimer	milet	Ave Mujica	

3 これまでの公演（オペラ | バレエ | オーケストラ | 演劇など）

年	出演団体、出演者、公演名（抜粋、順不同、初回のみ掲載）	
1975	松竹大歌舞伎	神奈川県民謡連合会
	NHK 交響楽団	横浜みんよう会
	神奈川県合唱連盟	影沢藤峰会
	神奈川県芸術舞踊協会	ウィーン少年合唱団
	神奈川県民族舞踊協会	相模人形芝居連合会
	神奈川県吹奏楽連盟	神奈川フィルハーモニー管弦楽団
	神奈川県民族芸能協会	二期会
	日本舞踊協会神奈川県支部	チャイコフスキー記念 東京バレエ団
	横浜交響楽団	東京交響楽団
	川崎市民交響楽団	日本バレエ協会
	小田原フィルハーモニー交響楽団	東京フィルハーモニー交響楽団
	藤沢市民交響楽団	牧阿佐美バレエ団
	鎌倉交響楽団	フランス国立管弦楽団

	神奈川県民謡協会	團伊玖磨
	ドレスデン十字架合唱団	チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
	ミラノ・ピッコロ座	劇団四季
	モスクワ・アカデミー音楽劇場・同管弦楽団	ベルリン国立歌劇場
	ハンガリー少年少女合唱団	日本フィルハーモニー交響楽団
	英国ロイヤル・オペラ	パイプオルガン・プロムナードコンサート
1980	ワシントン・ナショナル交響楽団	ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団
	ロンドン交響楽団	日本オペラ振興会
	レニングラード・マールイ劇場バレエ	プラハ国立歌劇場
	スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団	佐藤しのぶ
	アルビン・エイリー舞踊団	フィラデルフィア管弦楽団
	ウィーン国立歌劇場	ドイツ・バッハゾリステン
	ロンドン・フィルハーモニック管弦楽団	ボストン交響楽団
	ベルリン国立歌劇場バレエ	シュトゥツガルト・バッハ合唱団 管弦楽団
	BBC 交響楽団	聖トーマス教会合唱団ゲヴァントハウス管弦楽団
	ベルリン国立歌劇場管弦楽団	クリスチャン・ツィメルマン
	ドレスデン国立歌劇場	ウラディーミル・アシュケナージ
	松山バレエ団	バリ島ブリアタン歌舞団
	ローラン・プティ バレエ団	中村紘子
	アメリカ・デフ・シアター	室内楽シリーズ
	読売日本交響楽団	現代音楽シリーズ「音楽の現在」
	ロサンゼルス・フィルハーモニック管弦楽団	中国昆劇団
	ウィーン国立フォルクスオーパー	パリ・オペラ座バレエ団
	バンベルク交響楽団	アントニオ・ガデス舞踊団
	アストル・ピアソラ五重奏団	スタニスラフ・ブーニン
	ニューヨーク・ハーレム・ダンス・シアター	ミハイル・バリシニコフ&カンパニー
	ソビエト国立ボリショイ・バレエ団	レニングラード・キーロフ劇場バレエ
	ソビエト国立交響楽団	ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
	ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団	エフゲニー・キーシン
	中国 越劇団	中国京劇団
	エンシェント室内管弦楽団	国立パリ管弦楽団
	ハンブルク国立歌劇場	クラウディオ・アラウ
	デンマーク王立管弦楽団	中国四川省川劇院
	国立モスクワ音楽外区劇場バレエ	オーストラリア・バレエ団
	パリ・ギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団	スペイン国立管弦楽団
	ベルリン・ドイツ・オペラ	キエフ・バレエ団
	スイス・ロマンド管弦楽団	ミラノ・スカラ座

	藤原歌劇団	アルフレッド・ブレンデル
	英国ロイヤル・バレエ団	モーリス・ベジャールバレエ団
	インド・四大舞踊	かながわゴールデンコンサート
	日本バレエフェスティバル	神奈川芸術舞踊協会
	ブラシド・ドミンゴ	横浜シティ・オペラ
	県民ホール寄席（1981-2023/第1回～第421回）	
1990	パリ・オペラ座バレエ学校	ゲーナ・ディミトロヴァ
	ボリショイ・オペラ	ミハイル・バリシニコフ
	ソビエト国立ペルミ・バレエ	国立ペルミ・バレエ
	アメリカン・バレエシアター	セント・マーチン・アカデミー管弦楽団
	レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団	中国安徽省徽劇団
	ドイツ・バッハ管弦楽団&合唱団	ラテルナ・マジカ
	セントルイス交響楽団	オールスター・バレエ・ガラ
	ジョルジュ・ドン	ハンブルグ・バレエ団
	ヴィア・ノヴァ弦楽四重奏団	中国京劇院
	シカゴ交響楽団	フィリップ・ドゥクフレ&カンパニー「SHAZAM!」
	シュツットガルト・バレエ団	小澤征爾
	レニングラード・バレエ・シアター	シルヴィ・ギエム
	神奈川県民ホールプロデュースオペラ團 伊玖磨作曲「素戔鳴」（1994）	英国バーミンガム・ロイヤル・バレエ ローザス
	バイエルン国立ゲルトナープラッツ劇場	マニュエル・ルグリ
	ソ連国立モイセイエフ・バレエ	フィレンツェ歌劇場
	モスクワ放送交響楽団	エフゲニー・キーシン
	中国吉林省吉劇団	ベラルーシ国立ボリショイバレエ
	ソ連国立レニングラード・キーロフ劇場バレエ	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 團 伊玖磨作曲オペラ「ひかりごけ」（1996）
	ベルリン・コーミッシェ・オーパー	
	カナダ・ナショナル・バレエ	大野一雄
	国立ワガノワ・バレエ学校	新日本フィルハーモニー管弦楽団
	ルジマートフ	勅使河原三郎+KARAS
	ネザーランド・ダンス・シアター	神奈川県民ホールプロデュースオペラ プ ッチーニ「蝶々夫人」（1997）
	首都オペラ	
	サンクトペテルブルク マリインスキー劇場	熊川哲也 K バレエカンパニー
	中国四川省・芙蓉花川劇団	ウィーン・カンマー・オペラ
	ソ連国立モイセイエフ・バレエ	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 一柳 慧作曲オペラ「モモ」（1998）
	ライプツィヒ聖トーマス教会合唱団	
	ニーナ・アナニアシヴィリ	オラトリオ「天地創造」
	ケルン・オペラ	モナコ公国モンテカルロ・バレエ団

	ポーランド国立ワルシャワ室内歌劇場	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 「三文オペラ」(1999)
	錦織健プロデュースオペラ	
	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団	
2000	DAN YEAR 2000	ボヘミア・オペラ チェコ国立プルゼーニュ歌劇場
	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 團 伊玖磨 作曲「ちゃんちき」(2000)	上海歌舞団
		吉田都 夏休みバレエ・マスタークラス
	小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト	團伊玖磨メモリアル開館 30 周年記念コンサート つづく未来へ「筑紫賛歌」
	イタリア・ベッリーニ大劇場	
	カナディアン・バロック・オペラカンパニー	神奈川県民ホールプロデュースオペラ ー柳慧 作曲 辻井喬台本「愛の白夜」(2005)
	デンマーク・ロイヤル・バレエ団	
	ボルドー・オペラ座バレエ	フランス国立リヨン・オペラ座バレエ団
	キーロフ・バレエ	ベルガモ・ドニゼッティ劇場
	ベルリン国立歌劇場	スペイン国立ダンスカンパニー ナチョ・デュアト
	メトロポリタン・オペラ	ファンタスティック・ガラコンサート (2007-2024)
	バイエルン国立歌劇場	ベンジャミン・ブリテン「戦争レクイエム」
	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 林 光 作曲「白墨の輪」(2001)	ドレスデン国立歌劇場ゼンパーオーバー
		ブルガリア国立ソフィア・オペレッタ
	スターダンサーズ・バレエ団	チェコ国立ブルノ歌劇場
	インバル・ピント・カンパニー「オイスター」	共同制作オペラ「リゴレット」(2007)
	鮫島有美子	共同制作オペラ「ばらの騎士」(2007)
	ワシントン・オペラ	ジョン・ノイマイヤー/ハンプルク・バレエ
	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 三 善晃 作曲 支倉常長「遠い帆」(2002)	デボラ・コルカー・カンパニー
		ザハーロワ
	日韓文化交流 高木東六 作曲 オペラ「春香」	マリンスキー・バレエ
	日韓交流ミュージカル「GAMBLER」	神奈川県民ホールプロデュースオペラ ー柳慧 作曲 辻井喬台本「愛の白夜」(2009) 改訂決定版
	アール・ゾイド上映「メトロポリス」	
	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 林 光 作曲「白墨の輪」(新演出)(2003)	共同制作オペラ「トゥーランドット」(2008)
		共同制作オペラ「ラ・ボエーム」(2009)
2010	トリノ王立歌劇場	神奈川県民ホールプロデュースオペラ ー 柳慧 作曲「水炎伝説」(2014)
	ミハイロフスキー劇場バレエ	
	一柳慧プロデュース「千年の響き」	共同制作オペラ「タンホイザー」(2011)
	森下洋子舞踊 60 周年記念松山バレエ団 「くるみ割り人形」全幕	神奈川県民ホールプロデュースオペラ 「金閣寺」(2015)
	青島広志のたのしい名作オペラ講座	開館 40 周年記念オルガン・ガラコンサート (2015)
	神奈川県民ホールオープンシアター	團伊玖磨 作曲「夕鶴」
	神奈川県民ホールプロデュースオペラ ー柳慧 作曲「ハーメルンの笛吹き男」(2012)	横浜バレエフェスティバル
		バットシェバ舞踊団

	ハンガリー国立歌劇場	ローマ歌劇場
	上野水香 特別バレエ・ワークショップ	一柳慧×白井晃「Memory of Zero」(2019)
	Jewels from MIZUKA	チェンバロの魅力
	共同制作オペラ「椿姫」(2012)	共同制作オペラ「さまよえるオランダ人」(2016)
	共同制作オペラ「ワルキューレ」(2013)	共同制作オペラ「魔笛」(2017)
	共同制作オペラ「アイーダ」(2018)	共同制作オペラ「カルメン」(2019)
2020	一柳慧芸術総監督就任 20 周年記念「Toshi 伝説」	神奈川県民ホール開館 50 周年記念オペラシリーズ
	東京 2020NIPPON フェスティバル 能「船弁慶」よりオペラ「静と義経」	vol.1 ロバート・ウィルソン・フィリップ・グラス 「浜辺のアインシュタイン」(2022)
	共同制作オペラ「トゥーランドット」(2020)	C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅
	横浜バレエフェスティバル	NDT[ネザーランド・ダンス・シアター]
	神奈川県民ホール開館 50 周年記念オペラシリーズ vol.2	舞台芸術講座
	S. シャリーノ作曲「ローエングリン」(2024)	CX Organ

4 これまでの展示（展覧会など）

年	団体、作家、展覧会名など（抜粋、順不同、初回のみ掲載）
1975	第 10 回神奈川県美術展（1975-2024、第 10 回-第 59 回）
	現代彫刻 6 人展（翁譲、木下宏、酒井信次、高橋マスオ、建畠朔弥、山下直樹）(1975)
	現代作家グループ展（島州一、澄川喜一、栃木順子、渡辺豊重）(1975)
	第 5 回神奈川県青年美術展（第 5 回-6 回）
	現代作家グループ展（田沢茂、藤田昭子、船坂芳助）
	第 1 回神奈川県国際版画アンデパンダン展（1975-1997、第 1 回-19 回）
	現代作家シリーズ展（木村一生、斉藤寿一、馬場禱男）※同シリーズは 1999 年まで継続（1976）
	大山鎮（1976）
	日本現代工芸美術展（1975-2024）
	島田謹介（1977）
	鎌田恵子、泉谷淑夫、金子典義（1977）
	現代作家シリーズ展（工藤甲人、斉藤義重、最上寿之）(1977)
	現代作家シリーズ展（堀文子、大沢昌助、建畠覚造）(1978)
	現代作家シリーズ展（田中岑、堀内正和）(1978)
	現代作家シリーズ展（村井正誠、小野木学）(1979)
1980	開館 5 周年現代彫刻の歩み展-41 人の作家による戦後彫刻の足跡-（1980）（荒木高子、飯田善国、池田宗弘、一色邦彦、伊藤隆道、井上武吉、植木茂、丑久保健一、江口周、加藤昭男、河口龍夫、木内克、木村賢太郎、清水九兵衛、小清水漸、小畠廣志、桜井祐一、佐藤忠良、篠田守男、篠原有司男、新宮晋、関根伸夫、田中薫、辻晋堂、土谷武、豊福知徳、中西夏之、福岡道雄、福島敬恭、三木富雄、向井良吉、八木一夫、保田春彦、柳原義達、山口勝弘、山口牧生、山本衛士、山本正道、吉村益信、淀井敏夫、米林雄一）

	現代作家シリーズ展（岡本信治朗、中島清之、山口勝弘）（1981）
	現代作家シリーズ展（土谷武、難波田龍起、由木札）（1982）
	現代作家シリーズ展（井上玲子、勝呂忠、深沢幸雄）（1984）
	開館 10 周年現代彫刻の歩みー木の造形（1985）（圓鋸勝三、桜井祐一、佐藤玄々、澤田正廣、新海竹蔵、橋本平八、平櫛田中、阿井正典、飯田善国、植木茂、丑久保健一、江口週、榎倉康二、海老塚耕一、遠藤利克、桂ゆき、角永和夫、加納光於、加茂博、河口龍夫、菊畑茂久馬、北山善夫、倉重光則、剣持和夫、小清水漸、小島廣志、昆野恒、斎藤義重、管木志雄、管創吉、管沼緑、鈴木実、砂澤ビッキ、澄川喜一、関根伸夫、高松次郎、高山登、田窪恭治、竹田康宏、建畠寛造、田中栄作、田辺光彰、辻耕治、辻晋堂、勅使河原蒼風、富樫実、富松考侑、戸谷成雄、豊福知徳、中川久嗣、流政之、橋本典子、福岡道雄、ふじい忠一、保科豊巳、真板雅文、向井良吉、最上寿之、空田たけを、八木正、藪内佐斗司、米坂ヒデノリ、米林雄一、李禹煥、若林奪、脇田愛二郎、渡辺豊重）
	現代作家シリーズ（新宮晋、田辺和郎、早川重章）（1986）
	第 1 回神奈川アートアニュアル（1987-2001）（井上雅之、内海信彦、神山明、金昌永、剣持和夫、後藤尚子、斎藤史門、諏訪直樹、野村和弘、平野米三、藤山貴司、柳幸典、山田恵子、渡辺良雄）
	第 2 回神奈川アートアニュアル（青木敦、青木恵子、大北利根子、勝又豊子、白岩繁夫、津田佳紀、中上清、マダンラル、宮前正樹、吉川陽一郎）
	現代作家シリーズ（石井厚生、稲葉治夫）（1988）
	現代作家シリーズ（上野憲男、砂澤ビッキ、吹田文明）（1989）
	第 3 回神奈川アートアニュアル（オノヨシヒロ、笠原恵実子、五井毅彦、三枝孝司、佐藤俊造、高橋勉、高橋洋子、瀧本貞夫、奈良巖、平林薫、望月志郎、八柳尚樹、渡辺明）
1990	開館 15 周年記念 現代彫刻の歩みⅢ 1970 年代以降の表現ー物質と空間の変容（1990）（青木野枝、岩本宇司、海老塚耕一、遠藤利克、岡崎乾二郎、岡本敦生、神山明、北辻良央、橋田尚之、國安孝昌、黒川弘毅、黒藤壮、剣持和夫、小清水漸、島剛、島田忠幸、白川昌生、土屋公雄、戸谷成雄、中原浩大、西雅秋、橋本夏夫、深井隆、舟越桂、舟越直木、松井紫朗、村岡三郎、尹熙倉、吉川陽一郎、吉野辰海）
	現代作家シリーズ（松本旻、楠本正明、橋本正司）（1991）
	神奈川アートアニュアル（井口大介、内倉ひとみ、岡本禎子、カナイヒロミ、菊谷直美、庄司恵、鈴木省三、中谷欣也、難波京子、蓑田貴子、森脇隆赫、朴元姫、劉明均）
	世界の版画イン・カナガワ（1991）（ミレナ・サブレバ、オールドジフ・クルハーネック、イー・アンデレー、ヴェロニカ・パレチコパー、イザベラ・グストウスカ、レスワフ・ミスキェヴィッチ、マクシミリアン・スノフ、マルチン・スズイツキー、イエメツ・アンドレ、ミロスラフ・シュティ、小枝繁昭、爲金義勝、日向野桂子、宮井里夏、山口啓介）
	現代作家シリーズ（掛井五郎、吉永裕）（1992）
	神奈川アートアニュアル（伊東直昭、岩川ユキヒロ、岡本敦生、小川保司、木村裕、倉重光則、さかぎしよしお、高井叡子、津田竜之介、中川猛、広田美穂、H et H）
	現代作家シリーズ（小本章、森口宏一）（1993）
	神奈川アート・アニュアル' 93（小野皓一、加茂博、郡田政之、塩野麻里、鯨津朝子、中島敏行）
	コンテンポラリー・アート・ナウ（1992-1996）

	世界の版画イン・カナガワ（1993）（エディ・スルナヨ、ピティワット・ソムタイ、ターウォーンコ＝ウドムウィット、ウウィラポンパードーンサック、ウィチット・アピチャートクリアンクライ、黄郁生、楊成愿、楊明迭、鄭美咲、鄭園撒、李珉、宗大燮、尹東天、陳琦、蘇新平、周至禹、ファウザン・オマール、飯塚二郎、高浜利也、出店久夫、濱田弘明、平井素子）
	現代作家シリーズ（岡部昌生、北山善夫）（1993）
	神奈川アート・アニュアル' 94（石田眞利、大岩オスカル幸男、大村雄一郎、加藤力、金子友紀、倉橋元治、滝波重人、塚原奈緒子、服部昌樹、服部正志、藤枝柚実、村井俊二）
	ザ・版画（刻まれた現代史 世界の版画・戦後 50 年展/第 18 回神奈川国際版画アンデパンダン展/神奈川版画アートラリー/国際版画チャリティーオークション）（1995）
	現代作家シリーズ（遠藤彰子、島谷晃）（1996）
	神奈川アート・アニュアル' 96（市野泰通、井上リサ、小川百合、片岡操、小林孝亘、今道子、佐藤邦生、鈴木哲弥、関直美、平林りえ、藤澤江里子、三沢厚彦、山内隆）
	現代作家シリーズ〔西雅秋、山本直彰〕（1996）
	神奈川アート・アニュアル' 97（石上和弘、石毛千穂、河合勇作、棚田康司、辻忍、菱山裕子、房拓、松下ユリ子、三梨伸、森田多恵、諸泉茂、山口啓介）
	ザ・版画（1997）（棟方志功 祈りのかたち展/第 19 回神奈川国際版画アンデパンダン展/神奈川版画アートラリー）
	神奈川アート・アニュアル' 98（浅見貴子、小野友三、勝田素子、木村太陽、剣持啓子、斎藤美奈子、田中太賀志、向山武志、母袋俊也、吉田亜世美、若月公平、渡邊清介）
	神奈川国際版画トリエンナーレ（1998-2001）
	菅木志雄 展（1998）
	オリビエ・ドゥクフレ
	大成浩 展（1999）
	現代作家シリーズ（清水伸、田辺光彰）（1999）
2000	神奈川アート・アニュアル' 2000（阿部佳明、市川美幸、今井紀彰、鶴飼美紀、小河朋司、大森崇、片平隆行、金澤一水、川田祐子、谷山恭子、樋口健彦、平町公）
	ミレニウム・グラフィカ 2000 国際版画展 イン ヨコハマ
	池上直哉 舞台写真展「舞踏家 大野一雄の世界」（2000）
	国際現代美術展「波動 1999～2000」
	広瀬飛一写真展「人間 團伊玖磨」（2000）
	ウクライナ 神話の真実
	不協和音の視点（松川寛、大谷早苗、川城夏未、知多秀夫）
	石空間（大成浩ほか）
	神奈川—アート・アニュアル 2001（飯島浩二、井上尚子、景山健、春日聡、河田政樹、清岡正彦、長沢明、仁木智之、村上慎二）
	小沢剛のトンチキハウス（ヨコハマトリエンナーレ 2001 関連事業）
	シデロイホス・ワークショップ
	ロシア・アヴァンギャルド「演劇の十月」シンポジウム（2002）

THE CITY OF THE FINAL 記念 日韓〇「円周のない円」
江戸の賑わい・神奈川の風景 平木浮世絵コレクションによる (2002)
PEACE ART 21 LIFE MASK 2002 JAPAN-KOREA
FOCUS 2002 vol.1 (笠原出、春日聡、小林正人、砂澤ビッキ、沼田元気)
FOCUS 2002 vol.2 (海老塚耕一)
21 世紀実験劇場 シリーズ演劇の十月 2 天烈喜歌劇 ミステリア・ブッフ (2003)
FOCUS 2003 青い浸蝕 倉重光則 展
フィリップ・ジャメ「世界中の都市を巡る—ダンスする肖像」(2003)
今井アレクサンドルー万枚展「二万枚への道程」
ちかげきじょう 小野憲一 個展/ワークショップ/ポエトリーリーディング (2004)
フラット・プラット「The Far West Near East」
SIGMS Computer Music Symposium2004
コンピューターグラフィックス展 アジアグラフィック 2004
dance today 11 ダンスをめぐる風景展
現代彫刻の歩みⅣ モノづくりの逆襲 (2004)
大人のための子供の劇場Ⅲ
META 展 (2005-2025 各年で 10 回開催)
こどもの時に見た夢 2005 こどもだけの CG 作品展
第 12 回 EU ジャパンフェスト 写真プロジェクト「日本に向けられたヨーロッパ人の眼/ジャパントゥデイ」
陶による大地の恵みを謳う 自然の息吹とかたち 杉浦康益展
石空間展 5 現代彫刻幸福論 (2005)
ASIAGRAPH 2006 yokohama
スーパーエクスタシー 至福への旅路 (2006)
県民ホールギャラリー所蔵国際版画展
ドラマリーディング公演「無頼キッチン BRAY KITCHEN」
演劇ネットワーク事業「親指こぞう—ブケッティーノ」
神奈川国際アニメーション映像祭
生きてる美術
神奈川・チェコ版画交流展
塩田千春展「沈黙から」(2007)
塩田千春展&アート・コンプレックス/シリーズ「…響きへ。」(シンポジウム: 針生一郎、一柳慧、北川フラム、塩田千春) / パフォーマンス [寒川晶子、足立智美、塩田千春] / ライブツィヒ弦楽四重奏団/多和田葉子×高瀬アキ DUO「音の間 ことばの魔」/コンスタンツァ・マクラス&ドーキー・パーク/ヴァレリー・アファナシエフ (ピアノ))
小金沢健人展「あれとこれのあいだ」(2008)
和田守弘 走り去った美術家の航跡 1967-2006
デザインの港 浅葉克己展

	日常／場違い（雨宮庸介、泉太郎、木村太陽、久保田弘成、佐藤恵子、藤堂良門）（2009）
	アート・コンプレックス／「時の庭」首藤康之、中村恩恵、青木尚哉／「聲明」木戸敏郎、天台聲明音律研究会／橘家圓太郎と春風亭一之浦
2010	泉太郎展「こねる」（2010）
	アート・コンプレックス／一柳慧×山下洋輔×有馬純寿 スーパーセッション
	OVER TONE「美術の地上戦」
	日常／ワケあり（江口悟、田口一枝、播磨みどり）（2011）
	アート・コンプレックス／ジョン・ケージ生誕 100 年 せめぎあう時間と空間（一柳慧、北村明子、亀井庸州、寒川晶子、田口一枝）
	さわ ひらき Whirl（2012）
	日常／オフレコ（青田真也、安藤由佳子、梶岡俊幸／佐藤雅晴、八木良太）（2014） ※県民ホール改修のため KAAT 中スタジオで開催
	アート・コンプレックス／つむぎねパフォーマンス「さく」
	八木良太展「サイエンス／フィクション」（2014）
	アート・コンプレックス／「タイムトラベル」岩淵貞太、八木良太、蓮沼執太
	鴻池朋子「根源的暴力」（2015）
	アート・コンプレックス／「異界婚姻譚～同じものではいられない」山川冬樹、鴻池朋子、村井まや子
	5Rooms—感覚を開く 5 つの個展（出和絵理、染谷聡、小野耕石、齋藤陽道、丸山純子）（2016）
	オープンシアター2016／富田菜摘展（動物たちのカーニバル）
	大巻伸嗣 Memorial Rebirth ※県民ホール改修のため屋外広場で開催（2017）
	オープンシアター2018/203gow 展「へんなあみもの おかしなおかしの家」
	5Rooms II—けはいの純度（和田裕美子、橋本雅也、七瀬綾乃、スコット・アレン、大西康明）（2018）
	オープンシアター2019／ワタリドリ計画 麻生知子、武内明子「ワタリドリの湖 旅する鳥々」
	やなぎみわ展「神話機械」（2019）
	やなぎみわ展関連企画／ライブパフォーマンス「MM」
2020	大山エンリコイサム「夜光雲」（2020）
	大山エンリコイサム／チェンバロと笙による「音幻」『Toshi 伝説』
	オープンシアター2021／對木裕里「手のたび ではいっておいで」
	「ことばのかたち かたちのことば」（ミヤケマイ、華雪）（2021）
	ドリーム／ランド（青山悟、枝史織、角文平、笹岡由梨子、林勇気、山崎雷蔵、シンゴ・ヨシダ）（2022）
	サウンドアート展「とけあうひびき」
	味／処（今村遼佑、川田知志、倉知朋之介、さとうくみ子、澤田華、丸山のどか）（2023）
	オープンシアター2024／「みんなの空き地」（石原陸郎、牛木実、小野耕石、くろば亭 おやじ、早川幸子）
	眠れよい子よ よい子の眠る／ところ（市川友章、岩谷雪子／多和田有希、中瀬由央、ひがれお）（2024）
	META 2025